

伊勢志摩サミット三重県民会議第4回役員会

事項書

日時：平成28年2月17日（水）

14:45~15:45

場所：ホテルグリーンパーク津 藤・萩の間

1. 開会

2. 審議事項

- (1) 事業計画について（案）
- (2) 寄附金を財源としたポストサミット関連事業について（案）
- (3) 県民会議収支予算について（案）

3. 報告事項

- (1) 100日前ウイークリイベントについて
- (2) 第2回住民懇話会の開催について
- (3) 宿泊施設の状況について
- (4) サミット経済効果試算の考え方について
- (5) 応援、協賛、寄附の申込状況等について
- (6) 全体スケジュールについて

4. その他

5. 閉会

【配布資料】

- ・資料 1 : 伊勢志摩サミット三重県民会議 事業計画（案）
- ・資料 2 : 寄附金を財源としたポストサミット関連事業について（案）
 - ・ (参考) 三重県ポストサミット関連予算の概要
- ・資料 3 : 県民会議収支予算（案）
 - ・ (参考) 三重県サミット関係予算の全体像
- ・資料 4 : 100日前ウィークイベントについて
- ・資料 5 : 第2回住民懇話会の開催について
- ・資料 6 : 宿泊施設の状況について
- ・資料 7 : サミット経済効果試算の考え方について
- ・資料 8 : 協賛、応援、寄附の申込状況等について
- ・資料 9 : 伊勢志摩サミット開催に向けた全体のスケジュール

- ・参考資料 1～16 : 県民会議各事業について
 - 【1】宿泊予約センターについて
 - 【2】配偶者プログラムについて
 - 【3】ジュニアサミットについて
 - 【4】シンボルマークの作成について
 - 【5】伊勢志摩サミットフォーラムの開催について
 - 【6】県産食材等の利用促進に向けた取組について
 - 【7】弁当供給体制の整備について
 - 【8】おもてなし大作戦について
 - 【9】ホームページ・SNSのリニューアル及び運営について
 - 【10】公式ポスターの展開について
 - 【11】カウントダウンボード・ノベルティを活用したPR展開について
 - 【12】プレス等を活用した情報発信の展開について
 - 【13】三重県情報館（仮称）について
 - 【14】三重県情報誌及びプレス用ハンドブックの作成について
 - 【15】多様な主体における国際理解・国際交流事業について
 - 【16-1】インフォメーション機能の整備について
 - 【16-2】外国語案内ボランティアについて

- ・旅行サイトへの口コミ投稿協力のお願いについて（観光局）

平成28年2月17日
伊勢志摩サミット三重県民会議事務局

伊勢志摩サミット三重県民会議 事業計画（案）

1 「開催支援」に関すること

◆ 伊勢志摩サミット宿泊予約センターの設置（事業番号1）

サミット開催時に集中的に来県する関係者に対し、宿泊先となるホテル等を安定期かつ効率的に確保し、宿泊に関するサービスを一元的に提供するとともに、宿泊施設に対するサミット関係者受け入れにあたってのサポートや三重県の観光振興に係る取組などを行う伊勢志摩サミット宿泊予約センターを設置する。

◆ 配偶者プログラムの提案（事業番号2）

首脳会議が1泊2日で予定されていることから、その期間内で実施することを想定し、テーマ性やストーリー性を持たせた訪問先やコンテンツを総合的に検討し、三重県の魅力がプログラムに盛り込まれるよう、国への提案を行う。

◆ 県産食材等の利用促進に向けた取組（事業番号6）

全県をあげて、質の高い県産食材等をリストアップし、サミットにおける国の公式プログラムやレセプション等のほか、プレスツアー等の行事の食事メニューにおいて採用されるよう、県産食材等の活用を国や関係ホテル等に対して積極的に提案する。

◆ 弁当供給体制の整備（事業番号7）

伊勢志摩サミットの開催に際して、警備、消防、医療、現地スタッフ等に対し、安全・安心かつ美味しい食事を大量に継続して提供するための体制を整備し、関係者用の受注窓口を設置する。三重県産食材の使用も含めて検討を行う。

◆ インフォメーション機能の整備（事業番号16）

世界各国からの来訪者をおもてなしの心でお迎えするため、外国語案内ボランティアを幅広く募集し、地元市町・団体等との協力により、空港や駅等における移動支援・観光案内等のインフォメーション機能を提供する。

◆ 輸送サービスの円滑な提供（別紙参照）

報道関係者のセントレアと宿泊ホテル間の移動等を円滑にするため、公共交通機関（鉄道・路線バス・高速船など）による移動を補完するシャトルバスを運行するなど、外務省と連携・協力して関係者の移動支援を行う。

◆ 警備関係への協力や住民への情報提供

地元市町等と調整のうえ、住民懇話会を開催し、サミットに関する情報を、地元関係団体・住民に提供し、伊勢志摩サミット開催に対する理解促進と機運醸成、警備体制の理解を求め、住民が有する疑問や課題の解決を行う。

◆ 公式行事に伴う歓迎交流（別紙参照）

歓迎行事を国等と連携して実施し、来県する各国首脳等に、歓迎の意を表明する。

県民（特に子どもたち）が各国首脳と触れ合う機会をつくるため、交流行事を検討する。

◆ 伊勢志摩サミットの開催機運を盛り上げるためのレセプション開催

サミット関係大使館等を招き、サミットの開催機運を盛り上げるとともに三重の魅力を伝えるため、レセプションを開催する。

2 「おもてなし」に関すること

◆ 機運醸成に向けたサミットフォーラムの開催（事業番号5）

伊勢志摩サミットへの理解を深め、開催機運を醸成するため、「おもてなし」「明日へつなぐ」「三重の発信」などを県民とともに考えるサミットフォーラムを開催する。

◆ クリーンアップ活動・花いっぱいおもてなし運動の実施（事業番号8）

世界各国からの来訪者に対し、県民の歓迎の意を表現するとともに、一人でも多くの県民が来訪者歓迎に関わるため、全県的に環境美化・清掃活動、飾花運動を行う。キックオフイベントを行うことで県民参加による伊勢志摩サミット開催の機運醸成や参加意識の向上を目指す。

◆ カウントダウンボード、ノベルティを活用したPRの実施（事業番号11）

伊勢志摩サミットに向けて、協賛事業も活用しながら県内外の各地にカウントダウンボードを設置することで、伊勢志摩サミット開催の機運醸成を目指す。

関係閣僚会合や三重テラス等PR効果の高い県外でのイベントや三重県で開催される全国大会等において、ポストカード等の各種PRツールを用いて幅広く周知を行う。

◆ おもてなし向上研修などの実施（事業番号 16）

世界各国からの訪問者に満足いただけるおもてなしを行うとともに、国際観光地としてレベルアップのため、各市町の観光協会・観光案内所等の職員向け、及び、飲食店や宿泊施設など生活衛生関係営業向けに、外国人旅行者に対応するための接遇等研修を実施する。

3 「明日へつなぐ」に関すること

◆ ジュニア・サミットの開催（事業番号 3）

三重の魅力の発信や明日へつながる交流を残すため、三重県開催が決定したジュニア・サミットについて、三重県の独自性を生かすとともに、県内高校生が参加者と交流できる機会を可能な限り設定したプランを国に提案する。

◆ 多様な主体における国際理解・国際交流事業の開催（事業番号 15）

サミットの開催を契機として、サミット参加国について学ぶ機会を設け、学校や市町、民間企業・団体等、多様な主体が、国際理解・国際交流を深める機会を提供する。特に次代を担う子どもたちが多文化を理解し、国際的な視野や感覚を身に付けるきっかけとすることで、明日を担う世代の育成を目指す。

◆ 大学生・留学生との交流事業

サミット開催を機に、サミット開催地・三重県に、県外大学生や留学生等を招へいし、県内大学生、留学生との交流機会を設ける。

◆ サミット記録誌の発行(別紙参照)

伊勢志摩サミットの準備から開催経過、県民会議や市町等の取組をまとめて記録誌として刊行し、サミット後の県や市町の施策展開や民間企業等の取組に役立てる。

◆ サミット記念館の設置(別紙参照)

県民の方々や伊勢志摩地域を訪れる方々にサミットの様子やサミットの際に使用された調度品・県産材の紹介を行い、サミットを契機とした三重のPRを継続して行うための、サミット記念館を設置する。

4 「三重の発信」に関するここと

◆ シンボルマークの制定（事業番号4）

県民会議や県民会議の活動に賛同する多くの県民が自由に使用できる県民会議としてのシンボルマークを独自に作成し、広報活動に活用することで伊勢志摩サミット開催の機運醸成を行う。シンボルマーク作成にあたっては、北勢きらら学園在校時の作品が2008年の北海道洞爺湖サミットのロゴマーク公募で最優秀作として採用された近藤氏に依頼し、北海道洞爺湖サミットの経験を伊勢志摩サミットの成功と三重県の明日へつないでいく、また、多様な主体に参画いただくことを、県民会議からの強いメッセージとして発信する。

◆ ロゴマーク募集事業への協力依頼（事業番号4）

伊勢志摩サミット開催の機運醸成のため、県内学校等に向けて国のロゴマーク募集事業への積極的な協力を依頼する。

◆ ホームページ、SNSでの発信（事業番号9）

ホームページ、Facebook、Twitterを活用し、県民会議の取組、三重の魅力やサミットに向けた情報を効果的に幅広く発信する。

◆ ポスター、リーフレット、チラシ等によるPRの実施（事業番号10）

伊勢志摩サミット開催の機運醸成と県民意識の醸成を表現するため、「起・承・転・結」の構成とする「伊勢志摩サミット2016」ポスターを第5弾まで作成し、多くの人々に伊勢志摩サミットの三重県開催のPRを実施する。

◆ プレス等を活用した情報発信（事業番号12）

国内外のメディアに三重県を取材する機会を提供し、三重県ならではの体験や三重県の多彩なコンテンツを体感いただき、三重県の魅力を国内外へ発信することで、三重県の認知度を高め、ブランドイメージの確立・浸透を図るため、プレスツアー等を実施するだけでなく、プレスツアーへの参加を呼び掛けるイベントを開催する。

◆ 海外メディア等でのPR（別紙参照）

伊勢志摩サミット開催を千載一遇の機会ととらえ、サミット開催地である三重県の様々な魅力を、海外メディアを通して発信することで、三重県の認知度を高め、サミット後のインバウンドの増やMICEの誘致、県産品の販売増などにつなげる。

◆ 三重県情報館（仮称）の設置（事業番号13）

国際メディアセンター内に、国内外から来県する多数の報道関係者等を通じて、三重県の魅力を国内外に発信するための拠点として「三重県情報館（仮称）」の設置を要望し、日本の中の「地方」の代表として三重県の伝統・文化、食、技術などの魅力を発信する。

◆ 三重テラス、関西事務所など県外でのイベント等の展開

伊勢志摩サミット開催及び開催地である三重県の全国的な発信のため、三重テラス等にて、2016年伊勢志摩サミット開催に向けたイベント等を展開するとともに、関係閣僚会合開催県と連携を図り、双方のP.Rを行う。

◆ 海外ミッションの機会等を利用したP.Rの実施

三重県での伊勢志摩サミット開催をアピールするとともに、三重県の知名度向上を図るため、海外ミッションにて伊勢志摩サミットに関するP.Rを実施する。



平成28年2月17日
伊勢志摩サミット三重県民会議事務局
開催支援課

プレス用シャトルバス運行について(案)

1 目的

伊勢志摩サミットの取材のため海外から来県する報道関係者が、セントレア・宿泊ホテル間の公共交通機関による移動にあたって感じる負担や不便を軽減する。

2 取組内容

(1) 移動支援

- ① 津なぎさまちと海外プレスの宿泊先ホテルを結ぶ無料シャトルバスを運行する。
- ② 航空機の発着が集中する時間帯について、津エアポートライン(高速船)を増便運航を依頼する。

(2) 運行計画

① シャトルバス

・往路〔5月24日・25日〕

津なぎさまち発で、津地区・松阪地区・伊勢地区・鳥羽地区・龜山地区の5地区へ高速船の到着時間に合わせて運行(津なぎさまち発 11:00~23:00 の間に11便)。

・復路〔5月28日〕

上記5地区発、最寄の鉄道駅を経由し津なぎさまちに着くバスを高速船出発時間に合わせて運行(津なぎさまち着 5:30~18:30 の間に12便)

② 津エアポートライン(高速船)

5月24日・25日・28日の期間で、航空機の発着が集中する時間帯に接続する高速船について、通常1便運航のところを2便運航(各日5便増)及び通常運航しない時間帯に1便運航。

(3) 取組方針

- ① 海外プレスに対し、セントレア・宿泊ホテル間の移動について、高速船利用ルートを推奨する。
- ② 津エアポートライン及びシャトルバスでの移動中に効果的な三重の情報発信を行う。

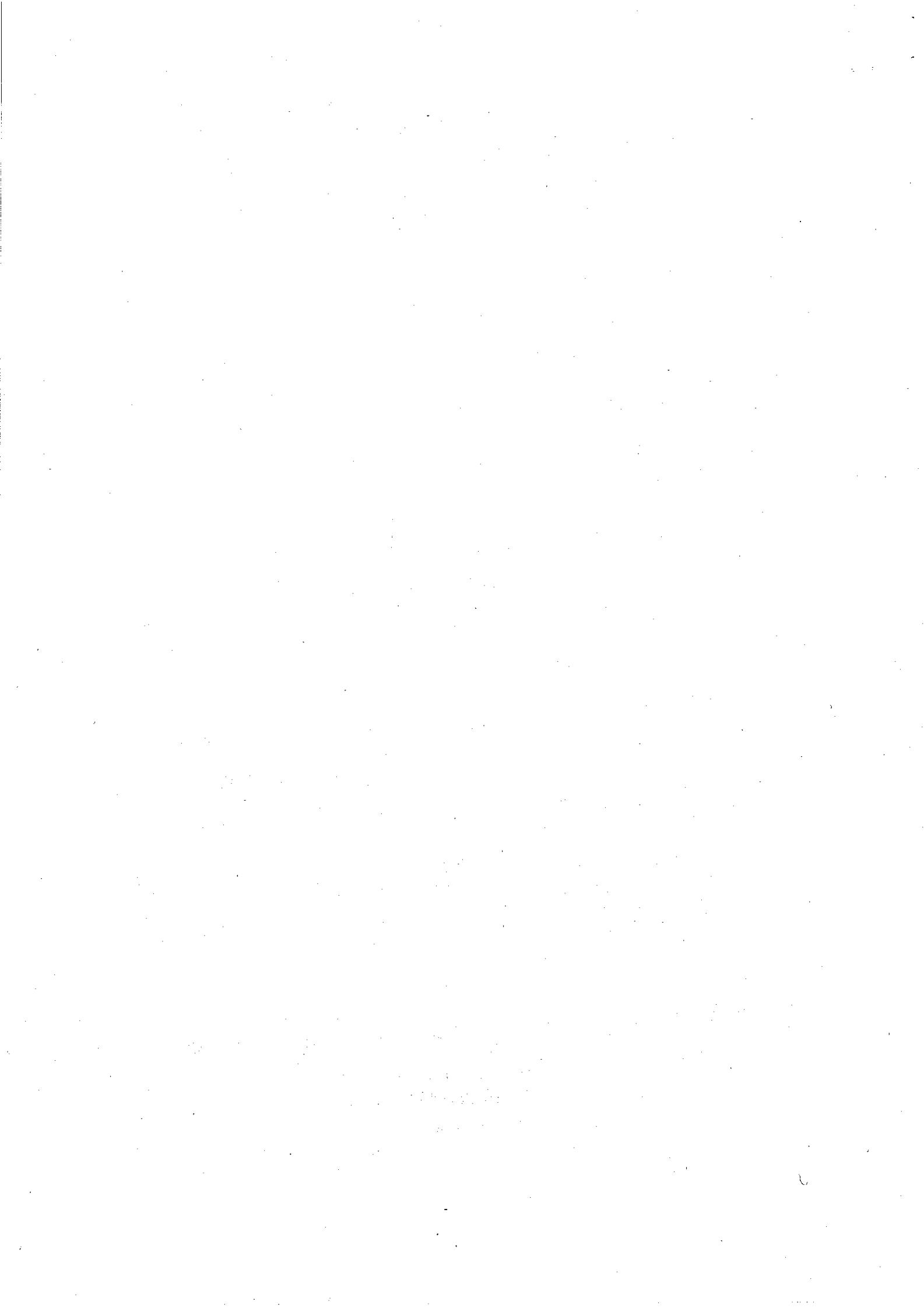
3 今後のスケジュール

平成28年2月 シャトルバス運行計画案作成、高速船運航依頼・調整

3月 バス運行事業者への業務委託

4月 シャトルバス運行計画決定

5月 シャトルバス運行実施



平成28年2月17日
伊勢志摩サミット三重県民会議事務局
開催支援課

各国首脳等と県民との交流について
～「世界との絆づくり」～

1 事業の概要

地域の国際化や情報発信の促進、学生や子ども達のサミットへの参加意識の高揚、各国と地域の一層の関係強化につなげるため、伊勢志摩サミット開催前後に、来県される各国首脳等や配偶者に県内市町等を訪問していくいただき、姉妹都市関係、大学間協定をはじめとする歴史、文化、教育、産業などのつながりを踏まえた、記念事業、伝統文化の紹介など、地域住民との交流プログラムを実施する。

2 取組方針

(1) サミット参加各国等と県内市町及び県内高等教育機関とのつながり

県内市町及び県内高等教育機関（以下、「県内市町等」。）とサミット参加各国等とのこれまでのつながりや、未来に向けた関係強化の動きを生かした交流を実施する。

(2) 一層の関係強化、地域の伝統文化、特産品の発信

交流にあたっては、サミット参加各国等の歓迎等に加え、県内市町等とサミット参加各国等の一層の関係強化につながる内容とし、かつ、機会を捉えた地域の伝統文化、特産品の発信を実施する。

(3) 県と県内市町等との連携

交流プログラムの立案、調整、実施に際しては、県及び県民会議と県内市町等で連携して実施する。

3 進め方

各国首脳等や配偶者と県民との交流実現に向け、県内市町等から提案いただいた交流プログラム案を基に各国に対し働きかけを行う。

※交流プログラム案について、セキュリティ等の観点から内容等は非公表。

参考

G7各国と市町との姉妹(友好)都市提携の状況

国	州・市	市町	提携年月
アメリカ	ロングビーチ市(カリフォルニア州)	四日市市	1963年10月
	ベルフォンテン市(オハイオ州)	鈴鹿市	1991年 8月
	サンタバーバラ市(カリフォルニア州)	鳥羽市	1966年 3月
	キャマス市(ワシントン州)	多気町	1995年10月
フランス	ル・マン市	鈴鹿市	1990年 5月
イタリア	ソレント市(カンパニーナ州)	熊野市	2001年11月
カナダ	プリンス・ルパート市(ブリティッシュコロンビア州)	尾鷲市	1968年 9月

平成28年2月17日
伊勢志摩サミット三重県民会議事務局
開催支援課

各国先遣隊歓迎夕食会について

1 事業の概要

来県される各国先遣隊に対し、三重の食材を生かした料理やお酒、伝統芸能等の披露等によるおもてなしで慰労するとともに、三重の魅力を発信し本国に伝えていただくため、夕食会を開催する。

※先遣隊：本国政府の関係者がサミットの準備状況確認のため来県するもの。

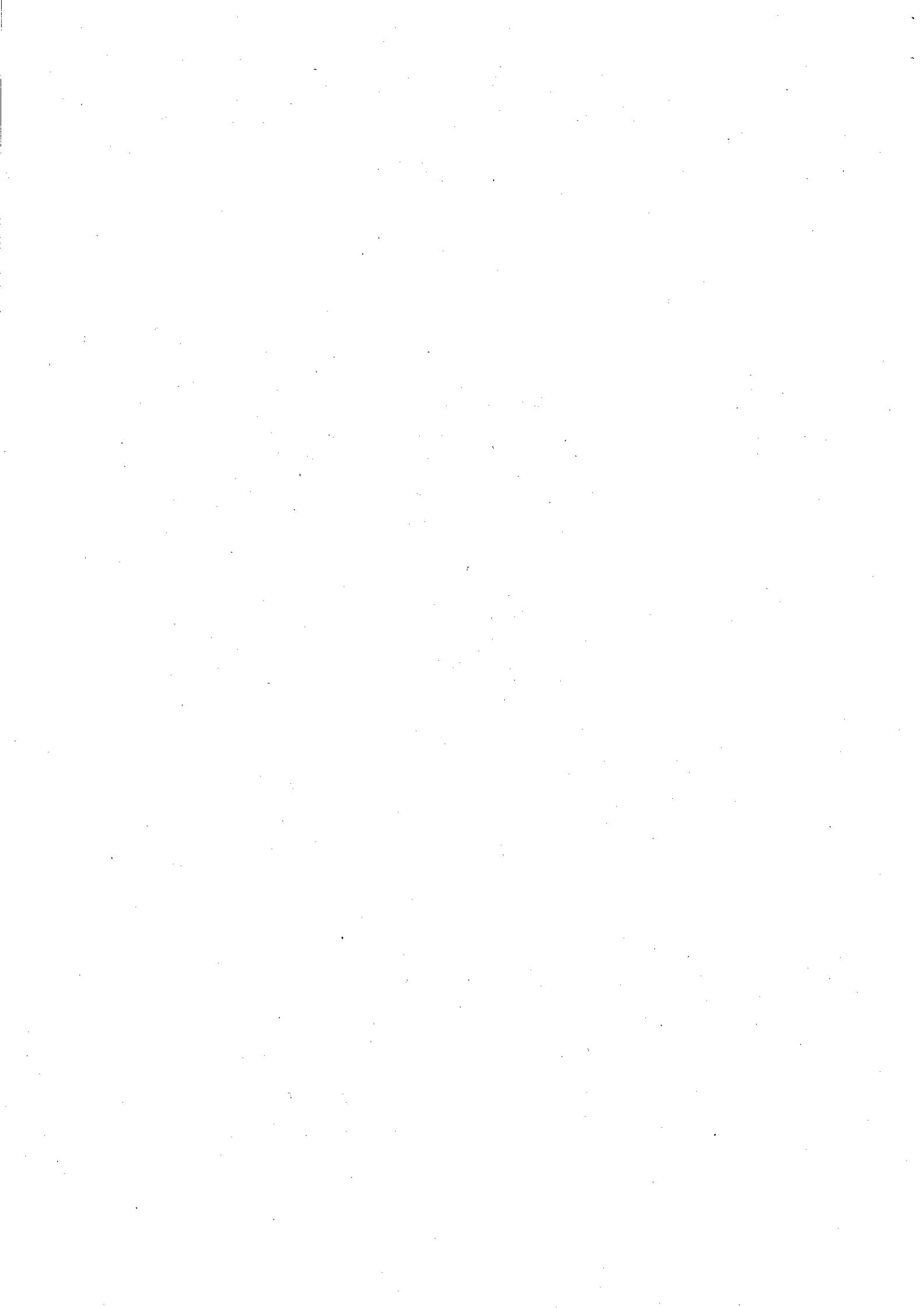
北海道洞爺湖サミット時には、G8すべての国等（米、英、仏、独、伊、加、露、E U）に対し、北海道洞爺湖サミット道民会議主催の夕食会が開催されている。

2 実施内容

- (1) 場 所 伊勢志摩地域のホテル
- (2) 時 期 平成28年2月から4月頃を想定
- (3) 対応者 伊勢志摩サミット三重県民会議（三重県、関係市町等）

3 その他

- ・先遣隊の三重県訪問については非公表とのことであるため、夕食会についても非公表とする。



平成28年2月17日
伊勢志摩サミット三重県民会議事務局
総務課

伊勢志摩サミット記録誌の発行について

1 方針

伊勢志摩サミットの準備から開催経過、県民会議や市町等の取組をまとめて記録誌として刊行し、サミット後の県や市町の施策展開や民間企業等の取組に役立てる。

2 発行時期及び配布先(案)

平成28年内をめどに発行し、県民会議会員、関係議員、国、都道府県、報道機関、寄附者、協賛事業者、応援事業者、各事業関係者などを対象に配付する。

3 記録誌の掲載内容

北海道洞爺湖サミット記録誌を参考に、今後検討していく。

[北海道洞爺湖サミット記録誌 概要]

第1篇 サミット会合開催概要

第1章 G8サミットの概要

第2章 北海道洞爺湖サミットの概要

第3章 関連行事

第4章 NGOとの対話

第2編 サミット開催に向けて

第1章 誘致

第2章 体制

第3篇 道民会議等の取組

第1章 概要

第2章 開催支援

第3章 北海道発信 ◆北海道情報の総合的な発信◆環境◆食◆観光◆芸術文化

第4章 おもてなし ◆歓迎気運の醸成◆おもてなしの充実

第5章 未来

第6章 連携プロジェクト事業

第7章 地域の取組

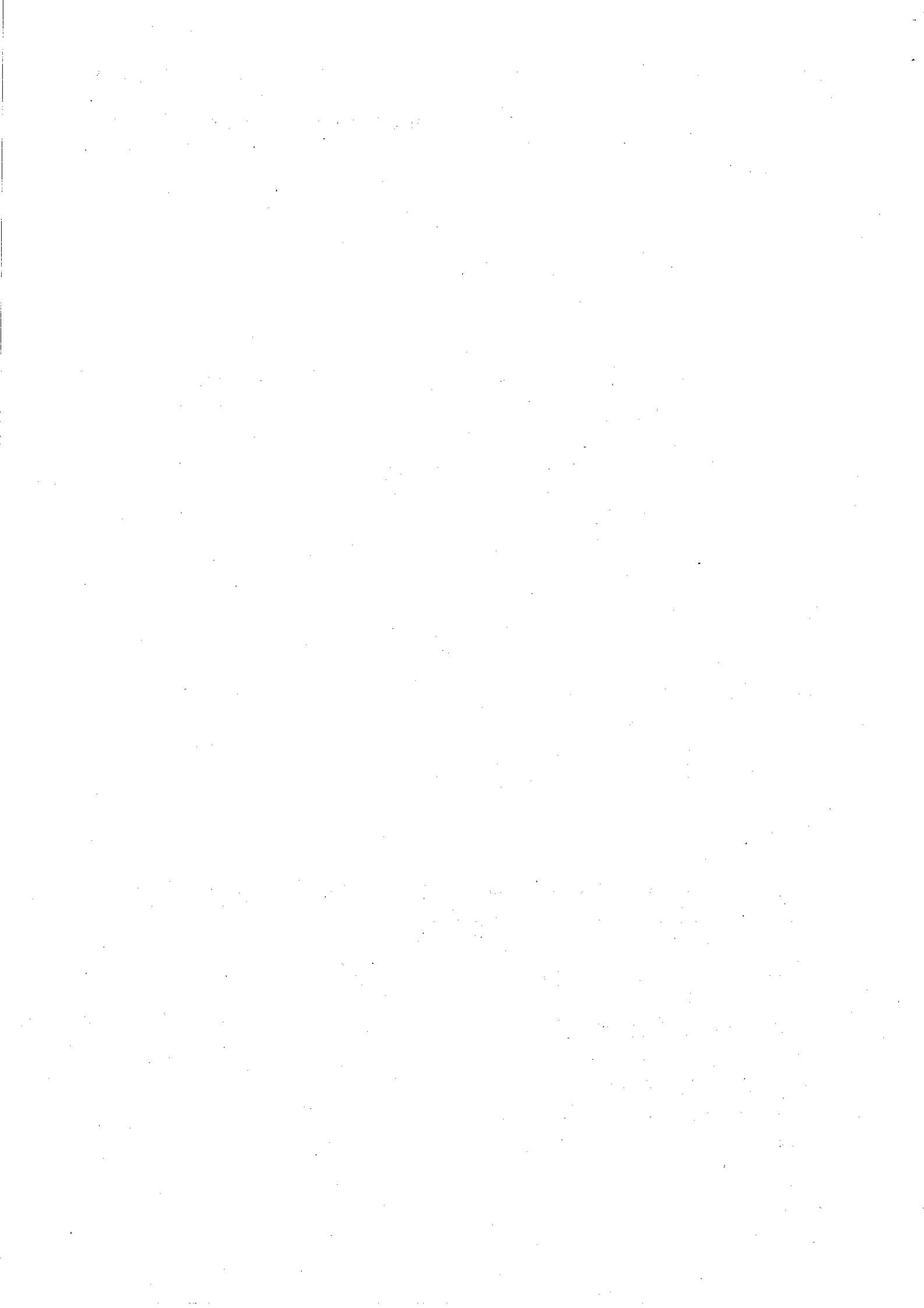
第8章 消防・保健医療

第4編 予算・決算

第1章 道民会議事業

第2章 行政事業

資料



平成28年2月17日
伊勢志摩サミット三重県民会議事務局
総務課

伊勢志摩サミット記念館の設置について

1 方針

県民の方々や伊勢志摩地域を訪れる方々にサミットの様子やサミットの際に使用された調度品・県産材の紹介を行い、サミットを契機とした三重のPRを継続して行うための、サミット記念館を設置する。

「明日へつなぐ」事業として、子どもたちの学習機会の場となるような展示も勘案した、体験型の要素を含めた記念館とする。

2 設置時期

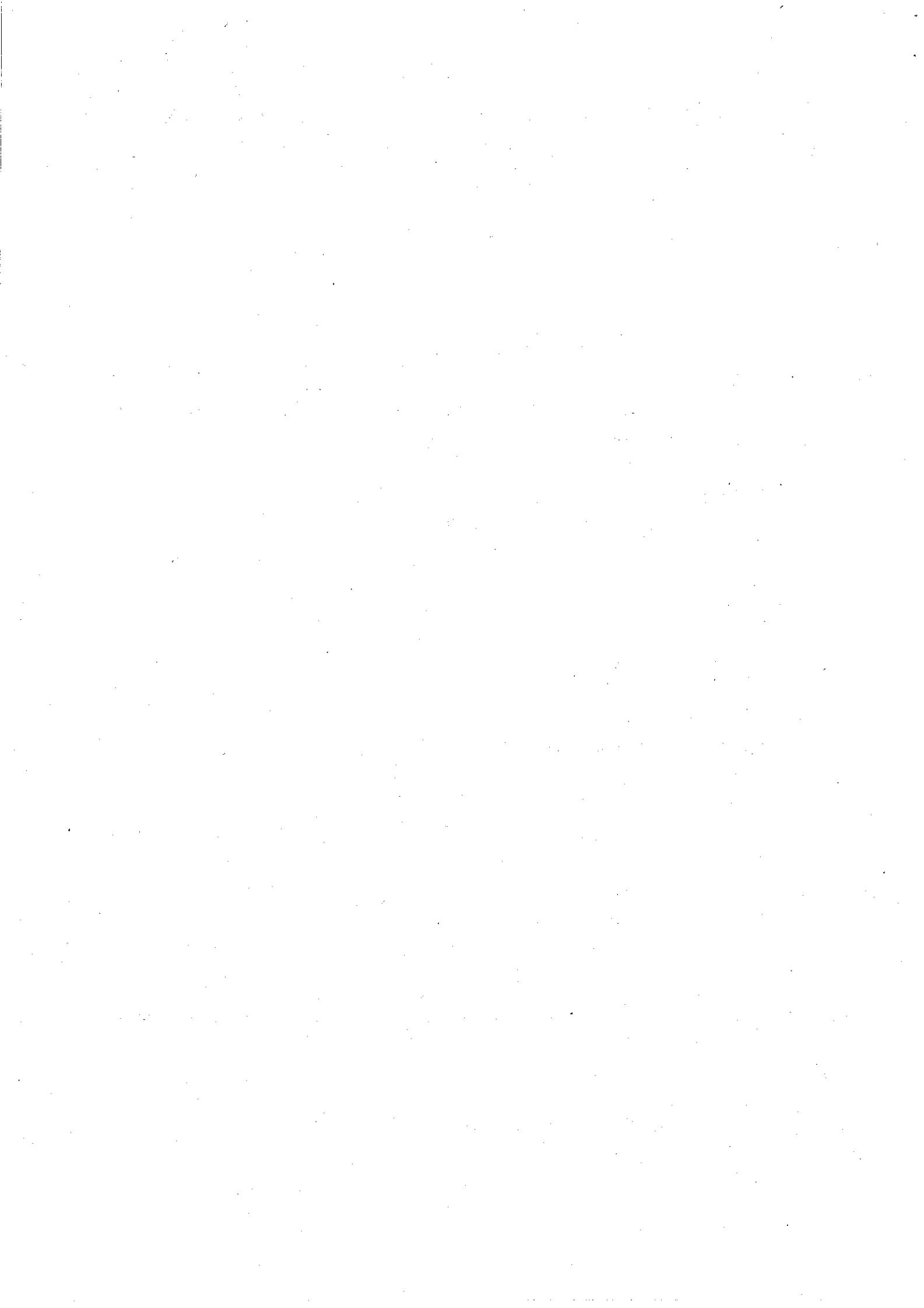
平成28年内～サミット開催1年後の間において検討していく。

3 設置場所

- サミット開催の記念となるにふさわしい場所
- 既存の建物を生かせる場所
- アクセス的に多くの人が触れることのできる場所 を検討していく。

4 展示内容

- 首脳会議場等での調度品、三重県情報館(仮称)での展示品を中心に選定する。
- 物品の展示に加え、動画の利用等、同的な要素も盛り込む。



平成 28 年 2 月 17 日
伊勢志摩サミット三重県民会議事務局
事業推進課

動画制作及び放映について

1 目的

伊勢志摩サミット開催 100 日前を契機に、より都市圏の人々及び訪日外国人に対して三重県を印象づけ興味を喚起させるため、動画を制作し、放映するものです。

2 事業の概要

(1) 動画コンテンツ

サミット開催県知事からのメッセージをベースとし、「伝統と革新が共存する場所、三重」をキーワードに三重県全体のPRを行う、30秒のCMを制作する。

(2) 動画放映

・放映期間

平成 28 年 3 月上旬～5 月下旬

・放映箇所

東名阪の主要駅、及び、空港など

※交渉、調整中

・その他

Youtube、伊勢志摩サミット三重県民会議ホームページ、Facebook、協賛企業での放映等、あらゆる場所・時期で活用する。

資料1（別紙7）

平成28年2月17日
伊勢志摩サミット三重県民会議事務局
事業推進課

ANA・JAL機内誌等でのPR

1 目的

伊勢志摩サミットの開催を前に、ANA及びJALの利用者に三重県伊勢志摩でサミットが開催されること及び三重県を広く知っていただくため、機内でのPRを展開する。

2 取組内容

(1) ANAの協賛等による機内でのPR

ANAと三重県とが地方創生に向けた様々な分野で連携するための覚書を締結していることから、機内誌面及び機内映像の放送枠を無償で提供いただき、伊勢志摩サミットのPRに取り組む。

①ANA機内誌へのPR広告掲載

国内線「翼の王国」4月号、国際線「WIN GSPAN」5月号

②機内でのPR動画の放映

国内線の機内VTR（30秒）5月

③CNNでのPR動画の放映

2月に国内線で放映予定の映像を編集し、CNNでのPR動画の放映等

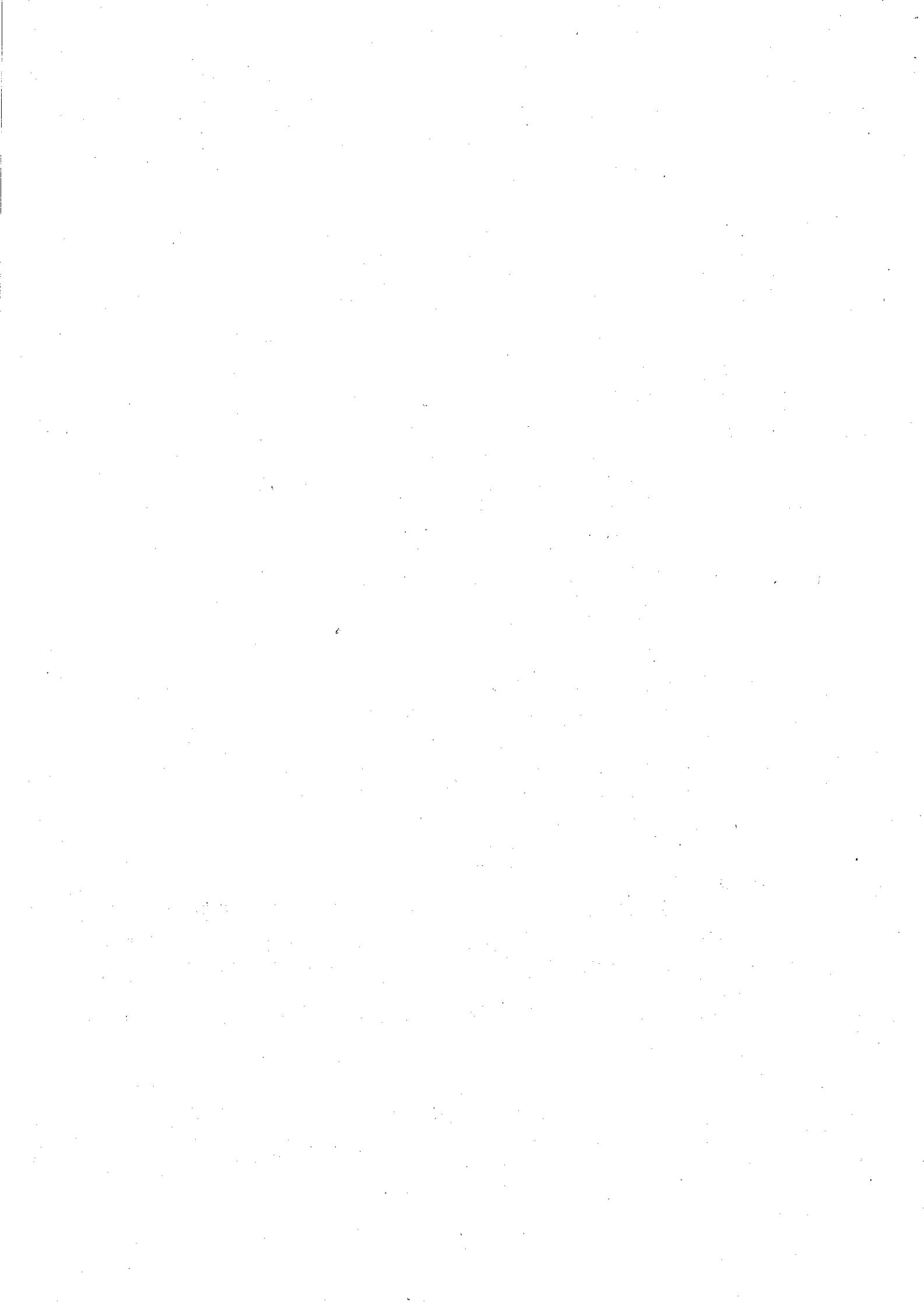
(2) 官邸によるPR

ANA及びJAL機内誌への伊勢志摩及び関係閣僚会合開催地のPR広告掲載

ANA、JAL国際線機内誌3月号

3 今後の展開

ANA及びJALの利用者の中心である企業や団体の役員・管理職クラス等や海外の方々に対して、2016年5月に三重県で伊勢志摩サミットが開催されること及び三重県を広く知っていただける誌面構成、放送内容を制作する。



平成 28 年 2 月 17 日
伊勢志摩サミット三重県民会議事務局
事業推進課

海外への情報発信について

1 目的

海外のメディアに三重県を取材する機会を提供し、三重県ならではの体験や多彩なコンテンツを人への取材を通じて体感いただき、三重県の魅力を海外へ発信することで、三重県の認知度を高め、開催後のインバウンドをはじめとする観光客の増加や県産品の販売増につなげる。

2 内容

(1) 第2回県民会議プレスツアーの実施

①日程 平成 28 年 2 月 17 日(水)、18 日(木)

②テーマ 「豊かな森に包まれた熊野古道伊勢路と持続可能な林業、ニーズをつかんだアイデア豊かな水産業」

③取材先 速水林業(紀北町)、三重県立熊野古道センター(尾鷲市)、松本峠(熊野市)、花の窟神社(熊野市)、ビジョン早田実行委員会(尾鷲市)、尾鷲物産株式会社(尾鷲市)、株式会社ディーグリーン(紀北町)、知事インタビュー

④参加者 在京の海外メディア 4 名を予定(2 月 12 日時点)

(2) 欧米トップクラスの著名人を招へいしたプレスツアーの実施

①日程 平成 28 年 2 月 15 日(月) から 19 日(金) まで

②概要 フランスの一流シェフ(シリル・リニヤック氏[※])が、三重の様々な食材に触れ、その様子を同行する海外メディア(フランスのル・モンド紙など)が取材し、海外へ発信する。

③主な取材先 答志島(鳥羽市)、志摩観光ホテル(志摩市)、伊勢神宮・おかげ横丁(伊勢市)、相可高校(多気町)、桔梗屋(伊賀市)

④取材する主な食材 的矢かき、伊勢えび、伊勢茶、伊賀牛、三重ジビエ
[※] …フランスの一流スター・シェフ。ミシュラン一つ星レストランやパティスリーを経営。TV番組の司会も務め、TV・雑誌にも頻繁に登場。料理に関する著作多数。

(3) 海外富裕層への戦略的プロモーションの実施

欧州のメディアを中心に三重県を取材いただき、番組での放送や雑誌への記事掲載により、三重県の様々な魅力を発信する(3 月上旬取材予定)。

(4) 海外有力メディアを活用した情報発信

海外有力メディアに取材の提案を行うと同時に、記事広告等による三重県のPRを行い、サミット開催後の三重県全体の活性化につなげる。

(主な取材メディア) ニューズウィーク（2月12日発行）

3 今後の予定

伊勢志摩サミット三重県民会議主催の第3回プレスツアーは、サミット開催前の4月から5月にかけて中南勢地域を中心に実施する予定であり、今後、関係機関と調整を進めていく。

また、外務省など他団体主催のプレスツアーも含め、事業全体で県内全域の情報発信となるよう努める。

海外有力メディアの活用についても、引き続き、サミット開催を契機に、三重県の魅力が世界に発信されるよう、さまざまな手法によるアプローチを行う。

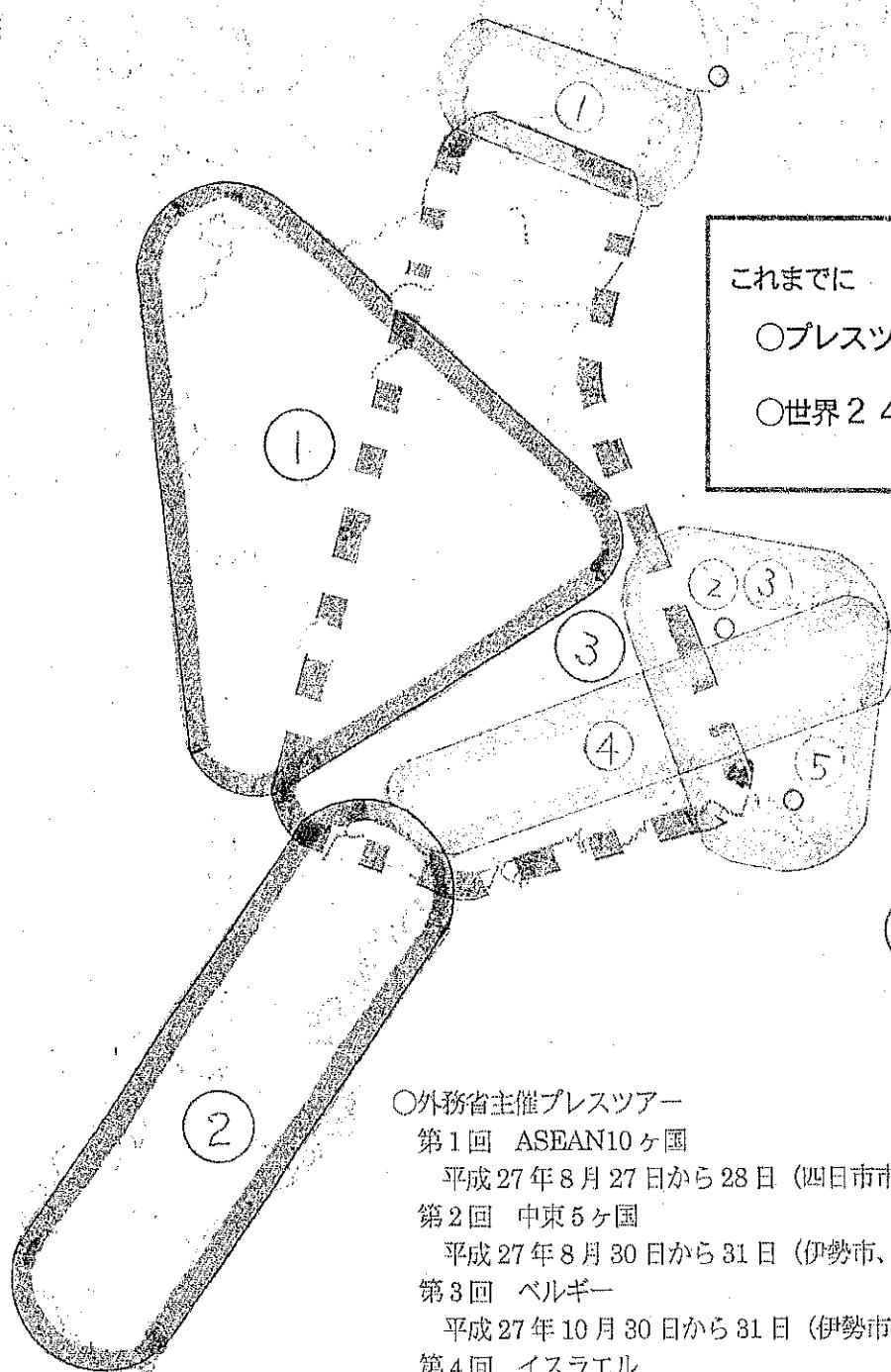
海外プレスツアー等の展開イメージ

○県民会議主催プレスツアー

第1回 平成27年12月7日から8日まで（伊賀市、名張市、松阪市）

第2回 平成28年2月17日から18日まで（紀北町、尾鷲市、熊野市）

第3回 平成28年4月から5月の間（中南勢地域を中心に）



これまでに

○プレスツアーを9回実施

○世界24ヶ国の記者が来県

○県民会議主催

○外務省主催

○外務省主催プレスツアー

第1回 ASEAN10ヶ国

平成27年8月27日から28日（四日市市、菰野町）

第2回 中東5ヶ国

平成27年8月30日から31日（伊勢市、鳥羽市、志摩市）

第3回 ベルギー

平成27年10月30日から31日（伊勢市、鳥羽市）

第4回 イスラエル

平成27年11月14日から15日（鳥羽市、伊勢市、多気町、大紀町）

第5回 クウェート

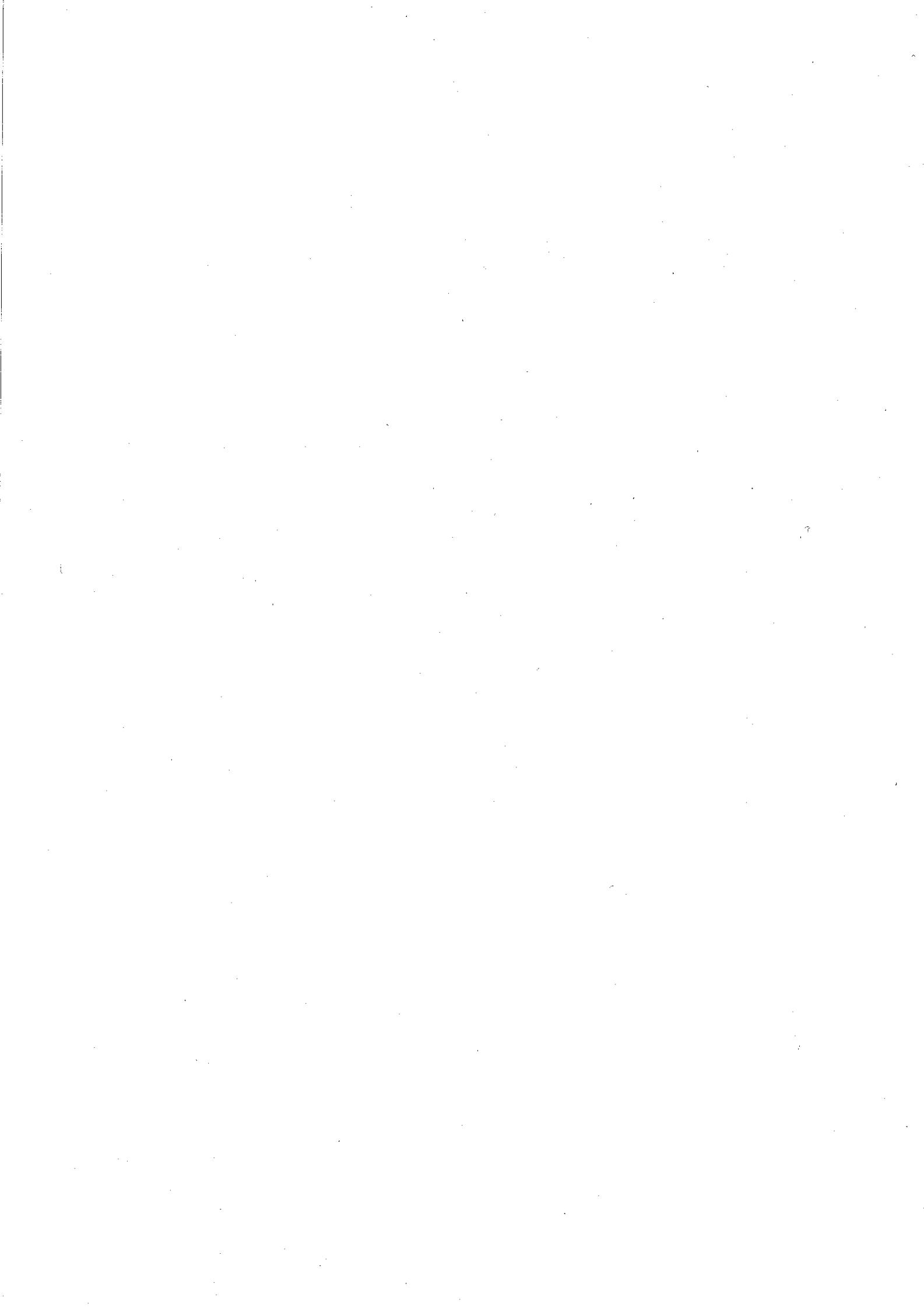
平成28年1月30日から31日（伊勢市、鳥羽市、志摩市）

○その他プレスツアー

著名人招へいツアー 2月中旬（伊勢志摩地域を中心に）

県民会議関連ツアー

関係団体主催ツアー など



平成 28 年 2 月 17 日
伊勢志摩サミット三重県民会議事務局
総務課

寄附金を財源としたポストサミット関連事業について(案)

昨年 12 月 18 日開催の県民会議第 3 回役員会にて、サミットのレガシーを三重の未来に生かすため、寄附金の一部を三重県の関係部局が実施する「ポストサミット」関連事業に充てる旨ご承認いただきました。

平成 28 年度に県民会議が実施するポストサミット関連事業と、今回、収支予算(案)で確保させていただく 66,000 千円の予備費分を含めた平成 29 年度以降の寄附金充当の考え方について、次のとおり整理いたしたい。

1 平成 28 年度に県民会議が実施するポストサミット関連事業

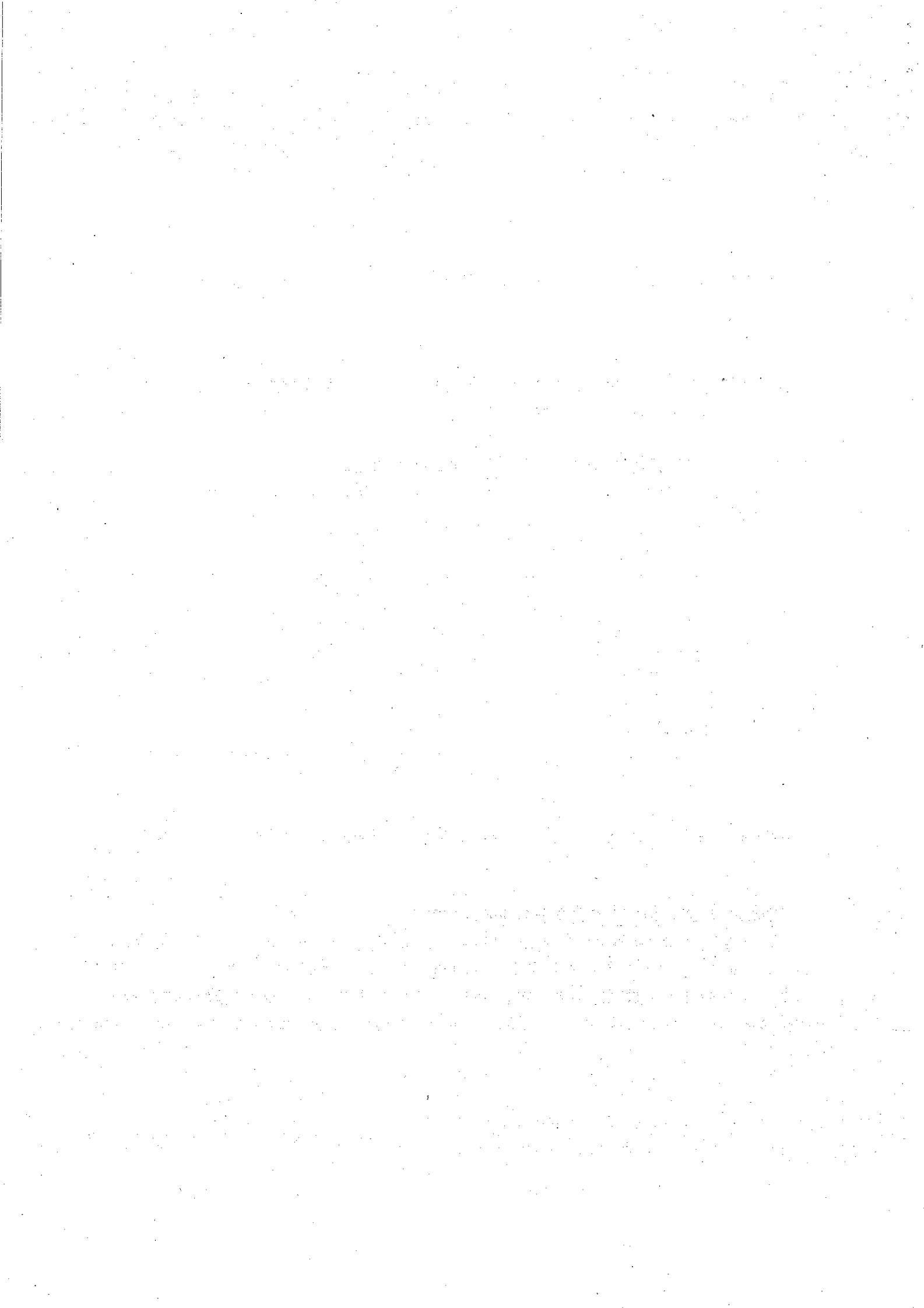
平成 28 年度に県民会議が実施するポストサミット関連事業は、県全体のポストサミット関連予算のうち、サミットのレガシーを次世代に継承する事業を中心に選ぶこととする。平成 28 年度当初予算については、以下のとおり。

- (1) 大学生・留学生との交流事業（事業費 10,239 千円）（別紙 1 参照）
サミット開催を機に、サミット開催地・三重県に、県外大学生や留学生等を招聘し、県内大学生や留学生との交流機会を設ける。
- (2) 三重県高校生サミット開催事業（事業費 2,538 千円）
県内高校生がジュニア・サミットのテーマ等に関する意見交換等を行う。
- (3) 世界に開かれた魅力ある三重県づくり促進プログラム事業
(事業費 2,000 千円)
「伊勢志摩サミットメモリアルデー」を創設し、国際交流の支援等につなげる。

【参考】三重県におけるポストサミット関連予算の概要（別紙「参考資料」参照）

2 平成 29 年度以降の寄附金充当の考え方について

県民会議解散時（決算時）において残余となった金額（ポストサミット関連事業のため、平成 28 年度当初予算で確保する 66,000 千円分の予備費を含む）について、県において別途基金を設定する等、平成 29 年度以降のポストサミット関連事業の財源とする。



平成28年2月17日

伊勢志摩サミット三重県民会議事務局

事業推進課

大学生・留学生との交流事業について（案）

1 目的

サミットの開催成果を確かな資産として「明日へつなぐ」ため、県外大学生や留学生が三重に集い、県内大学生や留学生と共に、サミットに関するテーマ等について討議を行う大学生版のサミットを開催し、サミット開催地・三重県が次世代グローバル人材育成の地となることを目指す。

2 概要

サミット開催を機に、サミット開催地・三重県に、県外大学生や留学生等を招請し、県内大学生、留学生との討議や交流の機会を設ける。

（1）時期（予定）

平成28年8月末～9月初旬

※3泊4日程度を想定

（2）開催場所（予定）

伊勢市及び南伊勢町

（3）取組内容（予定）

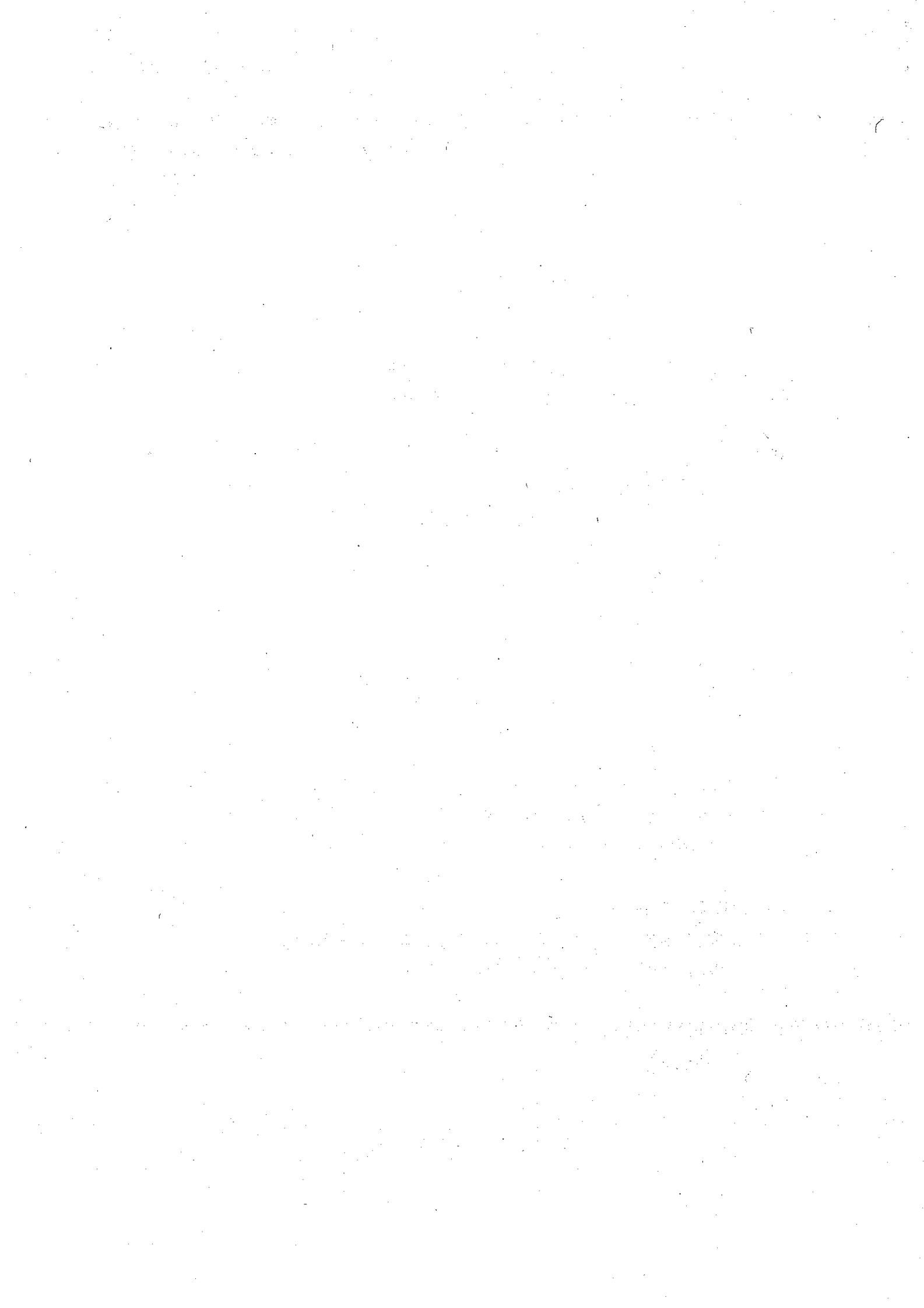
- サミットのテーマ等に関する討議
- 討議に資する現場体験・学習
- 討議成果の発表 など

（4）参加者（予定）

- 首都圏を中心とする県外大学生、大学院生、留学生
- 県内大学生、大学院生、留学生

（5）参加人数（予定）

100人程度



ポストサミット開運予算の概要 (H28年度当初予算記者発表資料)

戦略企画部企画課

資料2(参考)

サミット開催は三重にとつて千載一遇のチャンスであり、これを一過性にせず、サミットの資産を次世代に継承していかなければなりません。
⇒三重県における「ポストサミット」を、「サミットの『レガシー』」を三重の未来に生かすこと」と定義し、そのために具体的な取組を展開していきます。

サミットの「レガシー」

サミットの開催により
地域にもたらされる
有形無形の好影響

①知名度等の向上

・「日本人の心のふるさと」三重・伊勢志摩の
知名度の向上や評価・関心の高まり
・県民と海外・世界との距離が縮まるここと
等

②会議自体の成果

・宣言、方針、共同声明等や、それらに基づく
計画、取組 等

③地域の総合力の向上

・県民や地域の一体感の醸成
・郷土に対する愛着や誇りの高まり
・地域に対する理解の深化、地域のネット
ワークの強化
・地域で自らイノベーションを起こそうとする
県民の行動の活性化(アクティブ・シチズンの増加)
・おもてなしの力の向上
・「ダイバーシティ※」の視点による地域の深化
・県民力で「安全・安心」に取り組んだ経験等

具体的な取組

- ・サミットが開催されるからこそ生まれる(発展する)取組
- ・アクティブ・シチズンとしての県民の行動を促す取組
- ・サミット開催後、一定期間にわたって効果が持続する取組

伊勢志摩国立公園指定70周年(平成28)、全国電子大博覧会・三重(平成29)、
三重どこか国体・全国障害者スポーツ大会三重大会(平成30)などを経て、
第63回神宮式年遷宮(平成37)「山口祭」→平成45「遷御の儀」へ。

「伊勢志摩サミットの開催後、我が国での次のサミット開催地が決定するまで」を
長く効果が持続するに期待される取組を展開していく。

- (平成28年度当初 計69,402千円)
(平成27年度補正 計215,209千円)
- ①人と事業を呼びこむ

(知名度等の向上を最大限に生かし、国内外の人ひとと事業を呼びこむ取組)

【MICE誘致】○海外MICE誘致促進事業(27補)

【インバウンド】○海外誘客プロジェクト事業(27補)

○三重県版「アフリケート事業(27補)

○地域活性化(観光活性化)ファンタジー促進事業(27補)

○世界経済のリーダーを呼び込む国際会議開催事業(27補)

○海外誘客プロモーション事業(27補)

○三重県版「アフリケート事業(27補)

○「みえの食」グローバル市場獲得推進事業(27補)

○外資系企業ワントップサービス推進事業(27補)

- (平成28年度当初 計53,164千円)
(平成27年度補正 計43,632千円)
- ②成果を発展させる

(サミットそのものの成果を引き継ぎ発展させる取組)

【安全・安心】○安全安心まちづくり事業(一部)

【サミットの聖地】○みえの農林水産物の魅力総合発信事業(27補)

◆世界に開かれた魅力ある三重づくり促進プログラム事業

【環境】○みえの環境技術移転国際会議開催事業(27補)

○みえの農林水産物の魅力総合発信事業(27補)

○「みえの食」グローバル市場獲得推進事業(27補)

○外資系企業ワントップサービス推進事業(27補)

- (平成28年度当初 計3,000千円)
(平成27年度補正 計14,690千円)
- ③次世代に継承する

(サミットを通じて高まった地域の総合力を、
次世代の育成や地域の魅力向上につなげる取組)

【次世代育成】◆三重県高校生サミット開催事業

◆大学生・留学生との交流事業

- 【女性の活躍】○未来へつなぐグッドワーク・グッドライフ創造事業(当初、27補)
- ☆サミットのテーマ決定、開催結果を受けて、ポストサミットの考え方をさらに進化させ、あわせて関連取組を検討します。

伊勢志摩サミットの開催

～個別事業概要～

【MICE誘致】

- 海外MICE誘致促進事業(27補) [16,708千円]
○世界経済のリーダーを呼び込む国際会議開催事業(27補) [30,000千円]
◇G7サミットという世界最高峰の国際会議の開催地としての
知名度の飛躍的向上を生かし、国際会議をはじめとする
MICE※の誘致に取り組む。
◇世界に「三重」を発信する。
・世界に「三重」を発信する。
・MICE・企業の会議・企画等が行う国際会議・展示会・見本市・イベント。
・団体・学会等が行う国際会議・展示会・見本市・イベント。



【インバウンド】

- 海外誘客推進プロジェクト事業(27補) [63,029千円]
○三重県版パリアフリー観光促進事業(27補) [3,118千円]
◇地域活性化(観光活性化)ファンド組成事業
◇世界経済のリーダーが集う国際会議を誘致する。
・海外MICEをインバウンドの重要な分野
として、誘致に向けた取組を展開する。
・世界に「三重」を発信する。
・MICE・企業の会議・企画等が行う国際会議・展示会・見本市・イベント。



【食の産業振興】

- みえの農林水産物の魅力総合発信事業(27補) [18,421千円]
○みえの食グローバル市場獲得推進事業 [33,164千円]
◇目的>
・首都圏等において県産農林水産物の魅力を伝えるとともに、
国内外への販路拡大に取り組む。
◇具体的な事業内容>
・ブランド力の一層の向上を促進する。
・食に関する多様な連携を推進し、洗練された
商品やサービスを創り出しつつ魅力的な情報
発信を行うことで、みえの食のブランドイメージ
を向上し、グローバル市場を獲得していく。



【サミットの聖地】

- みえの農林水産「八百万サミット」開催事業(27補) [4,690千円]
◆世界に開かれた魅力ある三重づくり促進プログラム事業 [2,000千円]
◇目的>
・G7サミットの開催地として、「『サミット』といえば
三重県」というイメージが確立されることを生かし、
「サミット」の名のつくイベントの県内開催や、
サミットを記念した国際交流等に取り組む。
◇具体的な事業内容>
・農林水産物の生産・加工・販売の主体を集めて
行う各種「サミット」を県内で開催する。
・「伊勢志摩サミットメモリアルデー」を創設し、
国際交流の支援等につなげる。



【安全・安心】

- 犯罪から県民を守るアクションプログラム(仮称)の策定
〔「安全安心まちづくり事業」の一部〕 [1,000千円]
◇目的>
・伊勢志摩サミットの開催による県民の皆さんの安全意識
の高まりを引き継ぐとともに、「協創」による安全で安心な
まちづくりを着実に進めいくため、「犯罪から県民を守る
アクションプログラム(仮称)」の策定を進める。



【国際戦略】

- グローバル創業支援事業(27補) [6,863千円]
○外資系企業ワントップサポート事業(27補) [5,493千円]
◇目的>
・サミット開催を契機に、安全・安心等、ビジネス環境における
三重の優位性の認知度を高め、世界に向けた起業や外資系
企業誘致を推進し、産業の多様性のさらなる向上に取り組む。
◇具体的な事業内容>
・グローバルな創業・第二創業の促進のため、
海外支援機関等との連携等を支援する。
・外資系企業ワントップサポート窓口を
設けてニーズへの迅速な対応を図るとともに、
各國大使館を通じたPR活動等に取り組む。



【次世代育成】

- ◆三重県高校生サミット開催事業 [2,538千円]
◆大学生・留学生との交流事業 [10,239千円]
◇目的>
・世界と三重の距離が大きく縮まるなど、サミット開催による
地域の総合力の向上を次代を担う若者の育成につなげる
ため、同世代の国際交流促進等に取り組む。



【環境】

- みえの環境技術移転国際会議開催事業(27補) [10,000千円]
◇目的>
・ジニア・サミットが「環境」をテーマに開催される予定である
ことから、四日市公害等で培われた環境技術等、環境先進
地域・三重の世界への発信と、地球環境の保全と経済成長
の両立への貢献に取り組む。



【女性の活躍】

- 未来へつなぐグッドワーク・グッドライフ創造事業 [28当初: 461千円, 27補: 56,887千円, 計57,348千円]
◇具体的な事業内容>
・国際的に知名度のあるスピーカー等
を招聘し、「女性活躍」をテーマにした
公開フォーラムを開催するとともに、
参加者による共同宣言を実施する。



【女性の活躍】

- ◇具体的な事業内容>
・県内高校生がジニア・サミットのテーマ
等に関する意見交換等を行う。
・県内外の大学生や留学生が三重に集い、
交流する。



(注)事業名に◆印を付したもののは、伊勢志摩サミット三重県民会議への寄附金を財源として実施する事業です。

平成28年2月17日

伊勢志摩サミット三重県民会議事務局

伊勢志摩サミット三重県民会議 収支予算(案)

収入

(単位:千円)

科目	項目	主な内容	予算額		
			H27年度	H28年度	合計
負担金	県負担金		(139,748) 137,500	120,043	257,543
		寄附金分	150,000	300,000	450,000
	市町負担金	志摩市、伊勢市、鳥羽市、南伊勢町	13,000	13,000	26,000
諸収入	その他		0	0	0
合計			(302,748) 300,500	433,043	733,543

※H27年度における上段括弧書きは、9月役員会で承認された予算額。

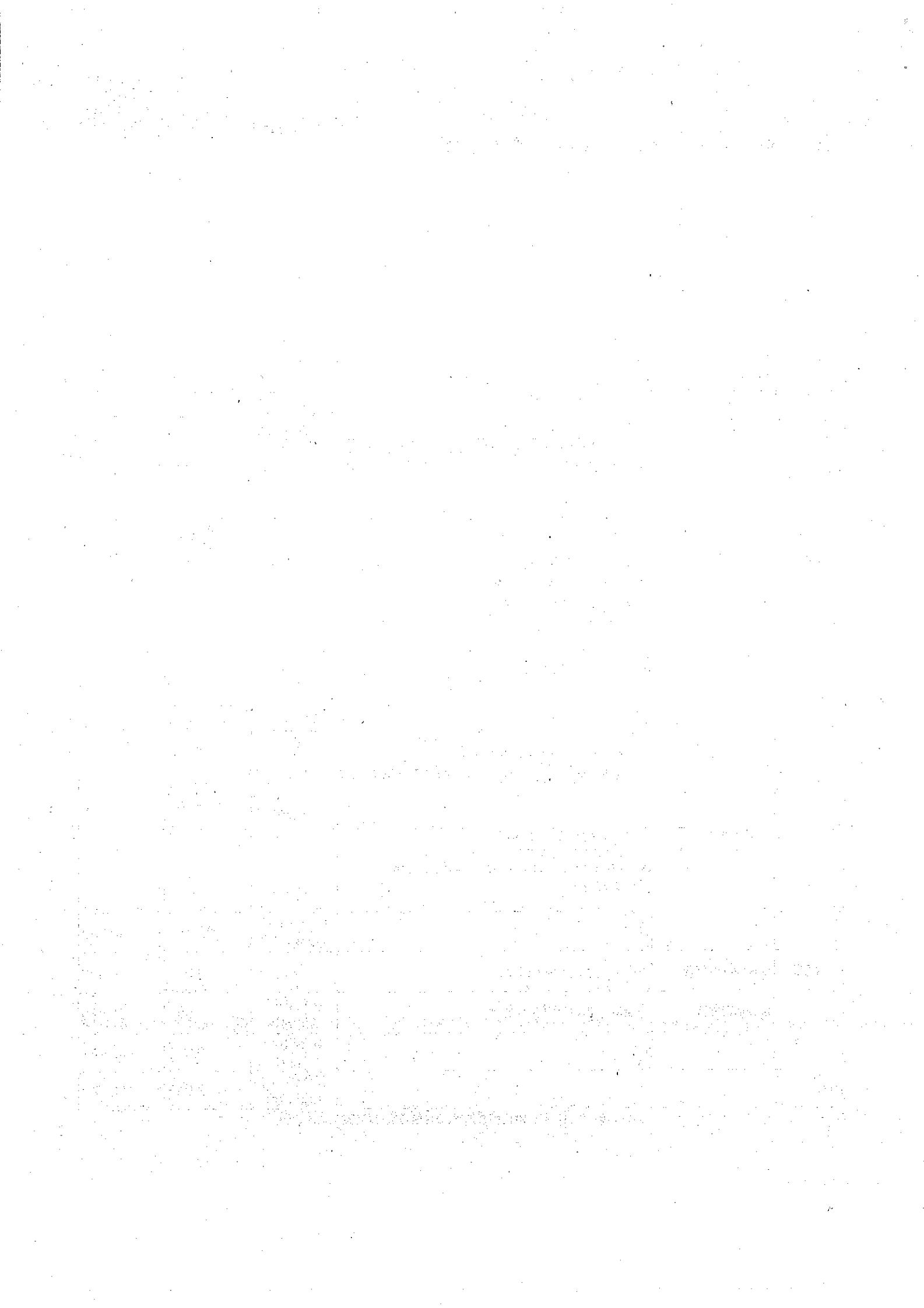
※H28年度の負担金については、それぞれの自治体の議会において、議決後に確定となります。

支出

(単位:千円)

科目	項目	主な内容	予算額		
			H27年度	H28年度	合計
事業費	開催支援	各国首脳等の歓迎・交流 インフォメーション機能の整備 報道関係者等の歓迎・支援			
		計	(22,150) 30,914	87,766	118,680
おもてなし		サミットフォーラムの開催 クリーンアップ活動・花いっぱいおもてなし運動			
		計	(38,403) 51,887	58,579	110,466
明日へつなぐ		ジュニア・サミット参加者との交流等 サミット記念館の設置、記録誌作成、H28予備費(ポストサミット分66,000千円)			
		計	(13,380) 15,940	144,204	160,144
三重の発信		三重県情報館(仮称)の設置 海外プレスツアー、プロモーション 県内・県外イベントでのPR、ポスター等によるPR 動画CMの放映			
		計	(160,057) 158,541	122,451	280,992
事務局費	県民会議開催費	総会、役員会、部会の開催	2,300	2,066	4,366
	事務局運営費	一般事務費、施設関係経費等	(66,458) 40,918	17,977	58,895
		計	(68,758) 43,218	20,043	63,261
合計			(302,748) 300,500	433,043	733,543

※H27年度における上段括弧書きは、9月役員会で承認された予算額。



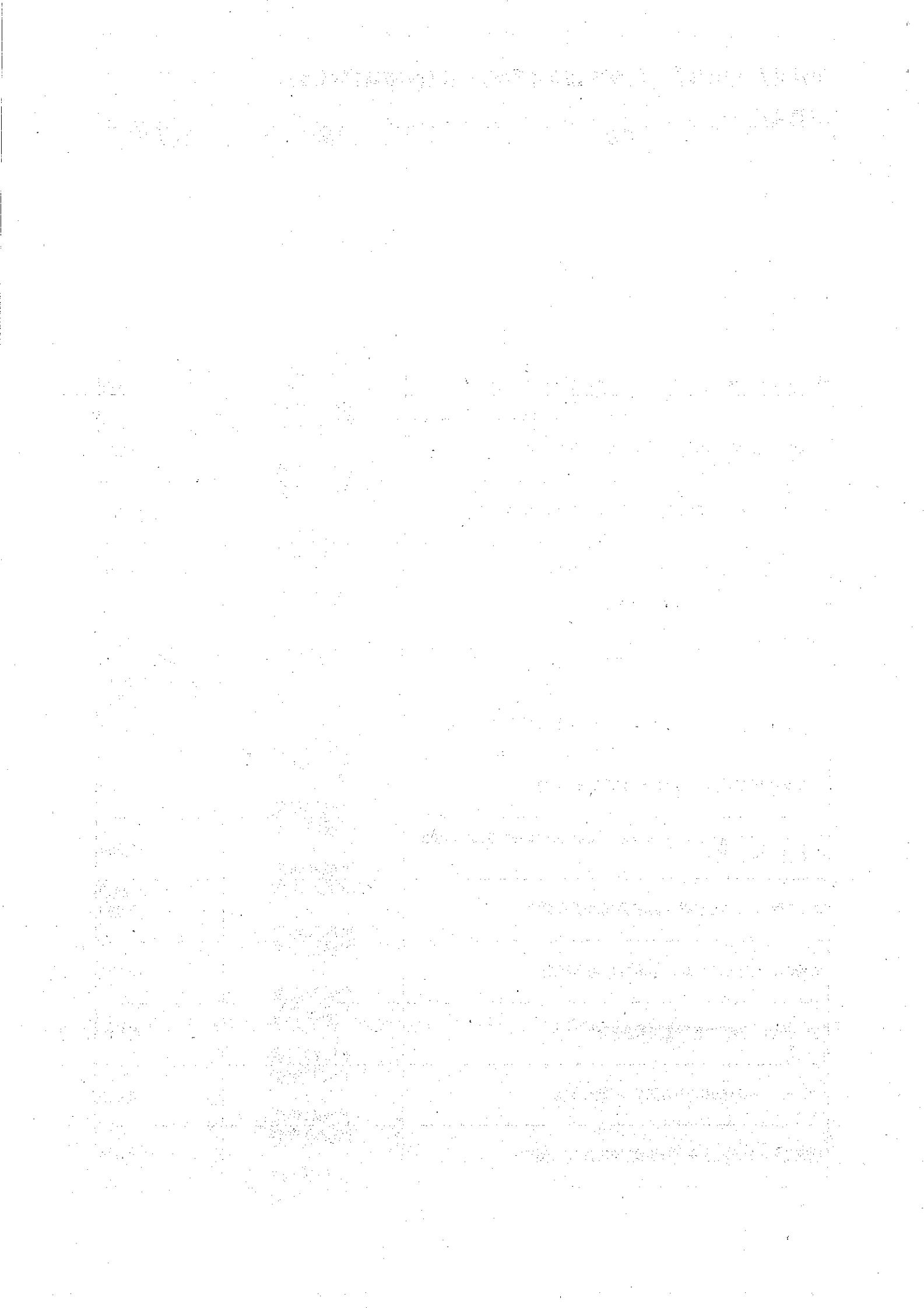
平成27～28年度 年度を超える契約一覧(債務負担行為)

【新規分】

事項	期間	限度額 (契約予定額)
外国語案内ボランティア等接遇研修業務委託に係る契約	平成27年度 ～ 平成28年度	300
海外メディア等を活用した情報発信業務委託に係る契約	平成27年度 ～ 平成28年度	57,033
県民会議主催プレスツアー(平成28年度実施分)業務委託に係る契約	平成27年度 ～ 平成28年度	2,000
第3回伊勢志摩サミットフォーラム運営業務等委託契約	平成27年度 ～ 平成28年度	3,024
平成28年度国際理解・国際交流事業委託契約	平成27年度 ～ 平成28年度	2,282
ジュニア・サミット交流事業等に係る業務委託契約	平成27年度 ～ 平成28年度	22,633
大学生・留学生との交流事業に係る業務委託契約	平成27年度 ～ 平成28年度	8,180

【専決済み分】

事項	期間	限度額 (契約予定額)
外国語案内ボランティアのコーディネート業務委託に係る契約	平成27年度 ～ 平成28年度	4,643
三重県情報館設置・運営業務委託に係る契約	平成27年度 ～ 平成28年度	60,000
ホームページ及びSNS(Facebook、twitter)の制作・運営管理業務委託に係る契約	平成27年度 ～ 平成28年度	12,204
プレス用ハンドブック作成業務委託に係る契約	平成27年度 ～ 平成28年度	(3,240) 7,000
動画CM作成及び放映業務委託に係る契約	平成27年度 ～ 平成28年度	13,986
花いっぱい作戦に係る業務委託契約	平成27年度 ～ 平成28年度	36,812
クリーンアップ作戦に係る記念品購入契約	平成27年度 ～ 平成28年度	10,000
首脳等への記念品等作成業務委託に係る契約	平成27年度 ～ 平成28年度	6,048
伊勢志摩サミットの報道を通じたPR効果調査業務委託契約	平成27年度 ～ 平成28年度	6,264



伊勢志摩サミット関連予算の概要

～平成28年度当初予算【平成27年度2月補正予算金額】～

伊勢志摩サミットの成功に向けて市町、企業、関係団体等と連携し「開催支援」に取り組むとともに、「おもてなし」「明日へつなぐ」を柱に、全員的な取組を推進します。

1. サミット関連予算《伊勢志摩サミット推進局分》 計 472,687千円 (805,653千円) *

開催支障

計 88,472千円 (125,504千円)

各国首脳等の歓迎・交歓	27,457千円
・国際理解・留学生との交流事業	12,016千円
・サミット記念館の設置・支援	4,436千円

明日へつなぐ

計 144,204千円 (160,144千円) (※) は、サミット終了後の事業

・シニア・サミット参加者との交流等	25,110千円
・国際理解・留学生との交流事業(※)	2,282千円
・大学生・サミット記念館の設置(※)	10,239千円
・記録誌作成(※)	21,056千円
	10,436千円 等

◎今後斯二期にサミット事業に取り組むための費用として66,000千円を確保

その他事務所設置費・運営費等 58,981千円(128,547千円)
(県民会議事務局運営費・会議費 20,043千円、現地事務所設置経費 13,943千円 等)

2. サミット関連予算《安全・安心な開催に向けた対策》 計 2,156,339千円 (8,525,288千円)

・行政等対策【警察本部】	1,080,970千円
・道路除草等の周辺環境整備事業【国土整備部】	721,000千円
・消防防災関係サミット対策事業【防災対策部】	353,984千円
・食の安全食品検査事業【健康福祉部】	7,086千円
・災害医療体制強化推進事業【健康福祉部医療対策局】	5,848千円 等

【参考】

伊勢志摩サミット事業予算総額 284,611千円 (2月補正を含む。うち14,777千円は、上記の県民会議事業内で計上。)

資料3(参考)



伊勢志摩サミット
三重県民会議



参考>伊勢志摩サミット関連予算の状況

総計 9,330,941千円 [伊勢志摩サミット推進局分 805,653千円、安全・安心対策分 8,525,288千円] (単位:千円)

予算区分	予算額	県費	国庫支出金	寄附金	県債	基金	銀入金	その他
27年度 12月補正 まで	6,688,915 【6,701,915】	285,114	419,159	150,000	5,489,000		342,589	3,053 【16,053】
27年度 2月補正	1,077,153	▲328	1,986,550	280,000	△1,395,000		205,931 0	
28年度 当初	1,538,873 【1,551,873】	843,595	665,257	20,000	0		0	10,021 【23,021】
計①	9,304,941 【9,330,941】	1,28,381	3,07,09,66	450,000	4,094,000		548,520 13,074 【39,074】	
27年度 最終見込②	0	0	0	824,682	0	▲1,682	▲1,682	
最終見込③	9,304,941 【9,330,941】	1,28,381	3,895,648	450,000	3,29,000	529,838	10,074 【36,074】	

【参考】国庫補助対象となった道路等整備事業(平成27年度予算)の推移

	9月補正	2月補正	最終補正	(見込み)	計(見込み)
累单事業	5,446,900	▲2,975,643	▲1,584,655	886,602	
国補事業	-	3,696,643	1,584,655	5,281,298	補助金額
うち外務省	-	1,222,093	10,260	1,232,353	600,287
うち国交省	-	2,474,550	1,574,395	4,048,945	2,110,945

※1 「平成27年度12月補正まで」欄は、平成26年度2月補正分から平成27年度12月補正分までの累計額

※2 []書きは、県民会議における市町負担金分(平成27.28年度とも、13,000千円)を含む額を表記

※3 (参考) 企業会計(水道事業会計)の平成28年度当初予算額(19,442千円)は外数

平成28年2月17日

伊勢志摩サミット三重県民会議事務局

事業推進課

100日前ウィークリイベントについて

2月16日（火）で、伊勢志摩サミット開催までちょうど100日前となりました。

伊勢志摩サミット三重県民会議では、節目である2月16を中心とする100日前ウィークリに皆さんに参加いただく「おもてなし大作戦」のキックオフイベントを開催しました。

また、全国的な話題性の向上を図るとともに国際的な情報発信にも取り組みます。

1 県民の皆さんの参加に向けた取組

(1) 「おもてなし大作戦」 キックオフイベント

サミット開催に向けて県民一人一人の皆さんにおもてなしの心を持って県全体に取り組んでいくことをPRするとともに、サミットに向けた機運の醸成や一体感の構築を図るため、伊勢志摩サミット「おもてなし大作戦」キックオフイベントを開催しました。

①日時

平成28年2月14日（日）8時から11時まで

②場所

阿児ふるさと公園芝生広場：志摩市阿児アリーナ横（志摩市阿児町神明1074番地14）

③内容

・キックオフセレモニー（8時～8時30分）

鈴木知事、大口志摩市長、山崎三重県自治会連合会会長をはじめ、県民、企業、団体など多様な主体が集結してキックオフ宣言を行いました。直前までの雨にも関わらず、県民、団体、企業関係者ら約700名の参加となりました。

また、1月26日にみえの国観光大使に就任いただいた元バドミントン選手で三重県川越町出身の小椋久美子さんが「おもてなし大使」として任命されました。

・交流会等（8時30分～11時）

「おもてなしPRタイム」として、おもてなし大作戦に協力をいただいている企業、団体に活動のPRを行っていただいた後、小椋久美子さんによるトークショー、おたのしみじゃんけん大会を実施しました。

【おもてなしPRタイム出演企業・団体】

イオンリテール（株）

ガールスカウト三重県連盟

「小さな親切」運動三重県本部

井村屋グループ（株）

中部電力（株）

④その他

三重県自治会連合会の働きかけなどにより、10市町において100日前ウィークリ周辺日にクリーンアップ活動が実施されます。

【2月14日実施】

四日市市、伊勢市、鈴鹿市、尾鷲市、亀山市、鳥羽市、志摩市、多気町、南伊勢町、紀北町
※津市については、雨天のため中止

【2月16日実施】

伊賀市

【2月17日実施予定】

松阪市

【2月28日実施予定】

木曽岬町

【3月5日実施予定】

桑名市

【3月20日実施予定】

菰野町

(2) 外国語案内ボランティアへの研修開始

海外から来県する報道関係者を主な対象に、県内各地の情報発信、移動・滞在支援などを行う外国語案内ボランティアは、活動実施前に語学研修と接遇研修を受講することになっています。語学研修を次のとおり開催します。

2月14日（日）10時から15時まで 鈴鹿医療科学大学白子キャンパス
(鈴鹿市南玉垣町3500-3)

2月20日（土）10時から15時まで 伊勢観光文化会館
(伊勢市岩渕1丁目13-15)

2 國際的な情報発信に向けた取組

(1) 海外メディアによるプレスツアー

①第2回県民会議主催プレスツアー

・日時：平成28年2月17日（水）、18日（木）

・テーマ：豊かな森に包まれた熊野古道伊勢路と持続可能な林業

～ニーズをつかんだアイデア豊かな水産業～

・取材先：速水林業、三重県立熊野古道センター、松本峠、花の窟神社、ビジョン早田実行委員会、尾鷲物産株式会社、株式会社ディーグリーン

②著名人招へいプレスツアー

フランスの著名シェフ及び同行する海外メディアを招へいします。

・日時：平成28年2月15日（月）～19日（金）

・主な取材先：答志島、志摩観光ホテル、伊勢神宮・赤福、相可高校、桔梗屋

(2) 海外メディアでの広告展開

『NEWS WEEK』（※）に2月中旬に掲載を予定しています。

※アメリカにおいて「タイム」と並ぶ最大手週刊誌。

(3) 伊勢志摩サミット開催・I C E T T 設立25周年記念事業

「ASEAN環境フォーラム in 三重」

① 日時：平成28年2月12日（金）14時30分から17時55分

② 会場：四日市都ホテル4階伊勢の間（四日市市安島1-3-38）

③ 内容

・主催者挨拶

・ I C E T T (公益財団法人国際環境技術移転センター) 活動紹介

・パネルディスカッション

テーマ：A S E A N諸国における持続可能な経済発展

パネリスト：ASEAN 各国駐日大使等 (10か国)

コーディネーター：三重県知事 鈴木英敬

ASEAN 各国からは、日本の環境技術に対する期待や、経済成長に環境の視点を取り入れることの重要性等が示され、知事からは、ICETT や県内企業の技術を生かして同地域の経済成長と環境の両立に貢献していきたい旨の総括がなされた。

・環境講演会

テーマ：宇宙からの視点～生命のつながり～

講演者：毛利 衛（宇宙飛行士、日本科学未来館館長）

④ 主催：三重県、公益財団法人国際環境技術移転センター (I C E T T)、四日市市
共催：伊勢志摩サミット三重県民会議

3 「三重ウイーク in 日本橋」

2月11日(木：祝)から22日(月)、東京日本橋において、記念イベント「三重ウイーク in 日本橋」を開催します。

2月11日(木：祝)の三重テラスでのオープニングイベントとなる、「プレス発表会」「食レセプション」では、知事とゲストとのトークショーなども行いました。(三重県戦略企画部広聴広報課事業)

4 その他情報発信に向けた取組

ホームページ・S N S のリニューアル

2月17日(水)にホームページ、S N S のリニューアルを行います。

5 東海3県1市との連携

2月13日(土)～14日(日)に二子玉川ライズで実施された、「伊勢志摩サミット開催100日前記念 三重県フェア in 二子玉川ライズ」に東海3県1市が連携した取組としてブースを出展しました。

6 応援事業等との連携

「美し国三重市町対抗駅伝」ゴール地点で実施される「市町交流市場物産展」へ出展し、伊勢志摩サミットのP R を実施するとともに、三重県農産物等を使用したG 7各国にちなんだパン等の販売を予定しています。

7 市町・県と連携した広報

市町や県各部局が主催するイベント等でポスターやのぼり等を掲示することによりサミットのP R を行います。

(1) 市町イベント (ポスター・のぼり掲示等)

年月日	行事名	場所	市町
H28.2.1	伊勢市情報配信センター開設 プレス向けオープニングセレモニー	JR 伊勢市駅（南口） 手荷物預かり所前	伊勢市

H28. 2. 4	四日市STYLE 久留倍官衙遺跡シンポジウム	三重テラス	四日市市
H28. 2. 4	おひなさまめぐり in 二見 オープニングセレモニー	二見老人福祉センター	おひなさまめぐり in 二見実行委員会、NPO 法人二見浦・賓日館の会
H28. 2. 6	東海道のおひなさま龜山宿・関宿 オープニングイベント	関宿足湯交流施設	東海道のおひなさま龜山宿・関宿実行委員会
H28. 2. 6	かめやま会故の森 「森林の恵みと林内整備」	かめやま会故の森 (関観音山公園)	かめやま会故の森環境 整備協議会
H28. 2. 6	第5回地球塾	鳥羽商工会議所3階か もめホール	鳥羽市 生涯学習課
H28. 2. 6	輝く女性とまちづくりのシンポジウム	東員町総合文化センタ 一ひばりホール	東員町 企画部政策課
H28. 2. 6	名張市男女共同参画推進フォーラム 2015	武道交流館いきいき	名張市 生活環境部人権・男女 共同参画推進室
H28. 2. 11	石神さん女子マラソン大会	鳥羽市相差町千鳥ヶ浜	鳥羽市総務課
H28. 2. 11	人権を考える市民のつどい	鈴鹿市文化会館	鈴鹿市生活安全部 人権政策課
H28. 2. 13	津市人権講演会	津リージョンプラザ お城ホール	津市市民部人権課
H28. 2. 14	市内一斉清掃活動 ※キックオフイベントあり	市内各地区 ※キックオフイベント 阿児ふるさと公園	志摩市企画部 サミット推進室
H28. 2. 14 ～	伊勢志摩サミット100日前記念カウントダウン企画「仲間といっしょにカウントダウン！！」	市内各地	志摩市企画部 サミット推進室
H28. 2. 14	キックオフイベントとして各区における クリーンアップ活動	町内全域	南伊勢町 環境生活課
H28. 2. 14	～きれいなまちでお迎え～ クリーンアップ活動 in 伊勢 ～100日前キックオフイベント～	・伊勢市駅、宇治山田 駅周辺 ・五十鈴川駅周辺 ・二見浦駅周辺	伊勢市 商工労政課
H28. 2. 14	三重県自治会連合会 クリーンアップ活動 in 亀山	亀山市文化会館及び 亀山駅周辺	亀山市自治会連合会
H28. 2. 14	企画展関連講演会 第2回 連続講座 「シカとヒト」	鈴鹿市考古博物館講堂	鈴鹿市考古博物館
H28. 2. 16	伊勢志摩サミット100日前イベント 国道260号、サニーロード等沿いの町有地等 12箇所に、町で作成した伊勢志摩サミットの のぼり旗等を240本設置	町民文化会館、五ヶ所公園、 河村瑞賢公園、 南島メディカルセンター 他	南伊勢町建設課

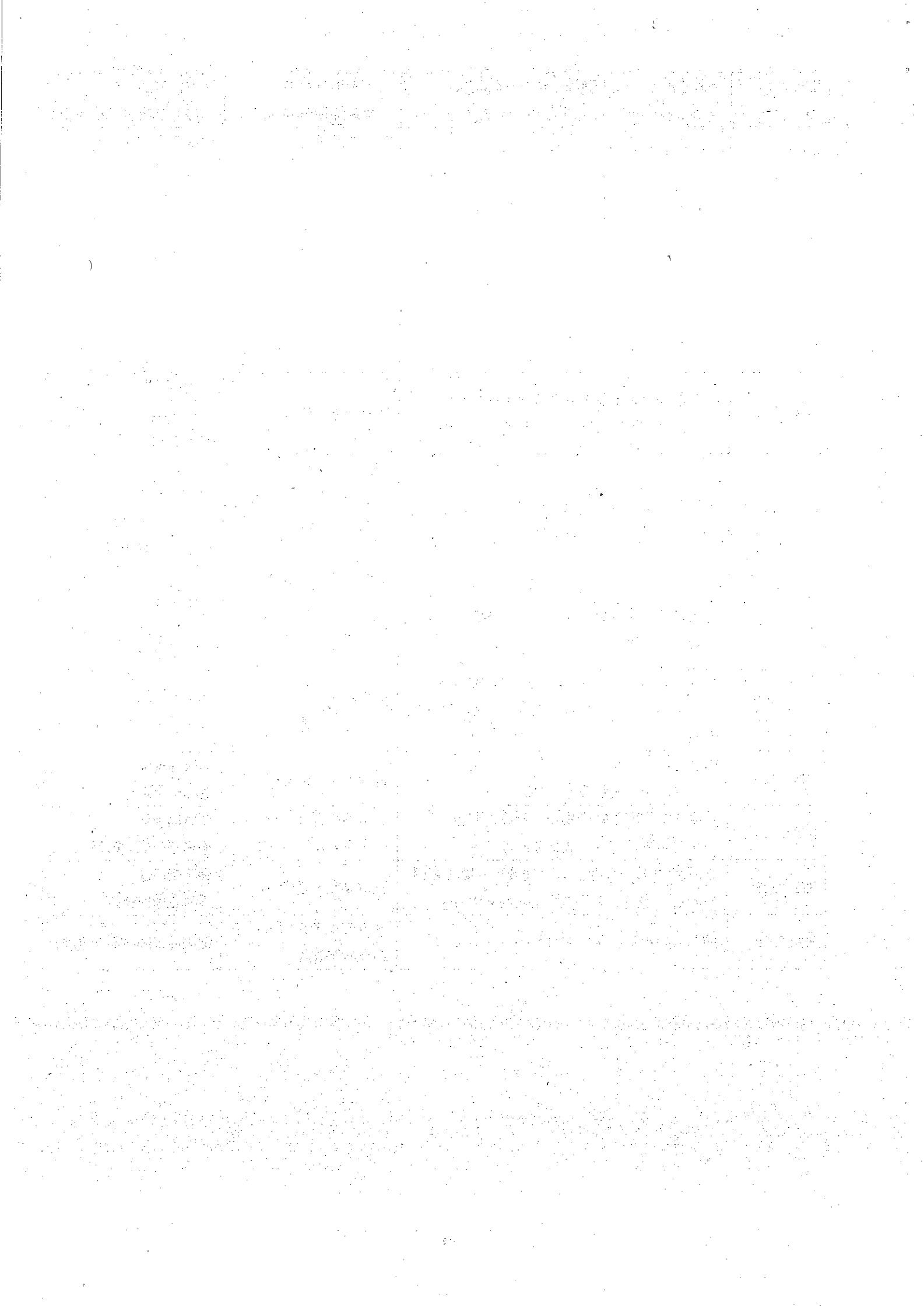
H28. 2. 20～ 3. 3.	伊賀上野・城下町のおひなさん	伊賀市上野本町通り周辺	伊賀市 産業振興部観光戦略課
H28. 2. 20	三重大学伊賀連携フィールド総括シンポジウム	ハイトピア伊賀 3階	伊賀市 企画振興部総合政策課
H28. 2. 20	志摩市小中学生カルチャーコンクール表彰式	志摩市役所	志摩市 教育委員会事務局 学校人権教育課
H28. 2. 20	伊勢志摩サミット 100 日前記念イベント 『志摩市まるごとおもてなしムーブメント』	市内各地区 (大王・志摩・磯部)	志摩市企画部 サミット推進室
H28. 2. 21	伊勢志摩サミット 100 日前記念イベント 『志摩市まるごとおもてなしムーブメント』	市内各地区 (浜島・阿児)	志摩市企画部 サミット推進室
H28. 2. 21	第15回 大人たちの doki doki コンサート	アドバンスコーポ ADSホール	名張市 教育委員会文化生涯学習室
H28. 2. 21	考古博物館 春まつり	鈴鹿市考古博物館	鈴鹿市考古博物館
H28. 2. 27 ・H28. 3. 5	「伊勢志摩サミット開催記念」 生涯学習講座	津市中央公民館会議室	津市教育委員会事務局 生涯学習課
H28. 2. 27	消防ひろば	アピタ鈴鹿店	鈴鹿市消防本部予防課
H28. 2. 27	市民講座「つながれば、ひろがる ～キーワードは男女共同参画～」	鈴鹿市男女共同参画センター	鈴鹿市男女共同参画課
H28. 2. 28	亀山市植樹祭	亀山市立白川小学校	亀山市
H28. 2. 28 (天候により順延の場合あり)	世界への架け橋 ～公園で吊橋を作ろう～ (仮)	市内 (現在調整中)	桑名市 ジュニアサミット 推進課
H28. 2. 28	ひろば de ノルディックウォーキング 体験会 2	津市まん中広場 (集合場所)	津市商業振興労政課
H28. 2. 28	大門ありえやんフェス	大門大通り商店街及び 津観音公園	津市商業振興労政課
H28. 2. 28	第21回武四郎まつり	松浦武四郎記念館	武四郎まつり実行委員会 (松阪市三雲地域振興局地域振興課内)
H28. 2. 28	青蓮寺湖駅伝競走大会	青蓮寺湖周辺	名張市教育委員会 市民スポーツ室
H28. 2. 28	第60回新入学を祝うよい子のつどい	鈴鹿市民会館	鈴鹿市教育委員会学校 教育課

(2) 県各部局イベント(ポスター・のぼり掲示やサミットに関連したイベントを実施します。)

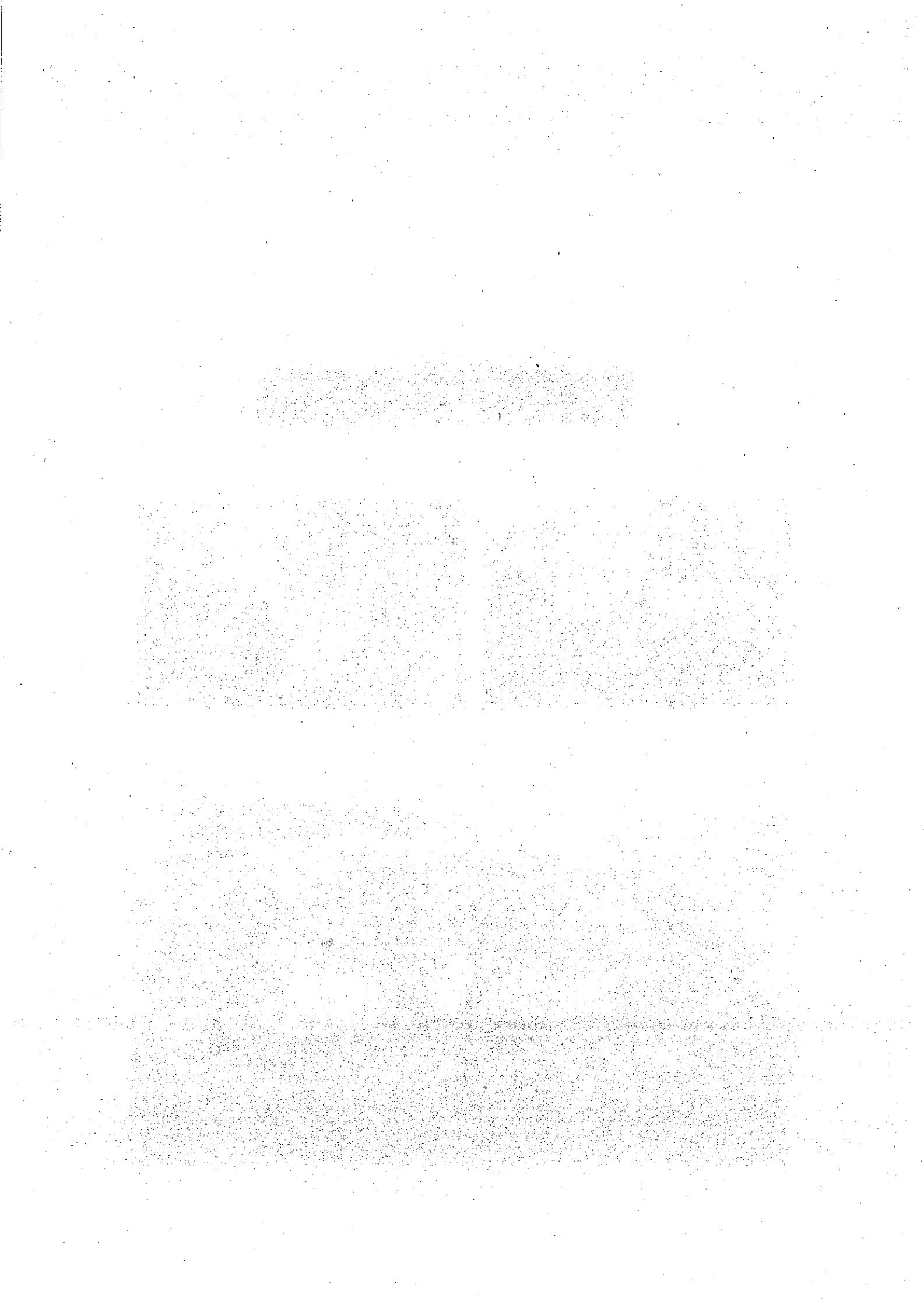
年月日	行事名	場所	担当課
H28. 2. 2	訪日外国人おもてなし研修	伊勢庁舎 401 会議室	健康福祉部 食品安全課
H28. 2. 2	衛生管理セミナー (レジオネラ症防止対策)	伊勢庁舎 401 会議室	健康福祉部 食品安全課

H28. 2. 6 ～14	三重まるごと自然体験・首都圏 PRイベント	赤坂サカス及び モンベルショップ 東京京橋店	農林水産部 農業基盤整備課
H28. 2. 6	第3回古代歴史文化賞記念シンポジウム	銀座プロッサム（銀座 中央会館）ホール	環境生活部 文化振興課
H28. 2. 6	みえの文化セミナー「斎宮と伊勢神宮の伝説」	近鉄文化サロン阿倍野	環境生活部文化振興課 (斎宮歴史博物館)
H28. 2. 7	ええとこやんか三重移住相談会	ふるさと回帰支援セン ター（東京）	地域連携部 地域支援課
H28. 2. 7	熊野古道セミナー	三重テラス	地域連携部 南部地域活性化局 東紀州振興課
H28. 2. 9	まるごと三重の自然体験・第2回いなかビジ ネス実践者大会	三重県 総合文化センター	農林水産部 農業基盤整備課
H28. 2. 9	平成27年度東海・近畿・北陸ブロック国際 化営農研究会	鳥羽シーサイドホテル	農林水産部 担い手育成課
H28. 2. 9	子ども・若者支援フォーラム	総合文化センター 小ホール	健康福祉部 子ども・家庭局 少子化対策課
H28. 2. 9 ～10	(9日)米国フロリダ州オーランド市における 現地料理人向け松阪牛メニュー研修会 (10日)米国フロリダ州オーランド市における 松阪牛PRフェア・オープニングセレモニー	フォーシーズンズ・リ ゾート・オーランド	農林水産部畜産課
H28. 2. 10～ 12	スーパーマーケット・トレードショー	東京ビッグサイト	雇用経済部 中小企業・サービス産 業振興課、地域資源活 用課
H28. 2. 10	人権講演会「土地差別をなくすために」	くわなメディアライヴ	環境生活部 三重県人権センター
H28. 2. 11	思春期保健指導セミナー	三重県医師会館	健康福祉部 子ども・家庭局 子育て支援課
H28. 2. 11	ふるさと・いいこと・フェア	品川インターナショナル	地域連携部 地域支援課
H28. 2. 11	海女トーク・サミット開催記念 (100日前記念プレス発表会の前に開催)	三重テラス	教育委員会 社会教育・文化財保護 課
H28. 2. 11～ 22	伊勢志摩サミット100日前記念 三重ウイーク in 日本橋 ～This is Japan, This is Mie～	東京日本橋エリア (三重テラス、三越、 ビジョンセンター東京 等)	戦略企画部 広聴広報課
H28. 2. 12	伊勢志摩サミット開催・ICETT設立25周年記 念事業 ASEAN環境フォーラム in 三重	四日市都ホテル	雇用経済部 雇用経済総務課

H28. 2. 13～ 14	伊勢志摩サミット開催100日前記念 「三重県フェア in 二子玉川ライズ」	二子玉川ライズ (東京都世田谷区)	雇用経済部 三重県営業本部担当課
H28. 2. 14	いいね！地方の暮らしフェア	サンシャインシティ 文化会館	地域連携部 地域支援課
H28. 2. 16～ 5. 16	サミットカウントダウンプレゼント企画	三重テラス	雇用経済部 三重県営業本部担当課
H28. 2. 16	平成27年度「県と市町の地域づくり連携・協 働協議会」総会	ホテルグリーンパーク 津	地域連携部 地域支援課
H28. 2. 19	料理研究家対象 会員制セミナー	東京都中央区銀座 東京ガススタジオプラ スジーギンザ	農林水産部 水産資源課
H28. 2. 20	伊勢志摩サミット100日前イベント MIE地方創生ベンチャーサミット 2016	四日市都ホテル	雇用経済部 中小企業・サービス産 業振興課
H28. 2. 20～ 21	伊勢志摩サミット開催記念 第9回美し国三重市町対抗駅伝	開会式（津センターパ レスホール）(20日) レース（県庁前～三重 交通G スポーツの杜 伊勢）(21日)	地域連携部 スポーツ推進局 スポーツ推進課
H28. 2. 20	育児男子大交流会、子ども応援隊育成事業企 業表彰式、講演会	みえこどもの城	健康福祉部 子ども・家庭局 少子化対策課
H28. 2月の 土日祝日	近鉄観光列車「つどい」車内で木育体験～三 重の木のボールプール「もりぼーる」で遊ぼ う～	近鉄観光列車 「つどい」車内	農林水産部 みどり共生推進課
H28. 2. 24	衛生管理セミナー (アレルギー表示など) (仮)	合同ビル G301	健康福祉部 食品安全課
H28. 2. 26	平成27年度毒物劇物安全対策講習会 ～伊勢志摩サミット成功に向けて～	三重県総合文化センタ 一中ホール	健康福祉部 薬務感染症対策課
H28. 2. 28	平成27年度「学生」×「地域」の取組事例 発表会 ベストプラクティスコンテスト	三重県庁 講堂	戦略企画部 戦略企画総務課
H28. 2. 28	猫と犬の正しい飼い方セミナー	メッセウイング・みえ 2階大研修室	健康福祉部食品安全課







平成 28 年 2 月 17 日
 伊勢志摩サミット三重県民会議事務局
 開催支援課

第 2 回住民懇話会の開催状況について

1 実施日時・場所・参加者数

(1) 南伊勢町

平成 28 年 2 月 7 日 午後 2 時から午後 3 時までの間
 南伊勢町民文化会館 参加者 60 人

(2) 志摩市

- ア 平成 28 年 2 月 7 日 午後 7 時から午後 8 時までの間
 浜島 B & G 海洋センター 浜島地区住民等 52 人
- イ 平成 28 年 2 月 10 日 午後 7 時から午後 8 時 20 分までの間
 志摩市磯部生涯学習センター 磯部地区住民等 62 人
- ウ 平成 28 年 2 月 11 日 午後 2 時から午後 3 時 20 分までの間
 志摩市役所 阿児地区住民等 92 人
- エ 平成 28 年 2 月 11 日 午後 7 時から午後 8 時までの間
 志摩市役所 阿児地区住民等 34 人
- オ 平成 28 年 2 月 13 日 午後 7 時から午後 8 時までの間
 神明地区公民館 阿児地区住民等 99 人
- カ 平成 28 年 2 月 15 日 午後 7 時から午後 8 時までの間
 賢島パークホテル「みち潮」 阿児地区住民等 53 人

(3) 伊勢市

平成 28 年 2 月 13 日 午後 2 時から午後 3 時までの間
 伊勢市生涯学習センターいせトピア 参加者 40 人 参加者合計 492 人

2 実施者

(1) 主催

三重県雇用経済部伊勢志摩サミット推進局

(2) 共催

三重県警察、第四管区海上保安本部及び地元 4 市町

3 説明内容

(1) 三重県

- ア 三重県による取組状況の説明
- イ 三重県民会議による取組状況の説明
- ウ 消防による取組状況の説明

(2) 三重県警察・第四管区海上保安本部

- ア 警備計画の進捗状況
- イ 警備による住民生活への影響状況
- ウ 今後の警備方針

(3) 地元自治体

- ア イベントの実施計画
- イ 警備への協力要請



4 質問内容

懇話会への出席者からは、IDカードや車両通行証の発行手続き、警備の開始時期や検問場所、海上航行や漁業への影響度合い等、具体的な警備の手法等についての質疑がありました。

各機関からは、

現在関係機関と調整中であり、決定次第情報発信する。

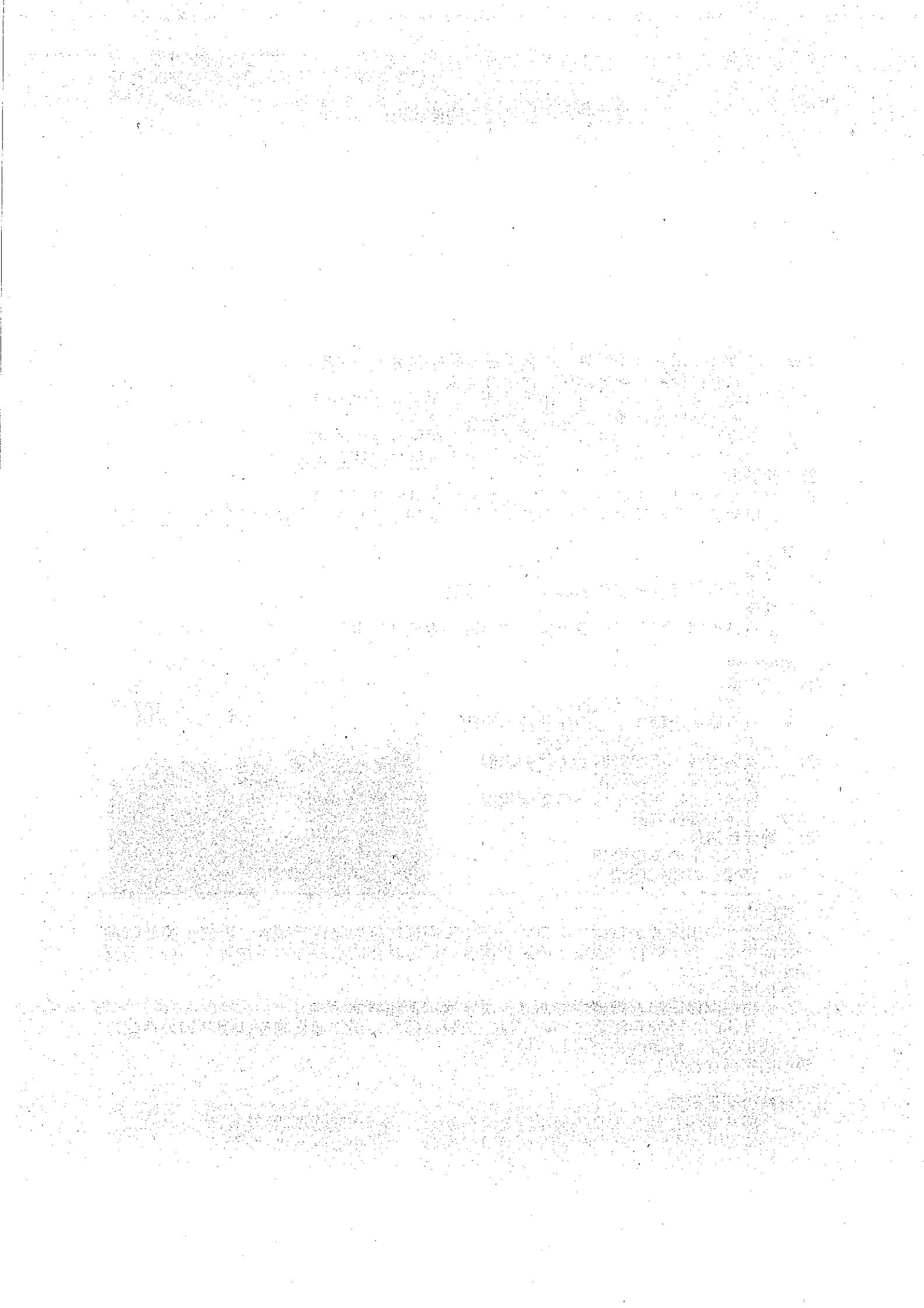
具体的な警備手法等については、公表は難しいが交通規制や迂回路等の情報は、決定次第、積極的に発信していきたい。

等の回答がされました。

5 今後の開催予定

- ・ 平成 28 年 2 月 21 日 午後 1 時 30 分から 志摩市間崎島開発総合センター
- ・ 平成 28 年 2 月 27 日 午後 2 時 00 分から 志摩市志摩文化会館
- ・ 平成 28 年 2 月 27 日 午後 7 時 00 分から 大王公民館
- ・ 平成 28 年 2 月 28 日 午後 2 時 00 分から 鳥羽市民文化会館

※ 第 3 回住民懇話会は 4 月下旬から 5 月上旬に開催する予定です。



平成28年2月17日
伊勢志摩サミット三重県民会議事務局
開催支援課

宿泊施設の状況について

1 宿泊予約センターによる宿泊施設確保状況

本年3月24日から5月29日までを5つの期間に分けて、それぞれの期間に必要と想定される客室を確保できるよう、伊勢志摩地域の全宿泊施設、及び津・亀山・鈴鹿以南のビジネスホテル（洋室）を主な対象に取り組んできました。

現時点では、おおよそ必要な客室数を確保できていますが、宿泊者は、サミット開催前後のピーク時には警備関係者を中心に2万5千人程度を想定しており、この期間については、対象地域を広げたうえで、引き続き宿泊施設に対し協力を依頼しています。

昨年7月には、宿泊対象と想定される施設に対し、GW明けからサミット開催までの期間の宿泊予約を受け付けないよう依頼しましたが、この協力依頼は10月16日に解除しました。また、宿泊予約センターによる配宿への協力申し出があった客室についても、出来る限り機会損失のないよう使用見込みのない期間・地域の客室については、昨年11月10日以降、順次、各施設への返還を行っています。

今後は、実際に宿泊する期間・人数・部屋タイプ等に応じた必要な客室を確保するため、随時、宿泊施設と個別調整を行い、増室及び減室を重ねていきます。

2 風評対策

4月・5月の伊勢志摩方面への旅行について、「宿が取れないのではないか」などの風評が一部で有るようですが、GW期間中までは、宿泊予約センターがサミット関係者用に確保している客室もそれほど多くなく、センターの確保分以外は各宿泊施設が通常通りの営業を行っており、GW明けも開催が近づくまでは一般観光客の利用について特別な制限は有りません。観光局と連携し、旅行代理店や観光客への適時的確な情報提供に取り組むことにより、正確な理解の促進と誘客に努めています。

【県民会議の取組状況】

・1月14日（木）

JTBグループが取引している全世界の旅行代理店向けに配信されるメールマガジン（Japan Infocus）において、伊勢志摩の魅力についての記事を掲載するとともに、ゴールデンウイークからサミットまでの期間についても来訪を歓迎することを発信。

※その他、宿泊予約センターを運営する共同事業体を構成する㈱JTB中部、近畿日本ツーリスト㈱、㈱日本旅行において、積極的な旅行プランの造成や風評被害防止のための正確な情報発信に努めていただくよう要請。

【観光局の取組状況】

・1月8日（金）

伊勢志摩地域の観光協会等観光関係者を訪問し、現状把握及び情報提供。

- ・ 1月13日（水）
(一社) 日本旅行業協会(大手旅行会社、宿泊施設等約450会員)の賀詞交歓会で三重県への送客を告知。
- ・ 1月19日（火）
JTB中部圏誘致協議会(中部8県(富山、石川、福井、長野、岐阜、静岡、愛知、三重)のJTB関係者、宿泊施設、観光施設等約600会員)の賀詞交歓会で三重県への送客をお願いすることに加え、JTB店舗でのキャンペーン開催の依頼。
- ・ 1月21日（木）
JTB本社主催賀詞交歓会で、木村三重県旅館ホテル生活衛生同業組合理事長が(一社)日本旅行業協会田川会長(JTBグループ会長)に文書(12月24日付け)を手渡し、三重県への送客を依頼。
- ・ 1月22日（金）
 - ① (一社)全国旅行業協会の支部(愛知、岐阜、静岡、大阪、兵庫)に対して、伊勢志摩地域の宿泊施設の状況について情報を提供し三重県への送客を依頼。今後、各支部から会員旅行会社に情報共有される予定。
 - ②観光経済新聞主催「人気温泉旅館250選5ツ星の宿表彰式」で、東京事務所長が三重県への誘客を依頼。
- ・ 2月1日（月）
近畿日本ツーリスト直営店及び特約店約730店舗に対して伊勢志摩の宿泊施設への送客依頼文書の配信を依頼。
- ・ 2月9日（火）
(一社)全国旅行業協会本部に対して、会員会社への伊勢志摩の宿泊施設への送客依頼文書の配信を依頼したところ、約3,000社にメールマガジンで配信いただく予定。
- ・ 2月9日（火）
3月にJTB中部管内の165店舗にて伊勢志摩送客キャンペーンを実施することが決定。
- ・ 2月10日（水）
伊勢鳥羽地域の観光協会関係者を訪問し、現状把握。
- ・ 2月17日（水）
三重県観光連盟事務局から会員(266)宛に誘客営業用書面を配信。
- ・ 2月18日（木）
大手旅行会社4社の仕入れセンター(宿の宿泊状況を把握している部署)を訪問し現状把握を行う予定。

3 今後の予定

1月29日から、宿泊予約センターのホームページ上で、報道関係者の宿泊予約受付を開始しました。宿泊予約センターによる予約受付状況については、3月下旬に各宿泊施設に中間状況報告を行い(その他にも問い合わせには随時対応)、4月25日には一旦予約受付を終了する予定です。

ホームページ上の予約受付と並行して、その他の関係者についても各宿泊施設と調整の上、具体的な配宿作業を進めます。

平成28年2月17日
伊勢志摩サミット三重県民会議事務局
総務課

伊勢志摩サミットに係る経済効果の試算について

1 目的

県民会議として、伊勢志摩サミット（以下「サミット」という。）開催による経済効果について、国、県等のサミット開催に関する経費を把握したうえで試算・公表する。

2 直接的な効果

（1） 基本的な考え方

- ① サミット開催による直接効果に基づく生産波及効果を測定。
- ② サミット開催に関する経費として、国・県（県内市町含む）の予算のうち、県内に直接生じる費用を測定。ただし、把握が困難なものは仮置きとする。
※算定にあたっては、一部暫定的なデータを活用（例：国の予算額は概算要求ベース等）。

（2） 測定方法

仮置きした前提条件をもとに、「平成17年三重県地域間産業連関表（36部門表）」の項目に振り分け、試算。

3 パブリシティ効果

（1） 基本的な考え方

- ① 国内外において伊勢志摩サミットに関する記事や番組等によるパブリシティ効果を、サミット開催決定後の紙面掲載件数、放映時間数等をベースに、広告費やCM料金等に換算し、測定。
- ② 調査対象とするエリア：首都圏及び海外
- ③ 調査対象とするメディア（国内・海外）：新聞、雑誌、テレビ、インターネット
- ④ 調査対象期間：平成27年6月1日から平成28年6月30日まで

（2） 測定方法

国内外におけるメディアを継続的にモニタリングするため、民間業者に委託。

4 今後のスケジュール

平成28年度当初予算の公表をふまえて、仮試算を行い、中間報告発表を行う予定。サミット終了後再試算したものを、最終報告として8月以降に発表予定。

参考

民間機関における「伊勢志摩サミット」に係る経済効果の試算結果について（報道発表ベース）

	百五経済研究所（平成 27 年 6, 12 月）	大和証券（平成 27 年 6 月）	中部圏社会経済研究所（平成 28 年 2 月）
直接的な効果	全国（三重県分含む）510 億円 うち、三重県内 130 億円	未算定	<p>① 経済効果（生産波及効果）</p> <p>三重県 328.6 億円 〔日本全体 1,078.6 億円、東海 3 県 400.5 億円〕</p> <p>② 粗附加価値誘発効果</p> <p>中部 5 県 441.2 億円、中部 9 県 459.1 億円 〔日本全体 528.9 億円、東海 3 県 202.3 億円〕</p> <p>③ 雇用誘発効果</p> <p>三重県 173.4 億円 〔日本全体 520.2 億円、中部 9 県 227.9 億円〕</p> <p>④ 観光消費額</p> <p>三重県 2,660 人 〔日本全体 7,365 人、東海 3 県 2,991 人〕</p> <p>中部 5 県 3,209 人、中部 9 県 3,306 人</p> <p>※ サミット開催によるマイナス効果（観光消費額の減少）は、サミット開催前・期間中の警備強化や交通規制等のため、観光客が▲26.9 万人減少する結果、▲31.9 億円。</p>
バスサミット効果	総額 222 億円（5 年間の累計 1,110 億円）	観光消費額が 5 年間の累計で 1,750 億円の増。（結果的に北海道洞爺湖サミット（122 億円増）の 10 倍以上）	<p>観光消費額が 5 年間の累計で 1,194.2 億円の増。</p> <p>※奈良県と同程度の訪日外国人／日本人比率を想定。県の訪日外国人観光消費額が平成 25 年の約 22 億円に対し、約 17 倍の 369 億円程度、2020 年には倍の 700 億円程度と期待（伊勢志摩を訪れる日本人が横ばいを前提）。</p>

※ 伊勢志摩サミットに係るパブリシティ効果を試算している民間機関はなし。

協賛、応援、寄附の申込状況等について

平成28年2月17日

協賛、応援、寄附の募集にかかる2月15日時点での申込状況は、下記のとおりです。

協 賛	応 援
90件 うち登録76件	556件 うち登録515件

寄 附			
合計		795件	440,724,338円
内 訳	法人	543件	420,361,690円
	個人	103件	19,883,538円
	クラウド ファンディング	149件	479,110円

〔備考〕

- ・協賛の事業提案内容は、別添のとおりです。
- ・12月16日から、クラウドファンディングを開始しました。



協賛申込状況

H28.2.15 時点

伊勢志摩サミットにかかる協賛事業について、現時点での申込状況は、下記のとおりです。

- 【備考】・登録欄の「済」は登録済のもの、空欄は審査中のものです。
- ・公表欄の「○」は内容の公表に同意があるもの、「×」は公表を希望しないものです。

【協賛】

申請件数	90
うち登録件数	76

申込者一覧

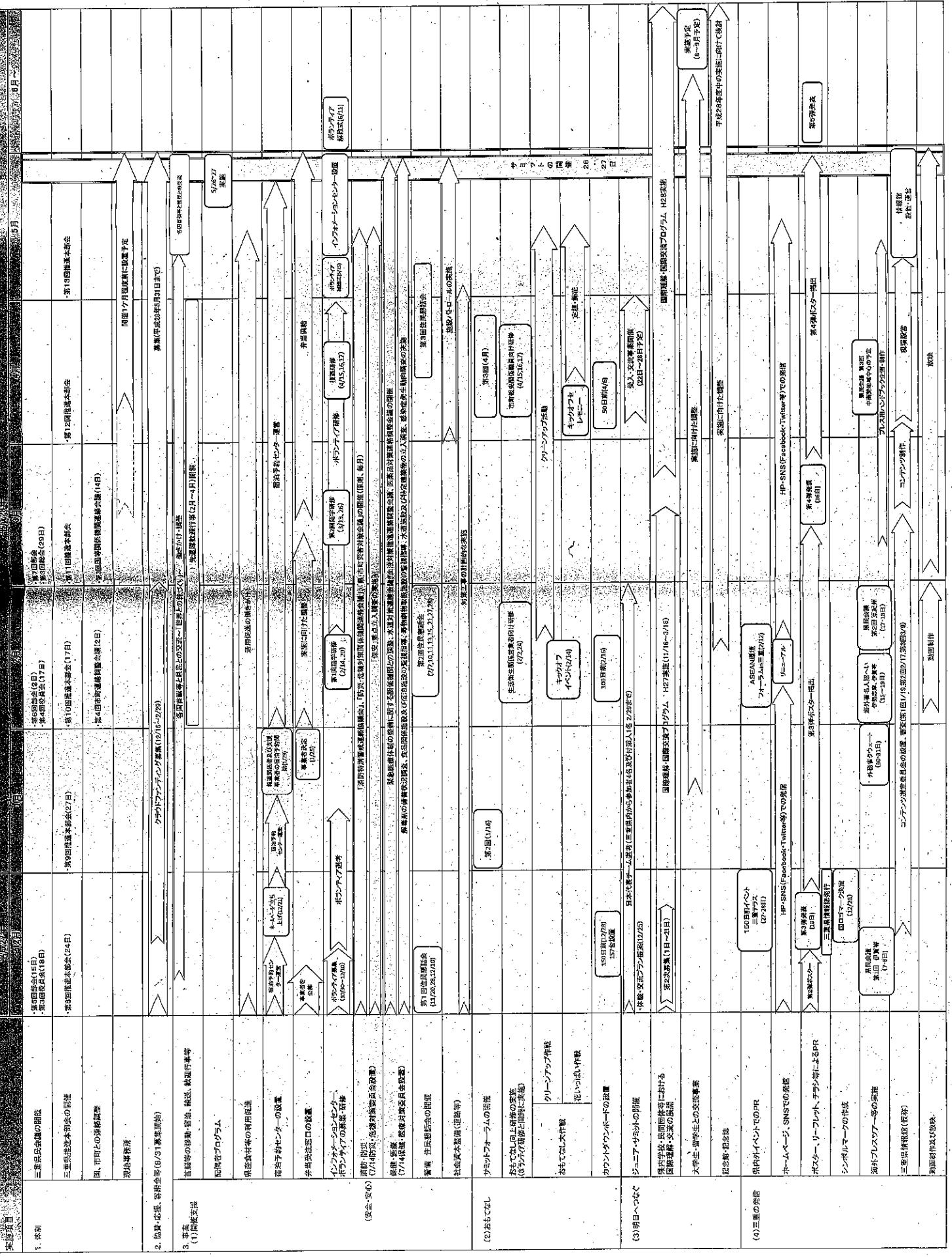
番号	受付日	提案者名	提案内容	登録	公表
1	H27.8.28	三重トヨタ自動車株式会社	クリーンアップ運動へのごみ袋等提供他	済	○
2	H27.9.3	尾鷲名水株式会社	サミットの出席者、スタッフにミネラルウォーターを提供	済	○
3	H27.9.11	「小さな親切」運動三重県本部	ごみ袋3万枚(JT協賛)配布し小中学校、企業等とともに、県民会議と一緒に週に環境美化活動実施	済	○
4	H27.9.11	百五銀行「小さな親切」の会	百五銀行の行員3,000名がサミット開催の直前週に環境美化活動実施	済	○
5	H27.9.16	株式会社宝輪	HOWAビル津(県民会議事務局入居)の空いている立体駐車場を無償貸与	済	○
6	H27.9.18	株式会社アクアイグニス	県民会議が主催するイベント・各種セレブレーション等へ「伊勢海老パイ」を提供	済	○
7	H27.9.24	株式会社ピーイング	①プロジェクトマネジメントツール無償提供②コンサルサービスとソフト運用支援業務の無償提供	済	○
8	H27.9.25	-	-		○
9	H27.9.25	-	-		○
10	H27.9.25	-	-		○
11	H27.10.5	三重畜産有限会社	サミット関連事業へ牛肉、豚肉、加工品等を提供	済	○
12	H27.10.14	新日本工業株式会社	伊勢志摩サミットの情報誌、パンフレットを入れるケースを作成し提供	済	○
13	H27.10.16	東紀州ヒロメ養殖協議会	県民会議が主催するイベント・各種セレブレーション等へ東紀州の特産品「ヒロメ」を提供	済	○
14	H27.10.20	マックスバリュ中部株式会社	伊勢志摩サミット関連イベントを対象とした店頭催事スペースの無償貸与	済	○
15	H27.10.26	-	-		後日公表
16	H27.10.28	株式会社マルゴ水産	催事会場等へ三重県産活あさり、しじみ、はまぐりの提供	済	○
17	H27.10.30	萬古陶磁器振興協同組合連合会	三重県産の農水産品を扱う団体とコラボしながら萬古焼を提供	済	○
18	H27.10.30	日本たばこ産業株式会社 東海支社	観光、宿泊、警備、報道関係など、人が集まる場所へのスタンド灰皿の提供	済	○
19	H27.11.2	株式会社プラトンホテル	ミス・ユニバース三重ファイナリストによる「伊勢志摩サミット」応援大使	済	○
20	H27.11.2	学校法人鈴鹿医療科学大学	第2回伊勢志摩サミットフォーラム会場となる鈴鹿医療科学白子キャンパスを無償貸与	済	○
21	H27.11.5	大石 小石	サミット関連事業参加者へ本真珠のタイタックとカフスセット提供	済	○
22	H27.11.5	黒瀬町自治会	第62回式年遷宮にて使用した子供奉曳車をセレブレーション会場等での展示のため貸与	済	○
23	H27.11.6	株式会社赤福	セレブレーション開催時の「赤福茶屋」出展	済	○
24	H27.11.6	松阪牛協議会	セレブレーション開催時の各種商品提供	済	○
25	H27.11.6	日本トランシティ株式会社	外国語ボランティアの派遣(20~30人程度)	済	○
26	H27.11.10	マイスターコーティング鈴鹿店	県民会議が行うイベントのトイレなどをコーティングする技術を提供	済	○
27	H27.11.12	JAグループ三重	イベント・セレブレーション等へ伊勢茶ペットボトルを3,310本提供	済	○
28	H27.11.13	株式会社電通名鉄コミュニケーションズ	各種アイテムのデザインやイメージの統一化を図るため伊勢志摩サミット共通デザインを提供	済	○
29	H27.11.16	三重県生活衛生同業組合連合会	県民会議のクリーンアップ活動に参加(約100名規模)	済	○
30	H27.11.16	株式会社三重興農社	飾花用のプランターを150個程度提供	済	
31	H27.11.17	-	-		後日公表
32	H27.11.17	株式会社大洋工芸	イベント等でパネルなどを展示する際に必要な展示用ボードを無償提供	済	○
33	H27.11.20	おぼろタオル株式会社	サミット関連事業の参加者等へフェイスタオル500枚を提供	済	○
34	H27.12.1	四日市スーパービジョン	四日市駅前のスーパービジョンでサミット関連動画を放映	済	○
35	H27.12.2	NTN株式会社 伊勢志摩サミット応援プロジェクト	複合型(風力・太陽光)の街路灯を10基提供	済	○
36	H27.12.8	森林組合おわせ	セレブレーション開催時のヒノキ板提供	済	○
37	H27.12.8	三重県森林組合連合会	カウントダウンボード(小)×1基、(大)×2基の提供	済	○
38	H27.12.8	有限会社森と水を守る会	各種会場等へ「森の番人」ペットボトル500ml×5,000本提供	済	○
39	H27.12.17	株式会社百五銀行	外国語ボランティアの派遣(10~20人程度)	済	○
40	H27.12.17	西川製菓「鈴鹿あられ」	イベント等へ「サミットあられ」を提供	済	○
41	H27.12.17	花の国づくり三重県協議会	花いっぱい運動に必要な講師役の派遣	済	○
42	H27.12.17	三重県花植木振興会	イベント会場等で植木を用いた飾花	済	○
43	H27.12.17	株式会社コミュニケーションサービス	フリーマガジン「みえなびプラス」へサミット関連情報を掲載	済	○
44	H27.12.17	株式会社保田商店	ジュニアサミット会場へ「桑名もち小麦」のお菓子提供	済	○
45	H27.12.17	株式会社貫じん堂／ウッドメイクキタムラ	開催記念フラッグスタンドの提供	済	○
46	H27.12.17	株式会社ナミカワ	県民会議公式ポスター第3弾への社名表記を前提とした協賛事業	済	○
47	H27.12.17	株式会社百五銀行	県民会議公式ポスター第3弾への社名表記を前提とした協賛事業	済	○
48	H27.12.17	イオングループ	県民会議公式ポスター第3弾への社名表記を前提とした協賛事業	済	○
49	H27.12.17	株式会社第三銀行	県民会議公式ポスター第3弾への社名表記を前提とした協賛事業	済	○
50	H27.12.17	株式会社トーエネック 三重支店	県民会議公式ポスター第3弾への社名表記を前提とした協賛事業	済	○
51	H27.12.17	損害保険ジャパン日本興亜株式会社	県民会議公式ポスター第3弾への社名表記を前提とした協賛事業	済	○
52	H27.12.18	桑名の千羽鶴保存会	桑名市無形文化財「桑名の千羽鶴」装飾置物をセレブレーション会場等での展示用として貸与	済	○
53	H27.12.21	NTN株式会社 伊勢志摩サミット応援プロジェクト	ジュニア・サミットin三重開催のラッピングを施したEV車両を3台貸与	済	○
54	H27.12.21	三重県漁業協同組合連合会	伊勢志摩サミット150日前記念イベントにおけるまぐろ解体ショーに調理補助員や販促物の貸与	済	○
55	H27.12.21	株式会社朝日屋	伊勢志摩サミット150日前イベントにおける試食会に「ももみや号」精肉を無償提供	済	○
56	H27.12.28	イオンモール株式会社	県民会議が実施するイベントスペースの無償貸与	済	○

番号	受付日	提案者名	提案内容	登録	公表
57	H28.1.5-	-	-	済	後日公表
58	H28.1.5	井村屋グループ株式会社	井村屋スポーツようかん50,000本提供	済	○
59	H28.1.5	コカ・コーライーストジャパン株式会社	コカ・コーラ製品4,800本提供	済	○
60	H28.1.5-	-	-	済	×
61	H28.1.5	JAグループ三重	伊勢志摩サミット150日前イベントにおける来場者へ伊勢のバラを提供	済	○
62	H28.1.7	イオンリテール株式会社	伊勢志摩サミット150日前記念イベントにおけるまぐろの解体時に必要な技能を有する職員の派遣	済	○
63	H28.1.12-	-	-	-	○
64	H28.1.12	井村屋グループ株式会社	県民会議が実施するイベント等へ振る舞いぜんざい30,000食分	済	○
65	H28.1.13	株式会社エルテス	サミット開催前後の「三重の発信」に関するネット上の評判分析	済	○
66	H28.1.13-	-	-	-	○
67	H28.1.13	株式会社エルテス	サミット開催期間中のネット上のリスク情報収集	済	○
68	H28.1.18	創作工房ネオ	県内産の間伐材で作ったエコ箸1,000膳協賛	済	○
69	H28.1.18-	-	-	済	×
70	H28.1.22	サンヨー食品株式会社	伊勢志摩サミット開催記念 三重亀山ラーメン7,777個協賛	済	○
71	H28.1.25	株式会社ナミカワ	県民会議第3弾ポスターB1、B2サイズ至急分の印刷	済	○
72	H28.1.25-	-	-	済	後日公表
73	H28.1.25	住友電装株式会社	外国語ボランティアの派遣(10人程度)	済	○
74	H28.1.25	全日本空輸株式会社 名古屋支店	機内誌広告枠、機内VTR枠の無償提供	済	○
75	H28.1.25	株式会社伊勢・安土桃山文化村	無料招待券5,000枚提供	済	○
76	H28.1.25	亀山製絲株式会社	ナノファイバーマスク10,000枚協賛	済	○
77	H28.1.26-	-	-	済	×
78	H28.2.1	三重いちごブランド化推進協議会	150日前イベントで来場者プレゼントして「かおり野」いちごを提供	済	○
79	H28.2.1	草月会三重県支部	第2回伊勢志摩サミットフォーラム会場にいけばなの提供	済	○
80	H28.2.1-	-	-	-	×
81	H28.2.3	株式会社貢じん堂／ウッドメイクキタムラ	開催記念フラッグスタンドの提供(8か国バージョン)	済	○
82	H28.2.9-	-	-	-	後日公表
83	H28.2.9	パナソニックエコシステムズ株式会社／新日本工業株式会社	空間清浄機「ジアイーノ」2台協賛	済	○
84	H28.2.9-	-	-	-	○
85	H28.2.9-	-	-	-	○
86	H28.2.9-	-	-	-	○
87	H28.2.10-	-	-	-	×
88	H28.2.15-	-	-	-	○
89	H28.2.15-	-	-	-	○
90	H28.2.15-	-	-	-	○
91					
92					
93					
94					
95					
96					
97					
98					
99					
100					

伊勢志摩サミット開催に向けた全体のスケジュール

資料6

2016年3月刊





参考資料1

平成28年2月17日
伊勢志摩サミット三重県民会議事務局
開催支援課

伊勢志摩サミット宿泊予約センターについて

1 目的

サミット開催時に集中的に来県する関係者の宿泊先を、安定的かつ効率的に確保・提供するとともに、宿泊者及び宿泊施設に対する適切なサポートや三重県の観光振興につながる取組を行う。

2 取組内容

(1) センターの役割

伊勢志摩サミット三重県民会議が公認する宿泊予約センターとして、サミット開催時に集中的に来県する関係者に対し、宿泊先となるホテル等を安定的かつ効率的に確保し、宿泊希望者への円滑かつ適切な申込み、配宿、精算、情報提供などのサービスを一元的に提供するとともに、宿泊施設に対するサミット関係者受け入れにあたってのサポートや三重県の観光振興に係る取組などを行う。

(2) 宿泊予約取扱対象者

各国代表団、報道関係者、日本政府関係者、警備関係者、消防関係者、医療関係者等

(3) センター概要

①開設日 平成27年8月24日（月）

②運営事業者 伊勢志摩サミットに係る宿泊手配等業務コンソーシアム

※株式会社JTB中部（代表）、近畿日本ツーリスト株式会社、
株式会社日本旅行の3社による共同事業体

③住 所 三重県津市羽所町375 百五・明治安田ビル5階

④電話番号 059-228-8450

⑤営業時間 平日9時30分から17時30分まで（土日祝は休業）

⑥職員体制 25人（2月1日から4人増員）

(4) 宿泊施設確保状況

本年3月24日から5月29日までを5つの期間に分けて、それぞれの期間に必要と想定される客室を確保できるよう、伊勢志摩地域の全宿泊施設、及び津・亀山・鈴鹿以南のビジネスホテル（洋室）を主な対象に取り組んできました。

現時点では、おおよそ必要な客室数を確保できていますが、宿泊者は、サミット開催前後のピーク時には警備関係者を中心に2万5千人程度を想定しており、この期間については、対象地域を広げたうえで、引き続き宿泊施設に対し協力を依頼しています。

昨年7月には、宿泊対象と想定される施設に対し、GW明けからサミット開催までの期間の宿泊予約を受け付けないよう依頼しましたが、この協力依頼は10月16日に解除しました。また、宿泊予約センターによる配宿への協力申し出があつ

た客室についても、出来る限り機会損失のないよう使用見込みのない期間・地域の客室については、昨年11月10日以降、順次、各施設への返還を行っています。

今後は、実際に宿泊する期間・人数・部屋タイプ等に応じた必要な客室を確保するため、隨時、宿泊施設と個別調整を行い、増室及び減室を重ねていきます。

(5) 風評対策

4月・5月の伊勢志摩方面への旅行について、「宿が取れないのではないか」などの風評が一部で有るようですが、GW期間中までは、宿泊予約センターがサミット関係者用に確保している客室もそれほど多くなく、センターの確保分以外は各宿泊施設が通常通りの営業を行っており、GW明けも開催が近づくまでは一般観光客の利用について特別な制限は有りません。観光局と連携し、旅行代理店や観光客への適時的確な情報提供に取り組むことにより、正確な理解の促進と誘客に努めています。

【県民会議（宿泊予約センター）の取組状況】

・ 1月14日（木）

JTBグループが取引している全世界の旅行代理店向けに配信されるメールマガジン（Japan Infocus）において、伊勢志摩の魅力についての記事を掲載するとともに、ゴールデンウィークからサミットまでの期間についても来訪を歓迎することを発信。

※その他、宿泊予約センターを運営する共同事業体を構成する㈱JTB中部、近畿日本ツーリスト㈱、㈱日本旅行において、積極的な旅行プランの造成や風評被害防止のための正確な情報発信に努めていただくよう要請。

3 事業実施スケジュール（予定）

- ・ 8月31日～9月7日 宿泊施設向け説明会の開催
(伊勢市、志摩市、鳥羽市、津市で計10回)
- ・ 9月～ 必要な客室数の確保
- ・ 10月～ センター新事務所開設、宿泊希望者からの問合せ対応・調整
- ・ 11月～ 確保済み客室の内、使用見込みのない客室の返還（隨時）
- ・ 12月21日 宿泊予約センターホームページの立ち上げ
- ・ 1月29日 ホームページ上に宿泊申込WEBサイト開設（報道関係者、支援事業者）
- ・ 1月29日 宿泊施設に対する配宿計画案の提示
- ・ 3月下旬 宿泊施設への中間予約状況報告
- ・ 4月25日 WEBサイトでの宿泊申込受付終了
- ・ 1～4月 宿泊施設向け説明会、外国人おもてなしセミナー等の開催

参考資料2

平成28年2月17日
伊勢志摩サミット三重県民会議事務局
開催支援課

配偶者プログラムについて

1 目的

国に対し配偶者プログラムの訪問先や体験内容等についての提案を行うことで、美しい自然や豊かな文化・伝統などの三重の魅力をプログラムに盛り込み、三重の魅力を世界に向けて発信していく。

2 取組方針

- (1) 国が行う配偶者プログラムに、三重県としての提案を盛り込んでもらう。
- (2) 首脳会議が1泊2日で予定されており、配偶者プログラムもその期間内での実施となる（想定：5月26日午後、27日午前）。ただし、日程を勘案するとそれぞれ半日程度の行程となり、賢島から遠距離への訪問はできない。

3 取組状況

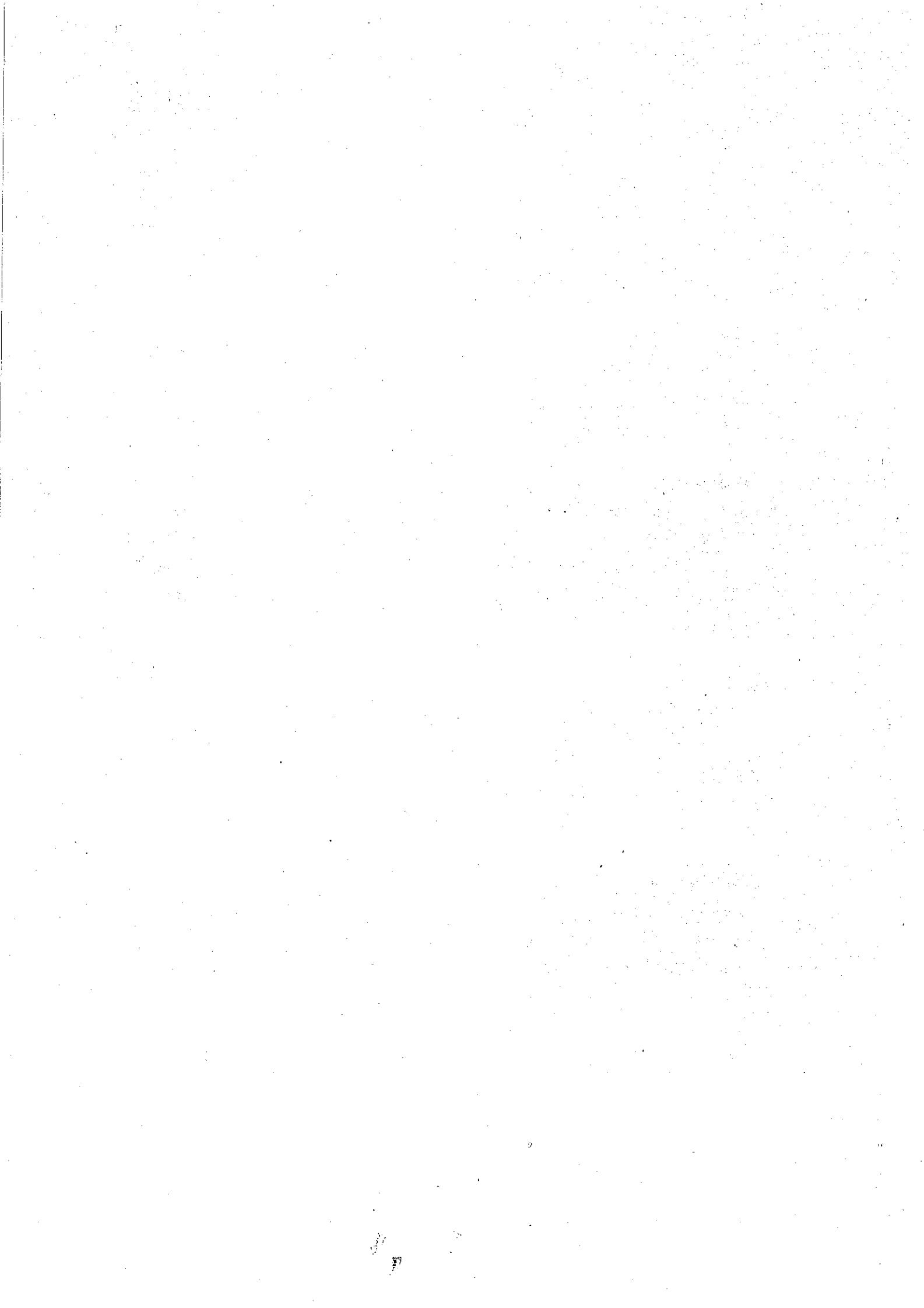
テーマ性やストーリー性を持たせた訪問先やコンテンツを総合的に検討のうえ、県としての案を決定し、10月9日（金）に、知事から外務省に対し、提案を行った。

- ・テーマ：「伊勢志摩にみる日本の伝統・文化」
- ・キーワード：「多様性」「持続性」「独創性」「女性」「食」

4 今後の進め方

三重県提案の採用を検討段階の外務省に改めて働きかける。検討に際し、具体化が必要な内容に関しては調整のうえ、情報提供を行っていく。

国が配偶者プログラムの訪問先等を決定した後は、県民会議の担当となる行程について、県民会議としてコンテンツを具体に検討し実施する。



平成28年2月17日

伊勢志摩サミット三重県民会議事務局
事業推進課

ジュニア・サミットについて

1 目的

ジュニア・サミット参加者が三重県の魅力に触れるとともに、三重県の子ども達に交流機会を提供します。

2 これまでの経緯

- 8月 5日 鈴木知事から中山泰秀外務副大臣に本県開催を強く要望
- 9月 17日 伊勢志摩サミット推進局長から外務省大臣官房人物交流室長に、開催日程（案）や討議テーマ及び討議に資する視察先を提案
- 10月 27日 外務省飯倉公館で開催された「伊勢志摩サミット開催レセプション」にて、岸田文雄外務大臣がジュニア・サミットの三重県開催を発表
 - 【開催時期】 平成28年4月22日から
 - 【開催場所】 三重県桑名市を主会場とし、県内各地で視察、交流イベントを行う形で開催
- 11月 17日 ジュニア・サミットに参加する日本代表を募集（～12月7日）
- 12月 19日 ジュニア・サミットに参加する日本代表の選考会を実施
- 12月 25日 伊勢志摩サミット推進局長から外務省大臣官房人物交流室長に、県内分散型の体験・交流プラン及び三重ならではの歓迎交流行事を開催を提案
- 1月 23日 ジュニア・サミット日本代表に対する事前研修を開始（～4月9日）

3 事業の概要

(1) 開催内容について

- ・名称：「2016年ジュニア・サミットin三重」
- ・開催期間（予定）：平成28年4月22日から28日まで
(4月21日会場入り、4月29日東京出発)
- ・主催：日本国外務省、共催：伊勢志摩サミット三重県民会議
- ・会議（討議）テーマ（案）：「次世代につなぐ地球～環境と持続可能な社会」
- ・参加者：G7各国の原則として15歳～18歳の4名のチーム（男性2名、女性2名）及び付添人1名
- ・使用言語：英語
- ・プログラム（暫定）

- 4月 21日（木）桑名市到着
- 4月 22日（金）開会式、会議
- 4月 23日（土）会議、視察
- 4月 24日（日）会議
- 4月 25日（月）県内分散型交流行事
- 4月 26日（火）会議、三重県送別行事、東京に移動

4月27日（水）政府首脳に成果文書提出（27日又は28日）、都内視察

4月28日（木）同上

4月29日（金）東京出発

4 今後の取組方針

- (1) ジュニア・サミットに日本代表として参加する高校生については、引き続き事前研修を行うとともに、外務省と協議の上、適切な時期に発表を予定しています。
- (2) 三重県ならではの歓迎・交流行事や、県内高校生等との交流を含む県内各地分散型の体験・交流の具体的なプランについて、訪問先が決定後、関係市町及び関係施設と実施に向けた調整を行っていきます。
- (3) 開催日程を通して、県内高校生等と参加者の交流や、県内農業高校等による飾花活動等、少しでも多くの県内高校生が参画できるよう、引き続き外務省と協議します。
- (4) 開催に向け、参加者の歓迎や受け入れ等について、主会場となる桑名市をはじめ、北勢地域の市町や県内の関係者と緊密な連携を図っていきます。

平成 28 年 2 月 17 日
伊勢志摩サミット三重県民会議事務局
事業推進課

シンボルマークの作成について

1 目的

国によるロゴマーク（平成 27 年 12 月 28 日に決定）に先んじて、県民会議や県民会議の活動に賛同する多くの県民ができるだけ早期に、かつ自由に使用できる県民会議としてのシンボルマークを独自に作成し、広報活動に活用することで開催機運の醸成を図ります。

また、選定の考え方自体を県民会議の活動方針の象徴とし、県内外に強いメッセージを伝えていきます。

2 作成方法

(1) 作成方針

シンボルマーク作成のプロセス自体に県民会議からのメッセージを込め、県内外に発信しました。

① 近藤敦也氏に作成を依頼（平成 27 年 8 月 21 日）

近藤氏は北勢きらら学園在校時の作品が平成 20 年の北海道洞爺湖サミットのロゴマーク公募で最優秀作として採用され、その後、筋ジストロフィーという難病を抱えながらも、夢であったグラフィックデザインの仕事に従事され、現在に至るまで継続的にデザインに関わっておられます。

同氏にシンボルマークを作成いただくことで、北海道洞爺湖サミットの経験を伊勢志摩サミットの成功と三重県の明日へつなげていく、また、多様な主体に参画いただくことを、県民会議からの強いメッセージとして発信します。

② シンボルマークの県民投票（平成 27 年 9 月 25 日～10 月 1 日）

県民会議の基本的な考え方である「さまざまな県民が準備段階から事業の企画に携わり、実施して、サミットに参画する」ということを実現するため、近藤氏に作成いただいたシンボルマーク数案を、県民投票へかける機会を設けました。

※ 投票総数 3,577 票

③ シンボルマークの県民会議会長、副会長、理事による投票（平成 27 年 10 月 2 日～10 月 5 日）

県民投票の結果、上位 2 案に対して県民会議会長、副会長、理事による最終投票を実施しました。

④ シンボルマークの決定（平成 27 年 10 月 13 日）

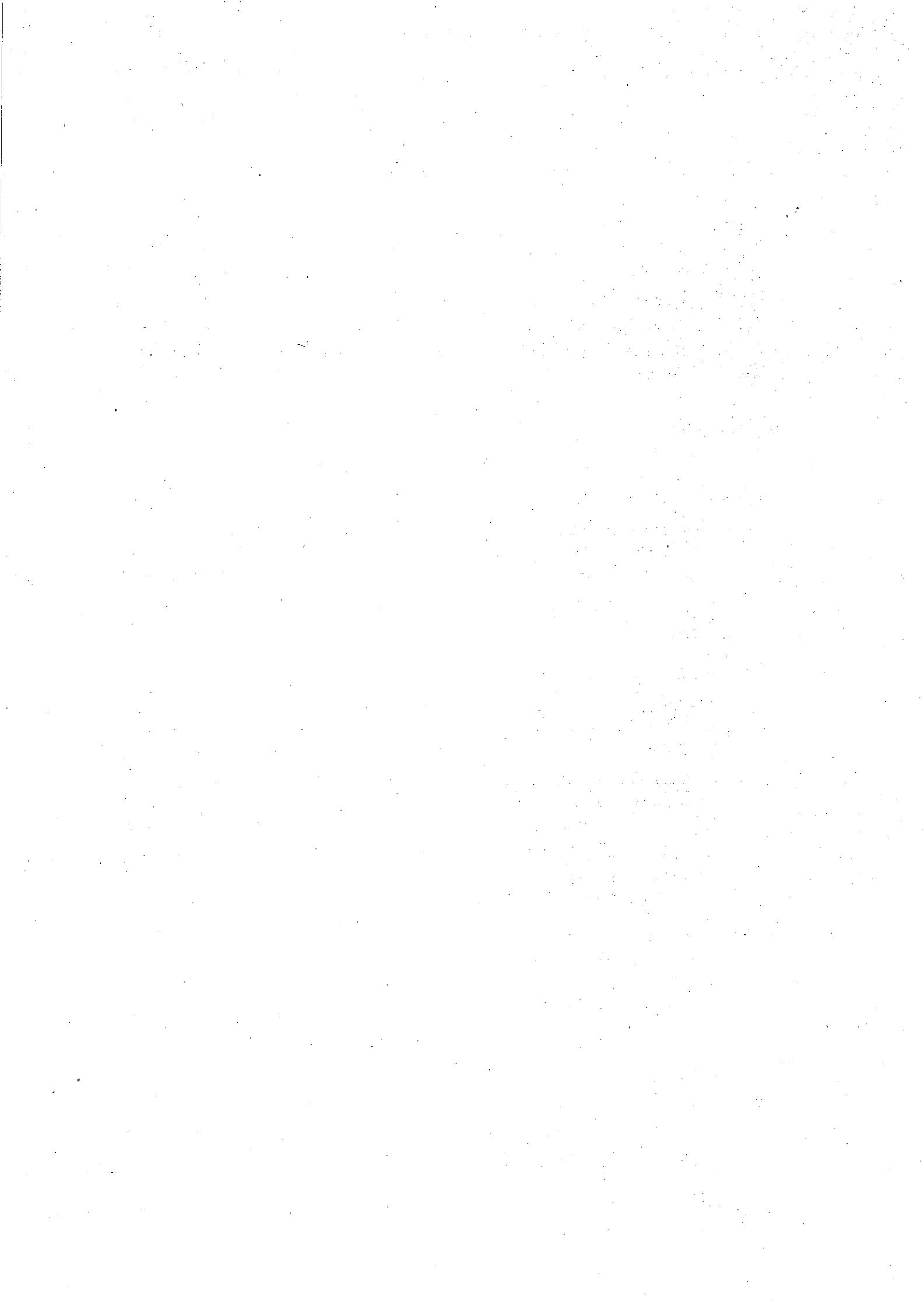
3 作成後の展開

(1) 県民会議としての展開

バッジ、名刺、広報用資料、ポスター、封筒、懸垂幕等幅広く展開します。

(2) 協賛事業としての展開

県内外の企業・団体・個人による応援事業や企業・団体からの協賛の枠組みを活用してシンボルマークを活用頂くことで、広く展開します。



平成 28 年 2 月 17 日
伊勢志摩サミット三重県民会議事務局
事業推進課

第 2 回伊勢志摩サミットフォーラムの開催結果について

1. 日時 平成 28 年 1 月 16 日 (土)
13:00 ~ 15:45 (開場 12:00)

2. 場所 鈴鹿医療科学大学 白子キャンパス 講堂
(鈴鹿市南玉垣町 3500-3)

3. 内容

- (1) 挨拶 鈴木三重県知事、末松鈴鹿市長
(2) 講演「伊勢志摩サミットのレガシーを生み出す“おもてなし”戦略とは」
講師 中村好明氏 (ドン・キホーテグループインバウンド責任者 兼
株式会社 J I S 代表取締役社長)

概要・レガシーとは、「予めの人々の明確な意思や意図を持って残される財産」である。伊勢志摩サミットの効果をレガシーとするためには、8つのテーマ①シティアイデンティティ (地域の誇り)、②ホスピタリティ (世界に開かれたおもてなしの心)、③アフィニティ (同源性に由来する親近感、親和性)、④県内全域での英語接客の定着、⑤インバウンド分野での地域連携、⑥関係閣僚会合開催都市との連携、⑦MICE (国際会議等の総称) の振興、⑧インバウンド 3.0 (すべての産業・人がインバウンドへ関与すること) が求められる。

・外国人観光客は日本の旅行を楽しみ、無形の思い出や有形のお土産物を本国へ持ち帰るので、インバウンドは外貨を稼ぐ“輸出産業”である。人ではなく、物の流れでとらえて欲しい。

・経済活動の「米仕事」(経済性を求める、つまり稼ぐための仕事のこと) と社会奉仕の「花仕事」(公共的・社会的視点で行う金銭的代価を超えた仕事のこと) の両方が公共哲学には必要だが、現在の日本は「米仕事」に集中している。持続的にインバウンドを進めためには、双方のバランスが大切だ。県民個々がどのような「花仕事」ができるのか?と考えてもらいたい。そして、伊勢志摩サミットの開催を通じ、47都道府県の先鋒として、インバウンド 3.0 の時代へ突入し、レガシーとしてもらいたい。

(3) トークセッション

スピーカー

山田文比古 氏（東京外国語大学教授）

ラース ニコライゼン 氏（ドイツ通信社東京支局長）

清水慎一郎 氏（清水清三郎商店株式会社代表取締役）

森川徹 氏（外務省大臣官房報道課長）

中村好明 氏（ドン・キホーテグループ株式会社 J·I·S 代表取締役社長）

コーディネーター

鈴木英敬会長（三重県知事）

概要 いただきました貴重な発言や提言の一例は次のとおりです。

山田文比古氏「外国人も様々な方がいる。おしつけずに、柔軟性を持って対応することが肝要。最高と思って行うおもてなしも、文化が違えば受け取り方も違うし、料理の味付けや提供する温度なども、食文化によって良し悪しが異なってくる。」

中村好明氏「食の情報発信に、新しいインセンティブ（普段入れないところで食事ができるなど=ユニーク・ベニュー）を付加させると、顧客の満足度も高まり、話題性が出る。」

4 参加者

690名

うち一般参加者 600名（定員 600名）

うち県議会議員・報道・関係者等 90名

5 アンケート結果

(1) 一般参加者 600名中、282名から回答（回答率 47%）

(2) 鈴鹿市・北勢地域からの参加者 43.1%

(3) フォーラムの内容について

「大変良かった」、「良かった」 … 97.1%

(4) 「伊勢志摩サミット」への关心や、おもてなしへの参加意欲が深まったか、おもてなしへの参加のきっかけになったかについて

「大変そう思う」、「そう思う」 … 95.3%

6 今後に向けて

次回は、4月に開催を予定しています。

参考資料6

平成28年2月17日

伊勢志摩サミット三重県民会議事務局

開催支援課

県産食材等の利用促進に向けた取組について

1 目的

伊勢志摩サミット開催を契機とし、質の高い県産食材等のPRを行うことで、需要拡大及び販売促進につなげていく。

2 基本的な考え方

全県をあげて、質の高い県産食材等をリストアップし、サミットにおける国の公式プログラムやレセプション等のほか、プレスツアー等の行事の食事メニューにおいて採用されるよう、県産食材等の活用を国や関係ホテル等に対して積極的に提案していく。

3 取組状況

10月9日（金）に、知事から外務省に対し、積極的に県産食材等を活用されるよう以下のリストを提出し要望を行った。

- ・食 材：各市町から提出された推薦食材を集約してリストを作成。
- ・加工品：県内に主たる事業所がある事業者が製造又は加工した食品や、江戸時代以前から県内で製造・販売されている餅菓子について公募を行い、みえセレクション選定品を含め、審査会を経てリストを作成。
- ・日本酒：関係機関と調整のうえ、全国新酒鑑評会で受賞された日本酒をはじめ、三重県に存する蔵元が奨める日本酒をとりまとめリストを作成。

外務省への要望後は、ホテル・旅館への提案活動を実施している。

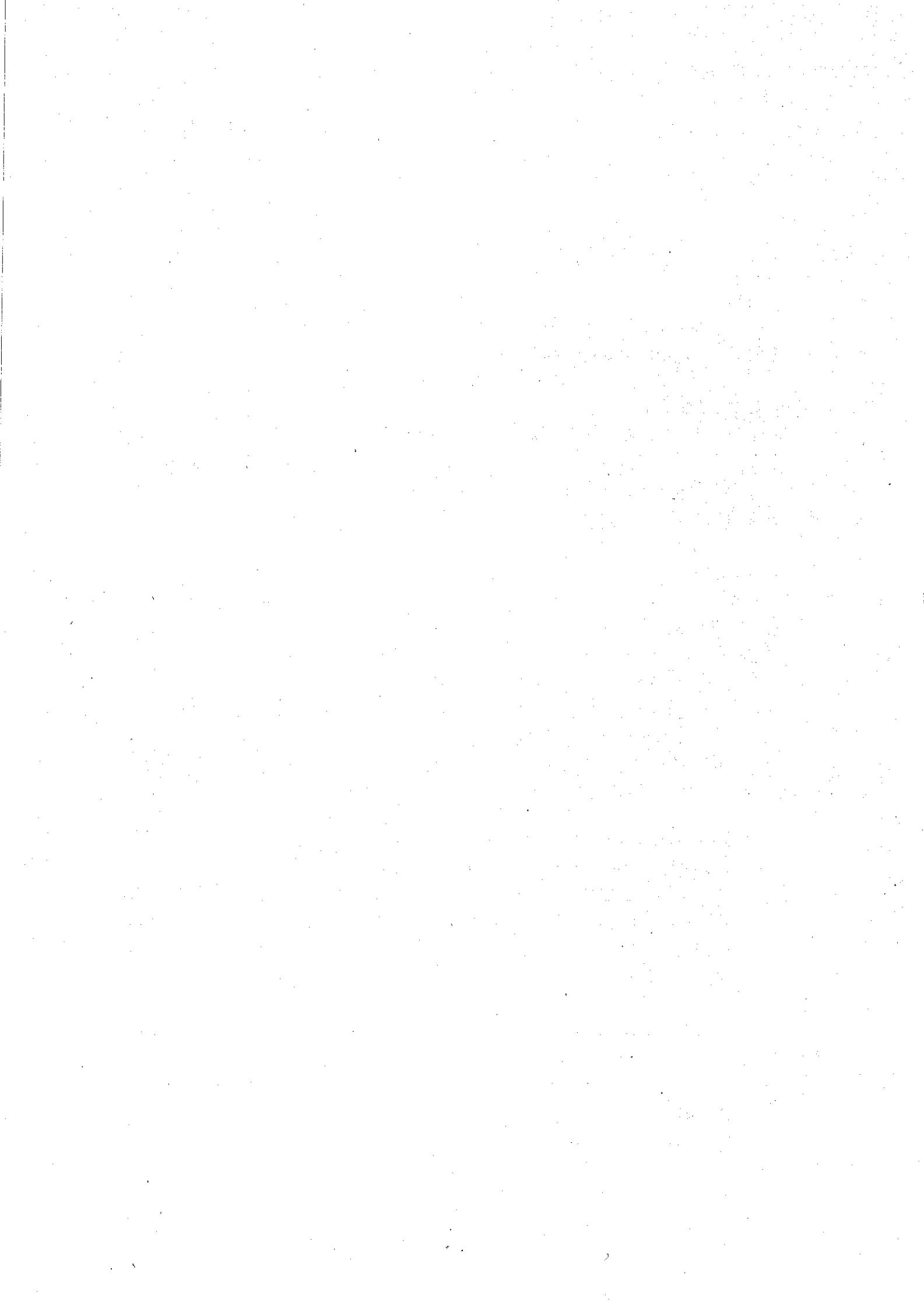
※志摩市、鳥羽市のホテルを中心に雇用経済部、農林水産部と協同し、上記のリストを持参しての提案活動を実施中。同時に、12月1日に、農林水産部が主催する「三重の食材を知る会 VOL. 1」（開催場所：伊勢安土桃山文化村）への参加も呼び掛け、活用の推進を促した。

更に、2月17日に「同 VOL. 2」を開催し提案を強化していく。

この他に、警備関係者等を対象とする弁当供給業務においても、供給事業者に対し、県産米の使用と県産食材の積極的活用を求めている。

4 今後の進め方

各国の宿泊ホテル決定後に、第2回の提案活動を予定しており、積極的な採用を提案していく。



平成28年2月17日

伊勢志摩サミット三重県民会議事務局
開催支援課

弁当供給体制の整備について

1 目的

伊勢志摩サミットの開催に際して、警備、消防、医療、現地スタッフ等に対し、県産食材を活用した安全・安心かつ美味しい食事を大量に継続して提供することを目的とする。

2 取組内容

(1) 業務内容

弁当の受注、製造、配達及び空容器の回収

(2) 取扱対象者

警備関係者、消防関係者、医療関係者、現地スタッフ等を想定

(3) 整備する供給体制

①屋外保管を前提とする大規模かつ継続的な弁当需要（以下、「大規模需要」）への対応【供給期間：3月下旬～5月下旬】

②屋内保管を前提とする比較的小規模かつ短期・不定期な弁当需要（以下、「小規模需要」）への対応【供給期間：主に5月中旬～下旬】

3 大規模需要への対応について

(1) 実施事業者の選定

企画提案コンペにより以下のとおり決定しました。

受託事業者（平成28年1月25日公表）

- A地区：志摩市（最大想定供給数 21,000個／日）

株式会社ローソンを代表とする4社による共同事業体

構成員：オーケーズデリカ株式会社（県内弁当製造事業者）、株式会社キャラリアカーサービス（県内運送事業者）ほか

- B地区：伊勢市、鳥羽市、津市ほか（最大想定供給数 5,000個／日）

株式会社セブン-イレブン・ジャパンを代表とする9社による共同事業体

構成員：プレミアムキッチン株式会社（県内弁当製造事業者）ほか

(2) 県内事業者の参画

事業者選定にあたっては、仕様書に、県内弁当製造事業者を一社以上含めることを参加資格にするとともに、配達事業者等についても可能な限り県内事業者を多く参画させるよう規定し、その参画度合を選定の評価基準の一つとして、県内事業者の参画を確保しました。また、より多くの県内事業者の参画を図るため弁当の配達場所を2地区に分けることとしました。

(3) 食品衛生管理体制

万全の食品衛生管理体制が確保できることを最重要方針とし、弁当の製造過程において、HACCP及び大量調理施設衛生管理マニュアルに基づく衛生管理を実施するとともに、提供する弁当について、屋外で保管されることを想定

し、三重県が定める食品の衛生管理指標の目標値の達成及び異物混入対策として金属探知機での検査等を求めていきます。

供給開始後も、月2回程度の監視指導を実施します。

(4) 県産食材の活用

県産米を使用するとともに、その他の県産食材についても、可能な限り使用に努めるよう企画提案コンペの仕様書に規定しました。今後、県農林水産部と連携して県民会議の方から食材及びメニューの提案を行うことで、企画提案の内容に止めることなく、県産食材の活用促進に努めます。

4 小規模需要への対応について

(1) 方針

比較的小規模かつ短期・不定期な弁当需要に対しては、地元の小規模な弁当製造事業者による供給が行えるよう、需要が発生するそれぞれの地域の商工団体等との連携・協力を基に、両者のマッチングを促進していきます。

(2) 弁当需要量の把握

宿泊予約センターと連携し、食事の提供に課題のある宿泊施設について情報共有を図るとともに、通信・電力等の支援事業者に聞き取りを行い、期間・地区ごとに発生する弁当需要量の把握に努めます。

(3) 弁当供給事業者の把握

各地域の商工団体等を通じて、弁当供給の意向や適性のある事業者及び供給可能な数量を把握します。弁当供給にあたっては、所管保健所の協力により、事業者の食品衛生状況の確認を行います。

(4) マッチング

県民会議によるサミット開催支援の取組の中で得られる弁当の需要と供給に関する情報を相互に提供することでマッチングを行います。実際の受発注や精算業務は事業者間（もしくは供給側の取りまとめを行う商工団体等と需用側事業者間）で直接行います。

(5) 関係市の現状

志摩市においては、弁当の供給が行えるように、市内の事業者で会を組織し、自主的に衛生講習会を開催するなど、準備を進めています。

伊勢市及び鳥羽市においては、商工会議所が中心となって、弁当供給業務を行う候補となる事業者の取りまとめを進めています。

(6) 今後のスケジュール

平成28年2月末	弁当需要量・弁当供給事業者の把握
3月末	両者のマッチング
5月～	弁当供給

平成 28 年 2 月 17 日
 伊勢志摩サミット三重県民会議事務局
 事業推進課

おもてなし大作戦について

1 「おもてなし大作戦」として展開

伊勢志摩サミットの開催にあたって三重県を訪れる方々に、県民の歓迎の意を表現するとともに、一人でも多くの県民が来訪者歓迎に関わることにより、サミットに向けた機運醸成や参加意識の向上を図るため、県民参加型の「おもてなし大作戦」を展開する。

「おもてなし大作戦」は、「クリーンアップ作戦」と「花いっぱい作戦」の2つの取組で構成するものとし、両取組を連携させて展開することで、おもてなしに向けた県民運動の一体感を醸成するとともに、運動の訴求力と発信力の向上を図る。

2 「おもてなし大作戦」キックオフイベントの開催

県民一人一人がおもてなしの心を持って県全体で取り組んでゆくことをPRするとともに、サミットに向けた機運の醸成や一体感の構築を図るため、サミット開催100日前イベントとして、伊勢志摩サミット「おもてなし大作戦」キックオフイベントを開催する。

(1) 開催日時

平成28年2月14日(日)(100日前ウイーク)

8時00分から11時45分まで

(2) 開催場所

阿児ふるさと公園芝生広場(志摩市阿児町神明町1074番地14)

※志摩市阿児アリーナ横

3 クリーンアップ作戦

(1) 概要

①全県的な取組

一人でも多くの県民の方々に参加していただけるように、市町や自治会、関係団体・企業の実施している既存のクリーンアップ活動等を活用し全県的な県民運動として展開する。

【参加者】

県民、学生、市町、自治会、各種活動団体(NPO、ボランティア、サークル等)、企業等の多様な主体

【活動内容】

道路、河川、海岸等の清掃活動

②全県での展開

キックオフイベント開催の2月14日からサミット開催直前の平成28年5月下旬までの間、各市町や自治会をはじめ、企業、団体等による全県的なクリーンアップ活動の展開を目指す。

【市町】

市町は、クリーンアップ作戦を推進するため、地域におけるクリーンアップ活動の実施、支援等で協力をいただく。

【企業、団体等】

企業、団体等は、協賛、応援事業の枠組みを活用するなど、クリーンアップ活動の実施や物品の提供等で協力をいただく。

【協賛、応援事業の例】

提案者名	内容
三重トヨタ自動車株式会社	クリーンアップ活動へのごみ袋 10,000 袋、軍手 720 双、ゴミばさみ 100 本の提供
「小さな親切運動」三重県本部	クリーンアップ活動への参加
百五銀行「小さな親切」の会	クリーンアップ活動への参加
三重県生活衛生同業組合連合会	クリーンアップ活動への参加
三重県産業廃棄物対策推進協議会	伊勢湾漂着ごみ海岸清掃活動
株式会社ダスキン	クリーンアップ活動実施

4 花いっぱい作戦

伊勢志摩サミットの開催にあたり、三重県を訪れる方々を、おもてなしの心と美しい花々で歓迎するため、「花いっぱい作戦」を実施する。また、この機会を利用して、三重県産の花き花木を P R し、魅力を発信する。

(1) 概要

①全県的な取組

各種活動団体（NPO、ボランティア、サークル等）、個人、学校、市町、自治会、生産者、企業等多様な主体のこれまでの活動を生かし、「花いっぱい作戦」として集約することで、4月から5月下旬までの開花・飾花をめざして活動する。

【定植、飾花場所】

それぞれの活動主体の活動範囲に応じて、これまでの活動を活性化することで、全県的な活動とする（道路（街路樹枠）、公園、駅前ロータリー、駅構内、県・市町庁舎等の公共施設、宿泊施設、遊園地・テーマパークなどを想定）。

なお、多様な主体の活動とは別に、駅前、駅前ロータリー、駅構内等の象徴的な施設数か所については、警備の制約等も勘案しつつ、サミット開催近辺に専門業者による飾花活動も実施予定。

②花いっぱい作戦アクションスタート

サミット開催前の 50 日前ウィーク前後に「花いっぱい作戦」のスタートセレモニーを実施するとともに、県内 10 カ所で花の寄せ植え体験講座を開催し、幅広い層のサミットへの歓迎機運及び参加意識の向上を図る。

【スタートセレモニー】

日時：平成 28 年 4 月（50 日前ウィーク（4 月 6 日）周辺）（未定）

場所：未定

【花の寄せ植え体験講座】

日時：4月中（未定）

場所：県庁舎10カ所で開催予定

（桑名、四日市、鈴鹿、津、松阪、伊勢、伊賀、志摩、尾鷲、熊野）

③全県での展開

スタートセレモニーからサミット開催直前の平成28年5月下旬までの間、各市町、企業、団体等による全県的な花いっぱい作戦の展開を目指す。

【市町】

市町は、庁舎や関係施設への飾花を行うなど花いっぱい作戦を推進するとともに、地域における花いっぱい運動の支援等で協力をいただく。

【企業、団体等】

企業、団体等は、協賛、応援事業の枠組みを活用するなど、花を植える活動や飾る活動、物品の提供等で協力をいただく。

例) サミット開催で注目される場所、人が集まりやすい場所での飾花（宿泊施設、商業施設、駅構内、高速道路SA・PA、フェリー乗り場等）や、種、苗、用土、資材、栽培施設の貸与、栽培管理、技術・ノウハウ等の提供等

【協賛、応援事業の例】

提案者名	内容
株式会社三重興農社	飾花用のプランター150個提供
株式会社百五銀行及び百五銀行 「小さな親切の会」	サミット開催日・応援ロゴマーク等を印刷したコスモスの種袋 20,000袋を県内外の百五銀行本店・支店・出張所窓口で配布
花の国づくり三重県協議会	プランター作成や花壇装飾をする場合の講師役、主要駅における 装飾が可能な場合の装飾、各国の記念樹を植樹する場合の補助
三重県花植木振興会	駅、市町役場等におけるサミット記念の飾花等
中日本高速道路株式会社名古屋 支社	SA、PAの商業施設周辺にお花の飾り付けを行う
中日本エクシス株式会社名古屋 支店	SA、PAの商業施設周辺にお花の飾り付けを行う
三重県緑化推進協会	市町が学校や自治会などから希望を募って実施する活動へ支援

5 共通事項

（1）統一デザインによる「おもてなし大作戦」の一体感づくり

「おもてなし大作戦」の統一デザインを作成し、看板、横断幕、のぼり、花壇フレームなどを制作し、視覚的統一感を図り、運動としての盛り上がりをわかりやすく表現していく。

(2) スケジュール

①参加呼びかけ（2月上旬～）

県民会議は、広く県民へ「おもてなし大作戦」への参加を呼び掛けるとともに、企業・団体等に地域での清掃活動、自社等の施設への飾花や物品・資材・技術等の協力など、「おもてなし大作戦」への参加、協賛・応援等を募集する。

②花苗等の準備（2月～4月）

県民会議は、「花いっぱい作戦」への参加状況と協賛物品等（花苗・資材等）を集約し、活動状況等を勘査して市町への花苗・資材等の配分計画を作成する

③おもてなし大作戦キックオフイベント（2月14日）

④クリーンアップ作戦の全県での展開（2月14日～サミット開催前5月下旬）

各市町、企業、団体等による全県的なクリーンアップ活動の実施

⑤花いっぱい作戦アクションスタート（4月上旬）

- ・スタートセレモニーの実施
- ・花の寄せ植え体験講座の実施

⑥花いっぱい作戦の全県での展開（4月上旬～サミット開催前5月下旬）

各市町、企業、団体等による全県的な花いっぱい運動の実施

平成28年2月17日

伊勢志摩サミット三重県民会議事務局

事業推進課

ホームページ・SNSのリニューアル及び運営について

1 目的

現存ホームページ（以下、HP）をリニューアルすることにより、県民会議の取り組む事業、住民に影響を与える事象に関する情報、国内外から来県される方のための情報（宿泊予約案内、アクセス 等）をタイムリーにわかりやすく発信します。

また、既に運用しているSNS（Facebookページ及びTwitter）についても、HPの運営・管理と併せて運用を事業者へ委託することで、より効果的な情報発信や炎上対策等のセキュリティ強化を図ります。

2 事業の概要

HPやSNSを活用することで、県民会議の取組や三重の魅力を幅広く発信していきます。

なお、HPのリニューアルの制作部分については、三重県の取り組む「本社機能移転事業」の第一号企業である、株式会社FIXERに協賛いただきました。運営管理については、制作者であるFIXERに行っていただきます。

3 取組方針

(1) HP

「国内在住の方」及び「海外からサミット取材に訪れるプレス」を対象に発信していくため、当該HPはサミット主要7ヶ国（5ヶ国語）対応とします。

- ・ 国内向けには、県民会議の取組、協賛・応援・寄附の周知と依頼、各種規制情報、宿泊予約案内、三重県概要等を発信予定
- ・ 海外プレス向けには、三重県での滞在に関する情報（病院・警察、両替可能場所、宿泊予約案内等）、県民会議の一部の取組等を発信予定

(2) SNS

県内でサミットに関心のある方、サミットを契機に地元を盛り上げる意欲のある方や、県外でサミットに関心のある方、三重にゆかりや関心のある方をファンとして取り込むような発信をします。

4 今後の進め方

伊勢志摩サミット開催100日前ウイークである2月17日（水）にリニューアルいたします。



平成 28 年 2 月 17 日
 伊勢志摩サミット三重県民会議事務局
 事業推進課

伊勢志摩サミット三重県民会議公式ポスターの展開について

1 目的

三重県で開催される主要国首脳会議の成功に向け、多くの方に伊勢志摩サミットを PR するための第 1 弹ポスター、県民会議のシンボルマーク決定を告知する第 2 弹ポスター、そして「おもてなし」をテーマに公募して第 3 弹ポスターを制作した。

今後第 4 弹及び第 5 弹ポスターを作成することで、サミット開催への期待感と「おもてなし」「明日へつなぐ」「三重の発信」への県民の意識の醸成を図ることを目的とする。

2 ポスターシリーズの基本構成

開催機運と県民意識の醸成を表現するため、「起・承・転・結」の構成とする。

第 1 弹 「起」：サミットが伊勢志摩で開催されることを PR し、期待感を醸成

第 2 弹 「承」：県民会議の象徴となるシンボルマーク決定告知

★第 3・4 弹 「転」：ポスターの公募

第 5 弹 「結」：「明日へつなぐ」をテーマに、県民のこれまでの活動を振り返り
サミット終了が新たなスタートとなることを訴求

3 第 4 弹ポスターの公募

- ・第 4 弹ポスターは、サミット本番時に掲示されるポスターであり、世界のメディアが注目する訴求力のある高品質なポスターが求められる。そのため、第 3 弹ポスターに引き続き第 4 弹ポスターも公募形式とする。
- ・ポスターのテーマを「三重から世界へ（三重の魅力の発信）」とする。
国際的な発信に注力する時期に三重の魅力を改めて発信するとともに、世界のメディアが注目する訴求力のあるデザインを募集する。
- ・ポスターの印刷や発送については、社名広告を前提とした協賛事業者を募集。

①募集期間 平成 27 年 12 月 21 日（月）から平成 28 年 2 月 5 日（金）（募集終了）

②応募件数 31 件

②選考委員 5 名

(座長)	水谷孝次 氏	水谷事務所／MERRY PROJECT 代表・アートディレクター
	田端英明 氏	公益社団法人 三重県観光連盟専務理事
	江崎貴久 氏	海島遊民くらぶ代表
	三田絢子 氏	有限会社伊勢福・広報担当
	森本佳菜 氏	三重大学大学院工学研究科建築学専攻博士 前期課程在学中

③選考基準

デザイン性、テーマの表現性、誘客性等を選考基準とする。

4 第4弾ポスター スケジュール

- | | |
|-----------|---|
| 12月18日(金) | 第3弾ポスター表彰式にて実施を発表 |
| 21日(月) | 募集開始 |
| 2月5日(金) | 募集終了 |
| 2月12日(金) | 第一次審査(～16日までに各委員が推薦作品を報告) |
| 2月18日(木) | 第二次審査(4作品を選定) |
| 2月19日(金) | 著作権等の確認 |
| 3月7日(月) | 第三次審査(選考委員による最優秀賞の決定、会長の承認) |
| 3月16日(水) | 最優秀賞者表彰及び知事記者発表
(第三次審査にて採用とならなかつた作品についても
優秀作品として表彰) |
| 3月下旬～ | 第4弾ポスターの配布(開催50日前ウィークを想定) |

5 ポスターの活用・展開事項

- 県民会議関係者、市町、県、県地域機関、希望者(企業・団体・個人)
郵便局、金融機関、商業施設、公共交通機関関係、各種イベントブース等での
掲示を想定

平成 28 年 2 月 17 日
 伊勢志摩サミット三重県民会議事務局
 事業推進課

カウントダウンボード、ノベルティを活用した PR 展開

1 目的

伊勢志摩サミットに向けて、応援事業も活用しながら県内外の各地にカウントダウンボードを設置することで、歓迎機運の盛り上げを図る。また、伊勢志摩サミットの開催を幅広く周知するため、各種 PR ツールを作成し、節目イベントや様々な会議等において積極的に活用する。

2 取組内容

(1) カウントダウンボードの設置

200日前ウィークに 361 台設置、200日前ウィーク以降に応援事業として 107 台設置、150日前ウィークに新たに 61 台を各地に設置し、総計 529 台設置しました。

① 200日前 (11/8) ウィークに設置： 361 台

- ・ 県民会議による設置 82 台
- ・ 応援事業による設置 279 台

② 200日前ウィーク以降に設置： 107 台

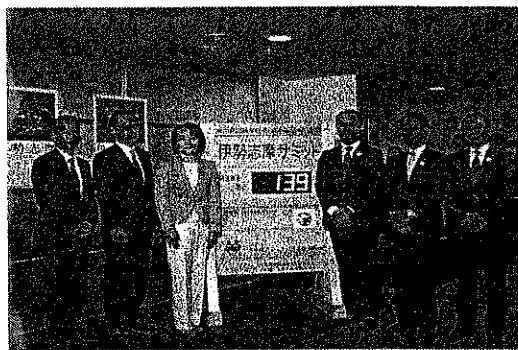
- ・ 応援事業による設置 107 台

③ 150日前 (12/28) ウィークに設置： 61 台

- ・ 県民会議による設置 13 台
- ・ 応援事業による設置 48 台



(平成 27 年 11 月 4 日：県庁除幕式)



(平成 28 年 1 月 8 日：外務省除幕式)



(平成 27 年 12 月 28 日：セントレア除幕式)

※伊勢志摩サミット東海会議にて実施



(平成 27 年 12 月 22 日：近鉄名古屋駅)

(2) 各種PRツールの作成

ポストカードサイズチラシ、手提袋、クリアファイル、ウェットティッシュ、風船、ICカードステッカー、ポチ袋、ポストカード等の汎用品ツールを作成しました。(今後は、こども向けシール、マスク、ビニールバックなどを作成予定)

3 今後の展開

(1) カウントダウンボードの展開

今後は、企業等の皆さんに応援事業としてご協力いただき、設置に取り組みます。

県民会議が設置したカウントダウンボードについて、サミット終了後の再活用を大型イベント担当部局と協議を行っています。

(2) 各種PRツールの展開

節目ウイークリイベントや各サミット関連イベント等において、各種PRツールを用いて幅広く周知を行います。また、ポストカードを県主催イベント・市町主催イベント・県民会議会員主催イベントにてサミットPRを行つていただく場合には、提供させていただきます。

※申込先…事業推進課事業班 担当 藤田、前田 TEL059-253-5496

※不足する場合は追加で製作する予定(2週間程度必要)

平成28年2月17日

伊勢志摩サミット三重県民会議事務局

事業推進課

プレス等を活用した情報発信の展開について

1 目的

国内外のメディアに三重県を取材する機会を提供し、三重県ならではの体験や三重県の多彩なコンテンツを体感いただき、三重県の魅力を国内外へ発信することで、三重県の認知度を高め、ブランドイメージの確立・浸透をはかるとともに、開催後のインバウンドをはじめとする観光客の増加や県産品の販売増につなげます。

2 取組方針

- (1) 県・市町の関係部局とも連携を図りながら、メディアの発信先や特性に応じてテーマ設定や訪問先などのコンテンツ選定を行い、三重の誇る食、文化・伝統、自然や産業技術等を効果的に発信できるように努めます。
- (2) 県内各地域の情報が国内外に広く発信できるよう、取材エリアの選定を工夫します。
- (3) 県民会議主催の事業だけでなく、外務省等の国関係機関や県の各部局、市町、各種団体等の行うメディア関連の事業に対し、コースやテーマ等の提案・調整を行い、これらの事業一タルで効果的なメディア発信を行う構成とします。
- (4) コースやテーマ設定の際には、多様な暮らしを営む県民（生産者、経営者、子ども、女性、高齢者等）が、できるだけ取材されるよう努めます。

3 事業の概要

プレスツアー、ファムトリップ等

- (1) 県民会議主催プレスツアー（1泊2日） 3回実施

第1回…12月7日から8日（伊賀地域を中心に） …資料3-12-1参照

第2回…2月17日から18日（東紀州地域） …資料3-12-2参照

第3回…4月から5月（サミット前）に中南勢地域を中心に実施予定

- (2) 外務省等主催のプレスツアー

これまでに5回実施…資料3-12-3参照

- (3) サミット開催を契機とした海外の富裕層への戦略プロモーション事業

欧米トップクラスの著名人を招へいしたプレスツアーを2月中旬に実施予定

4 今後の予定

外務省等主催のプレスツアーについては、各部局や市町、関係団体と調整し、県内の行程については、引き続き、県民会議から積極的に提案を行います。また、県民会議主催プレスツアーは外務省他主催のプレスツアー受入れ状況を勘案しながら、三重県全域の発信につながるように開催地等を調整しながら実施します。



伊勢志摩サミット三重県民会議主催プレスツアーの概要

第1回

日 程：平成27年12月7日（月）、8日（火）

参加者：5カ国のプレス11名（中国4名、韓国4名、ロシア1名、米国1名、
ドイツ1名、メディアの種類別ではTV5名、新聞5名、通信社1名）

取材の概要

(ア) モクモク手作りファーム

設立時に大手スーパーをターゲットにし、価格の壁に阻まれたという苦勞話や非日常を演出する事業戦略を見出すまでの過程の説明がありました。記者からは今後の展開や現状の売上・収益について質問がありました。TVクルーは体験教室（ウィンナー、豚まん）の参加者の様子も撮影していました。

(イ) 伊賀流忍者博物館

忍者博物館の歴史を聞いた後、「忍者とは」について三重大学山田教授から講義を受けました。忍術は知識の集合体であるというところに記者は興味を示していました。続いて三重大学久松名誉教授から「忍者と食」について講義を受けました。記者から「忍術」はサミットの警備に生かせるのかとの質問がありました。

続いて、阿修羅と最後の忍者といわれている川上仁一先生の直弟子の清本氏の実演があり、じっくり見入っていました。

(ウ) アグリー農園

一主婦が食の安全・安心を求めて5年前に起業した時の苦労話を聞いた後、障がい者との出会いと農福連携のビジネスモデルを作るまでの経緯について説明を受けました。記者は、目の不自由な人が播種作業をする姿を熱心に取材していました。

(エ) 木の子の里

高齢者を元気にすることを目的に、試行錯誤でシメジづくりを始めた頃の苦労話や今後の展開について話を聞いた。記者から販売量や販売先や評判について質問がありました。菌床を育てている現場では、育成プロセスを熱心に取材していました。

(オ) うれし野アグリ

農業で日本の未来を変えたい3社が結集し、ミニトマトでは、国内最大かつ最高効率の生産を行う仕組みについて、熱心に耳を傾けていました。記者からは今後の方針や海外への販売実績や売上について質問がありました。現場では、最新鋭の生産システムを熱心に取材していました。

(カ) 知事インタビュー

知事から自己紹介ののち、取材先を踏まえ、6次産業化や農福連携についての考えについて質問がありました。サミット関係だけでなく地方分権、TPPの影響と対策等多岐にわたる質問がありました。

三重の食の発信

意見交換会（地元食材の発信）

伊賀・名張の食材と取材先で訪問先した企業の食材をふんだんに使った伊賀尽くしの料理は、大変好評でした。特に伊賀牛ラムステーキと伊賀牛寿喜鍋が好評でした。取材先エリアの物産やポスターも交流会会場に展示され、熱心に見入っていました。

2日目昼食（伊賀牛の発信）

伊賀牛の希少部位の焼肉に舌鼓を打っていました。ジューシーな肉にみな大変満足していました。

○掲載メディア

国内メディア

中日新聞、毎日新聞、朝日新聞、読売新聞

海外メディア

3か国で、19件放送・記事として取り上げられた。

伊勢志摩サミット三重県民会議主催第2回プレスツアーの概要

第2回

日 程：平成28年2月17日（水）、18日（木）

参加者：公益財団法人フォーリンプレスセンターより募集中

（1）テーマ

「豊かな森に包まれた熊野古道伊勢路と持続可能な林業」

ニーズを掴んだアイデア 豊かな水産業

（2）取材先（訪問順）

「速水林業」（紀北町）、「三重県立熊野古道センター」（尾鷲市）、「松本峠」

（熊野市）、「花の窟神社」（熊野市）、「ビジョン早田実行委員会」（尾鷲市）、

「尾鷲物産」（尾鷲市）、「株式会社ディーグリーン」（紀北町）

（3）プレスツアーへの参加者募集期間

1月21日（木）～2月16日（火）



外務省プレスツアーの概要

1. ASEANプレスツアー（8月27日から28日まで）

○四日市公害と環境未来館

- ・多くの県内プレスの方（新聞、TV共）に取材をいただいた。
- ・ASEANプレスの方は総じて取材熱心だった。
- ・特に、公害問題への関心が非常に高く、語り部の方へは、多くの、具体的な質問が集中し、予定の観察時間を大幅に超過することとなった。
(例えば四日市ぜんそくがどのようなメカニズムで発生したか、など)
- ・カンボジアの記者からは「(自分の国では、まだ、ここまで産業が発展していないが、)将来的に懸念される環境問題を未然に防ぐ知識をここで学べたので役に立てたい」という主旨の発言があった。

○日本アルシー株式会社

- ・汚水処理プラントの説明に対し、メカニズムや設置コスト、設置した場合のメリットなど、かなり具体的な質問があった。
- ・実際にプラント内の（浄化された）透明な水を見て、驚きの声があがっていた。

○夕食懇談会

- ・用意した三重県産食材を使ったメニューは予想以上に好評だった。
- ・ASEANプレスのうち1名から、メニューにあった「伊勢抹茶のブラウニー」をぜひおみやげに購入したいとの声があった。

○夜景クルーズ

- ・自国ではなかなか立ち入ることのできないコンビナート施設を、間近で見られたこと、しかもそれが観光という形であることに驚きの声があった。



2. 中東プレスツアー（8月30日から31日まで）

○昼食

- ・事前に外務省とも調整し、松阪牛を使用した料理の提供を予定していたが、現地で本人確認の結果、2名の記者からハラルでは無い肉はすべて摂取不可との回答を得たため、急遽内容を変更した。ムスリムに対するハラル対応の

難しさを体感した。

○せんぐう館

- ・一神教であるイスラム教圏のプレスに対し、神道における複数の神の存在の理解が困難であるようだった。
- ・神道における神と皇族の関係について、複数の質問があり、関心の高さがうかがえた。
- ・式年遷宮をなぜ 20 年に 1 度行うのか、また、式年遷宮が通常の周期で行われなかつた理由について質問があがつた。前者に対しては、「複数の説があるが、1,300 年前の皇帝の命令が今も引き続いている」旨の回答がなされた。後者に対しては、「式年遷宮が行われなかつたのは戦国時代と第 2 次世界大戦の時であり、それぞれ世情が混乱している時に実施されなかつた。言い換えれば、式年遷宮が実施される時は世情が安定している時であり、平和の象徴ともいえる」と神宮司庁の広報より解説がなされ、納得された様子であつた。

○伊勢神宮 外宮

- ・手水舎での作法に関心があったようであり、一連の動作をそれぞれが興味深く行っていた。日本の作法等に關心があることがうかがえた。
- ・参拝はされなかつたが、一般の参拝者が参拝する場所まで入り、参拝の様子を観察された。

○伊勢神宮 内宮

- ・宇治橋や橋の上から見る五十鈴川など、風景に対して関心があり、写真を撮影する姿が多く見られた。

○おかげ横丁

- ・五十鈴茶屋にて提供された赤福餅、抹茶に対して高い関心がうかがえた。また、日本的な畳の部屋にも関心を示していた。特に、抹茶については全員が飲み干し、後のおかげ横丁での買い物でも茶を立てる竹製の器具を購入するのみならず、後述する夕食懇談会でも全員がほうじ茶を注文するなど、日本茶の可能性を大いに感じた。
- ・U A E の記者は赤福餅と抹茶の写真を S N S 等でアップし、すぐに多くの反響があつたと聞いている。

○夕食懇談会

- ・食事も含めたホスピタリティに全員から感謝の言葉を頂いた。なお、食事に関して、昼食と同様、予定していたラム肉から魚へメニューを変更した。
- ・最後に参加者それぞれから 1 日目の感想を述べられた。全員初日に対して良い印象であり、うち 2 名からは仕事以外で家族を連れてまた来たいというお言葉を頂いた。

○横山展望台、賢島

- ・海女漁視察が中止となつたことを受け、参加者からの希望もあり、会場予定地の賢島周辺を視察した。横山展望台から英虞湾の風景を撮影する姿が多く見受けられた。賢島は車中からの視察のみ。

○海の博物館

- ・概ね以下の質問が挙がった。
 - ①なぜ「海女」が女性であるのか
 - ②海女文化を守るために政府の助成はあるか
 - ③便利な道具がある中、現在の素潜りによる漁を続けるのか
- それぞれ、館長より以下の旨回答がなされた。
 - ①女性は男性に比べ脂肪が多く冷たい海に耐えられること、男性は遠洋へ出て漁をし、女性は近海の比較的安全な所で漁をすることが多いことが理由。
 - ②日本は漁業を大切にしてきたが、海女だけ特別な助成はない。しかしながら、海女漁を大切にすべきとの考え方から、文化財として保護する動きが出てきた。
 - ③海女漁に限らず、海産資源を獲りすぎないことが重要である。実際海女漁は年間 60 日～70 日程度しか漁でない。これはすべて海産資源を守る為でもある。
- ・博物館内の視察においても関心をもって視察されており、入口近くの海産物の見本（魚、貝など）は楽しそうに視察されていた。

○はちまんかまど

- ・事前に外務省から、中東地域は海産物に馴染みが少なく、貝などは不得手という情報があったが、結果として、伊勢エビ、アワビ、ヒオウギ貝、大あさり、サザエといった海産物に対して、非常に満足して食されていた。
- ・海女とのコミュニケーションも盛んで、若い海女へのアドバイスについて話す場面も見られた。また、食事終盤で海女による相差音頭が披露された際も、参加者全員で踊りに参加されていた。
- ・はちまんかまどはムスリム向けに礼拝堂を設けており、数人が礼拝する場面もあった。参加者からは、「このような施設を紹介いただきありがたい」旨のお言葉も頂いた。
- ・国内プレスの質問に対してトルコの記者は、「自然と共生し、資源を守る海女文化は世界にとって大切。自国でも、発信していきたい」と回答していた。



3. ベルギープレスツアー（10月30日から31日まで）

○伊勢神宮 内宮

- ・写真に精通している記者だけあって、宇治橋や橋の上から見る五十鈴川の川面、神宮スギからの木漏れ日など一瞬の光景を逃すまいと写真を撮影する姿が多く見られた。同時に神宮についても、様々なしきたりがどのような理由で行われるようになったのかと重ねて質問する姿が印象的だった。

○おかげ横丁

- ・五十鈴茶屋で提供された赤福餅に対して高い関心がうかがえた、その後、赤福本店でも従業員の方に熱心に取材を行っていた。また、はじめて食べた伊勢うどんの濃厚なつゆの味わいとやわらかな食感に何度もおいしいと言っていた。

○夕食懇談会

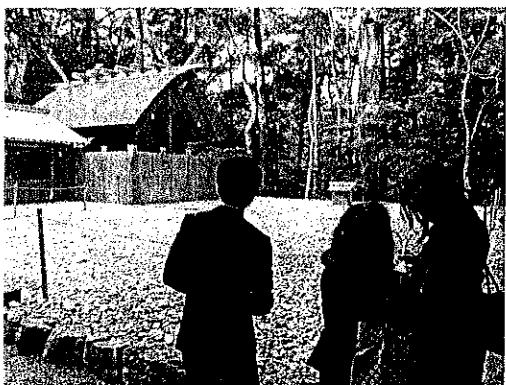
- ・三重県に関する様々な質問がなされた。
- ・食事も含めたホテル側のホスピタリティに感謝の言葉を頂いた。

○ミキモト真珠島

- ・真珠には関心が高い様子で、真珠がどのように作られるか、その仕組みに大変興味深げであり多くの質問が発せられた。
- ・白装束の海女の実演には欄干から身を乗り出しながら写真を撮っていた。
- ・ミキモト真珠島の職員の方のホスピタリティ、特に通訳の方への賛辞があった。
- ・最後に地元記者からのインタビューを受け、「素晴らしい自然や文化、食に恵まれた三重県はサミット開催地としてふさわしい場所だと感じた」旨の発言があった。また、記者同士の対話を楽しんでいる様でもあった。

○はちまんかまど

- ・生きた伊勢エビや鮑などの海産物に大興奮でシャッターを切っていた。
- ・現役の海女さんとのコミュニケーションを大いに楽しんでいた。
- ・提供された新鮮な素材を大変おいしそうに食していた。



4. イスラエルプレスツア (11月14日から15日まで)

主な取材先(テーマ:日本の伝統と近代化)

○海女小屋

- ・海女の日常について多くの質問をしていた。
- ・特に資源保護にまで配慮した活動をしていることに感動していた。
- ・どの食材も非常に気に入って、たくさん食べていた。とくに桃取牡蠣がおいしいとおかわりしていた。
- ・これから、海洋資源はどうなっていくのかについて質問していた。
- ・本物の海女小屋の見学もリクエストし、多く写真を撮っていた。

○干物作り

- ・なぜ干物を作るのかについて、説明を受けた後、製造プロセスを一通り見学した。
- ・実際、干物作りに挑戦し、器用に包丁を使ってさばいていた。
- ・できた干物を焼いて、頬張っていた。

○寝屋親の家で寝屋子にインタビュー

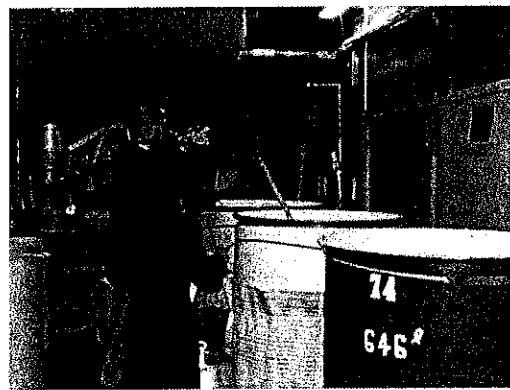
- ・実親と寝屋親との関係について何度も質問していた。
- ・寝屋子に他の寝屋子との関係や一生の付き合いとなることは、なかなか理解できない様子であった。
- ・今後も寝屋子制度を自分の子供たちにも伝えていきたいとのコメントを聞いて、島の文化の奥深さを感じていた。

○河武醸造

- ・日本酒の製造プロセスを熱心に見学し、質問していた。
- ・大量生産のお酒と伝統的な作り方で造った酒の味の違いを感じていた。大量生産と伝統的な製造法の両立と今後10年間の戦略について質問していた。

○頭之宮四方神社

- ・神事をひとしきり見ながら、特に神楽に关心を寄せ、意味などを聞くとともに多くの写真を撮っていた。
- ・直会の時に周辺の多くの信者にどんな気持ちで神事に参加しているのかについて、質問していた。お神酒を好んで飲んでいた。
- ・神道とはなにか、日本の近代化にどういう役割を果たしたのかについて、詳しく質問していた。



5. クウェートプレスツア (1月30日から31日まで)

主な取材先 (テーマ) ムスリム対応

○志摩観光ホテル

- ・リース式海岸を見ながら、素晴らしい眺めであると感嘆していた。
- ・ここに決まった場合、会場はどこになるのかと質問していた。
- ・志摩観光ホテルに泊まった著名人について質問し、熱心に記録していた。
- ・ワインへの関心が深く、ストックしているワイン、特に国産ワインのリストを見たいとの希望があり、ソムリエが丁寧に解説していた。
- ・宿泊部屋も見学した。

○佐藤養殖場

- ・船に乗って漁場に出て、稚貝の状態から大きくなるまでのプロセスを見学し、豊かな海を感じながら多くを写真に収めていた。
- ・海水を殺菌する機械を見学し、何の菌を殺すのかやどれくらいの時間で死滅するのかについて、熱心に質問していた。
- ・水を上から散布している理由についても質問し、システム化されたプロセスに感心していた。

○海女小屋(はちまんかまど)

- ・イスラムの礼拝所や清める施設を熱心に見学していた。
- ・イスラム国の中で、どの国の旅行者が多いかについて、質問していた。
- ・記者は、ダイビングを趣味としており、海女の潜りや呼吸について、熱心に質問していた。
- ・禁漁期間や禁漁日を作り、資源保護にも取り組んでいることや隣接する町とも連携して漁場を守っていることに感心していた。
- ・食べるものは、皆おいしいと平らげていた。特に伊勢海老には感嘆していた。

○伊勢神宮

- ・なぜ伊勢の地名になったのかや神様は、いつごろ現れたのかについて質問があり、神宮司應の担当者から丁寧な説明がなされていた。
- ・神様にお祈りするときに、何を祈るのかについて、質問があり、ただ感謝するだけとの説明に大変感動され、その心は、宗教の垣根を越えてすべての人々が持つべき基本事項だといっていた。
- ・神道は強制しないことも非常に大切だとコメントもあった。
- ・内宮・荒祭宮他を作法に従って参拝された。

○オズ(海島遊民くらぶ)

- ・礼拝所等の施設を見学した。
- ・ムスリム対応を始めたきっかけや年数を重ねながら街全体の取組となってきたことについて、代表者からひとしきり説明を聞いた後、素晴らしい取り組みであり、ぜひ記事にしたいとのコメントがあった。
- ・ムスリム対応の専任者(ドウインダさん)にイスラムの人の反応やどういうプロモーションをしているのかについて質問があり、今後もっとインスタグラムとツイッターを活用するようアドバイスがあった。

- ・プレゼン後、代表を含め、ムスリム対応を進めている推進者と記者とのディスカッションタイムとなり、ムスリムの食事への対応は、どのレベルまですべきかやレベル感の見極め方やムスリムの人へのアナウンスの仕方など多岐にわたり深い議論がなされていた。

○ムスリムへの対応食(夕食)

- ・味や素材を大切にしながら食を提供していることや食品についてかなり細かい説明がなされることに感心していた。
- ・クウェートは、海中に魚が住まず、沈没船ばかりなので、日本の海の豊かさを羨んでいた。
- ・日本食は、現地でも人気があり、日本人の料理人のレストランの話が出ていた。現地で食べるより、はるかに美味しいとコメントしながら多くの食べ物にチャレンジしていた。





平成28年2月17日
伊勢志摩サミット三重県民会議事務局
事業推進課

第1回三重県情報館(仮称)コンテンツ選定委員会の開催結果について

伊勢志摩サミット開催時に国際メディアセンター(伊勢市)内に設置される三重県情報館(仮称)の展示コンテンツを決定する、第1回三重県情報館(仮称)コンテンツ選定委員会を、下記のとおり開催しました。

記

- 1 日 時 平成28年1月19日(火) 17時15分～19時30分
- 2 場 所 伊勢志摩サミット三重県民会議事務局
(三重県津市栄町2-380 HOWAビル津5F)
- 3 出席委員 別紙「三重県情報館(仮称)コンテンツ選定委員一覧」参照
※大川委員、坂委員、西村委員、丸川委員
- 4 内 容
- (1) 委員長選出について
委員の互選により西村 訓弘(にしむら のりひろ)委員(三重大学副学長)が委員長に就任しました。
 - (2) 展示コンセプトについて(見せ方・伝え方)
「伝統と革新～“和”的精神」の基本コンセプトに基づく展示コンセプトは、
「伝統」を守りながらも「革新」を積み重ねることで進化してきた「三重」の
「姿」「技」「食」一繰り返すことで、いつまでも瑞々しくて若々しい「常若」思想に決定しました。
 - (3) 展示カテゴリ及び募集方法
以下の展示カテゴリを以下のように募集することになりました。

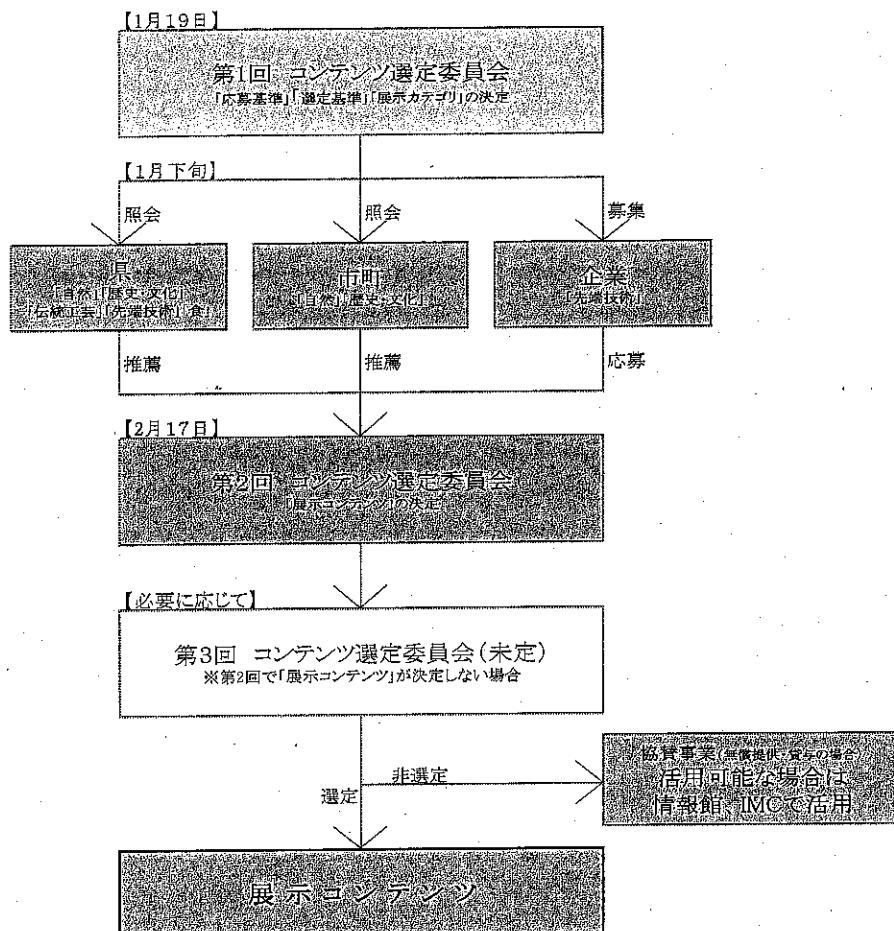
カテゴリ		募集方法
姿	自然	県・市町推薦
	歴史・文化	
技	伝統工芸	県推薦 公募、県推薦
	先端技術	
食		県推薦

- (4) コンテンツの応募・推薦基準について
- ① 自然、歴史・文化については、三重県を代表するものであること
 - ② 農林水産物については、三重県内で生産または加工されたものであること
 - ③ 伝統工芸品については、国指定伝統的工芸品または三重県指定伝統工芸品として三重県において指定されているものであること。
 - ④ 先端技術については、「三重県内で開発された“ものづくり”に関する先端技術であること」または「三重県内で製造・加工され、その過程の一部または全部に“三重の先端技術”が用いられた工業製品であること」
- 上記①～④を基準として応募・推薦いただくことに決定しました。

(5) コンテンツの選定基準について

各コンテンツの「訴求性」「独自性」「優位性」「将来性」及び「基本コンセプト」と
及び展示コンセプトとの調和」を選定基準とすることに決定しました。

(6) コンテンツの選定プロセスについて



(7) その他

冒頭、委員からは「三重県らしさを表現し、常若の精神を組込んだものにしたい」、「伊勢神宮をどのような位置づけで海外に発信するか整理が必要」、「リラックスできる場所、五感で体感できるものが需要」等の意見がありました。

5 今後のスケジュール

1月 28 日 (木) ~ 2月 9 日 (火)

コンテンツの募集開始

2月 17 日 (水)

第2回コンテンツ選定委員会 (17:00~)

3月 9 日 (水)

第3回コンテンツ選定委員会 (17:00~) (予定)

三重県情報館(仮称)コンテンツ選定委員一覧

(五十音順)

氏名	所属・役職	略歴
生駒 芳子 <small>いこま よしこ</small>	FUTURADITION WAO (フェュートラディションワオ) プロデューサー	ファッションジャーナリスト／アートプロデューサー。『VOGUE』『ELLE』での副編集長を経て、2004年より『マリ・クレール日本版』編集長に就任。2008年11月独立後は、ファッション、アート、ライフスタイルをテーマの核として、社会貢献、エシカル、社会起業、女性の生き方についてのプロジェクトを立ち上げ、雑誌や新聞への執筆にかかる。クール・ジャパン官民連携プラットフォーム構成員、産業構造審議会委員、公益財団法人三宅一生デザイン文化財団理事、NPO「サービスグランツ」理事などを歴任
大川 吉崇 <small>おおかわ よしかか</small>	学校法人大川学園理事長	三重県津市出身。三重高等学校教諭から大川学園に移籍、現在、学校法人大川学園理事長。大正から昭和初期の食生活について聞き取り調査をまとめた著書「三重県の食生活と食文化」や大台ヶ原山に息づく日本の文化の原風景を明らかにした著書「大台ヶ原山 知られざる謎」を執筆するなど三重の食文化や自然に豊富な知見を有する。全国調理師養成施設協会参与、三重県私立幼稚園協会常任相談役。三重ブランド認定委員三重のバイオトレジャー選定委員を歴任。
坂 美幸 <small>さか みゆき</small>	月兎舎 季刊「NAGI」編集長	三重県伊勢市出身。伊勢市内の老舗和菓子店に勤務後、地元情報誌を発行する「伊勢文化舎」に入社し8年間編集員として活躍。現在、月兎舎季刊「NAGI」の編集長、三重県内の住まい、町並み、里山等について「モノ」でなく「ヒト」に焦点を合わせた特集を多数企画している。また、伝統産業・地場産業新たな魅力創出事業費補助金予備審査会委員（三重県）、みえセレクション採点者、三重県主催のシンポジウムでパネリストとして活躍。

たなか りさ	株式会社宣伝会議 取締役副社長兼編集室長	三重県津市出身。広告会社を経て1993年に宣伝会議入社。1995年から広告専門誌「宣伝会議」の編集長を務め、2007年から編集室長。企業の広報宣伝戦略やマーケティングトレンド分析を手がけ、行政や企業の広報宣伝のあり方をアドバイスしている。伊勢志摩サミット・ロゴマーク選考会審査委員、東京2020大会エンブレム委員会委員、三重県経営戦略会議委員、国土交通省社会資本整備審議会委員、中央環境審議会委員、日本郵便株式会社社外取締役などを歴任。
にしむら ひろひろ 西村 訓弘	三重大学副学長	三重県南伊勢町（旧南島町）出身。民間研究所、米国企業、大手外資系製薬企業の研究員などを経て、遺伝子解析技術の研究・開発に携わり、大学発バイオベンチャー企業の立ち上げに寄与。同ベンチャー企業の代表取締役社長を経た後、三重大学医学部特命教授、同大学大学院医学系研究科教授、2013年から現職。 三重県経営戦略会議委員、みえ産業振興戦略アドバイザリーボード委員を歴任。
まるかわ たつや 丸川 龍也	株式会社イストグラフ代表	三重県松阪市出身。独学でデザインを学び、2000年にデザイン事務所（株式会社イストグラフ）を設立。2008年にオリジナルブランド「丸川商店」を立ち上げ、主に、松阪市の伝統工芸品「松阪木綿」及び玉城町の伝統工芸「擬革紙」などの再興事業に注力し、現在、国内60社・海外4社にて販売中（平成2015年1月現在）。以降、三重県の様々な文化や食のデザインに取り組んでいる。 三重県産業功労者表彰の審査委員を歴任。

平成 28 年 2 月 17 日
伊勢志摩サミット三重県民会議事務局
開催支援課

国際メディアセンターについて

国際メディアセンター（IMC）は、約 5,000 名の国内・海外報道関係者が伊勢志摩サミットを取材することを念頭に置きつつ、外務省が、議長国として、総合的な取材拠点として準備・運営します。

1 開設期間（予定）

平成 28 年 5 月 25 日（水）から 5 月 28 日（土）まで

2 概要

報道関係者の作業スペースや国際放送センター等を備えるサミット取材のための総合施設。伊勢志摩サミットでは、三重県営サンアリーナに IMC の主要施設を設置するが、サンアリーナの既存施設では不足するスペース・機能を、仮設施設として整備する。なお、外務省から支出委任を受けた国土交通省が、仮設施設の建設を行う。

また、IMC では、取材拠点としての機能のみならず、政府・自治体による広報スペース、食事、内外装等を通じて、日本の魅力を世界に発信する予定。国内外合わせて約 5,000 名の報道関係者が記者登録することを想定。

3 仮設施設

仮設施設は鉄骨造 2 階建て延べ床面積 8,000 平方メートル。伊勢の街並みの黒壁など、地元の伝統的なデザインに加え、木の丸柱で囲まれた通路など、「和」を感じさせる演出により、世界各国のプレスを迎える情報発信拠点。

4 利用対象者

IMC へのアクセスが許可されるのは、政府発行の伊勢志摩サミット取材記者証 ID 所有者のみ。

5 参考事項

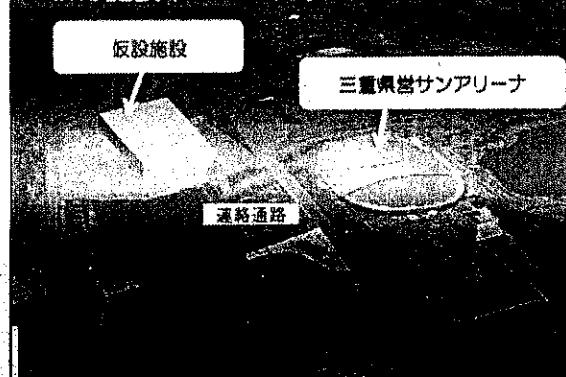
邦人・海外プレスを対象にシャトルバスが、外務省からの委託で IMC 運営会社によって運営される予定ですが、運営エリア、各地区の乗降ポイント、走行ルートおよびスケジュール等は決まっていない。

伊勢志摩サミット国際メディアセンター（IMC）仮設施設概要

国際メディアセンター

- ① 国際メディア・センターは、約5,000名の国内・海外報道関係者が伊勢志摩サミットを取材することを念頭に置きつつ、議長国として、総合的な取材拠点として準備・運営。
- ② 既存施設を最大限活用し、不足分を仮設。

IMC施設イメージ(案)



主要諸室の概要

名称	主な機能
国際報道室	国際報道団のための報道室
アメーティングルーム	国内外記者のためのレストラン・会場・記者会見のサービスを提供
日本語翻訳室	日本語翻訳室
国際ヨーロッパ会議室	外務省の報道担当官等が執務

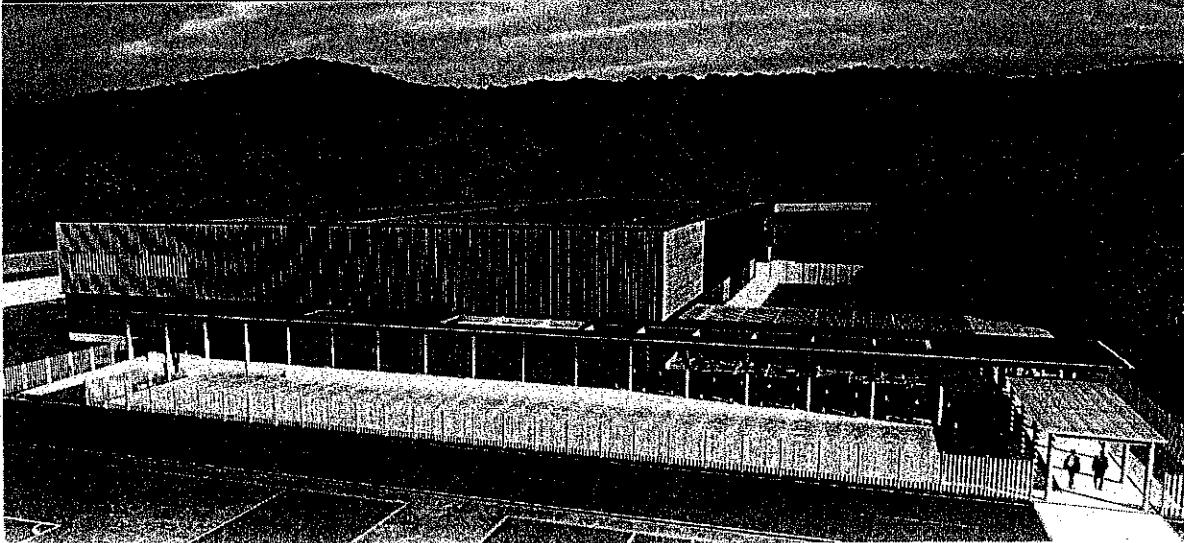
*国際ヨーロッパ会議室、国際放送センターは、サンアリーナの既存施設に設置。

伊勢志摩サミット 国際メディアセンター仮設施設

○「和」を感じさせる演出により、世界各国のプレスを迎える情報発信拠点

- ・伊勢の街並みの黒壁等、地元で用いられている伝統的なデザインの活用
- ・木材の縦格子により、建物の正面性を表現した端正な佇まい
- ・木の丸柱に囲まれた通路により、エントランスへの誘導
- ・広報スペースの展示や提供される食事等を通じた日本の魅力の発信

■ 国際メディアセンター仮設施設 完成予想図



平成28年2月17日
伊勢志摩サミット三重県民会議事務局
事業推進課

三重県情報誌及びプレス用ハンドブックの作成について

1 目的

伊勢志摩サミット開催に向けて、国内外報道関係者およびG7各国代表団等に、三重県の情報等を提供することで、三重県への理解を深めていただくとともにサミット開催に対する報道活動をサポートする地域情報も提供し、取材を通じた内外への情報発信を促進します。

2 事業の概要

(1) プロローグ版三重県情報誌の発行

「伝統と革新」を兼ね備えた三重県が誇る歴史、文化、伝統、食、先端技術を「三重県人」にフォーカスして紹介するプロローグ版三重県情報誌「CLOSE UP MIE」を発行し、飯倉公館で開催された「伊勢志摩サミット開催レセプション～三重へのいざない～」で各国大使館員、外国人報道機関関係者に既存のパンフレット等とファイルにセットして配布しました。今後は、プレスツアー等の機会を活用して国内外報道関係者等に配布します。(発行部数：日本語版2千部、英語版2千部)

(2) 三重県情報誌の発行

三重県を愛する方々へのインタビューを通じて、「伝統と革新」を兼ね備えた三重県を感じてもらうための三重県情報誌「和～THE SPIRIT OF WA～」を発行しました。

今後は、プレスツアー、G7各国先遣隊、サミット開催時に来県する国内外報道関係者等に配布します。(発行部数：日本語版8千部、英語版8千部)

(3) プレス用ハンドブックの発行

県内マップ、交通案内、食事、観光、お土産情報など、サミット開催時と開催後に国内外報道関係者等の県内移動、滞在、取材活動、県内観光をスムーズに行える情報を掲載し、記者等の取材をサポートします。なお、発行時期は、5月上旬を予定しています。

3 今後の進め方について

- ・伊勢志摩サミット三重県民会議のホームページに情報誌の内容を掲載することで、県外や海外に向けて発信します。
- ・プレス用ハンドブックの制作にあたっては、市町及び関係部局等と連携してより効果的な情報を掲載していきます。

平成28年2月17日

伊勢志摩サミット三重県民会議事務局

事業推進課

多様な主体における国際理解・国際交流事業について

1 目的

伊勢志摩サミットの開催を契機として、サミット参加国について学ぶ機会を設け、学校や市町、民間企業・団体等、多様な主体が、国際理解・国際交流を深める機会を提供します。特に次代を担う子どもたちが多文化を理解し、国際的な視野や感覚を身に付けるきっかけとなることをめざします。

2 事業の概要

(1) 国際理解・国際交流プログラム

県民の皆様に、サミット参加国について理解や交流を深めていただくため、園、学校、市町、企業、団体等、多様な主体が行う授業や講座等に、サミット参加国出身の在住外国人や留学生など、サミット参加国に詳しい方々を講師として派遣し、「国際理解・国際交流プログラム」を実施しています。(全90回実施予定、申込数196回分)

(2) 外務省事業「イチからわかる！サミット塾」の支援

外務省において実施する「イチからわかる！サミット塾」では、外務省の若手職員が講師となり、サミットや外交についてわかりやすい授業を、小・中・高等学校で実施します。県民会議では、当事業の取りまとめなど支援を行っています。(29校で実施予定、申込数34校)

*実施期間 平成27年12月上旬～平成28年3月下旬

(3) パネル展示等による参加国紹介

サミット及びサミット参加国紹介、過去に開催されたサミットの年表、過去に日本で開催されたサミット当時の世相を紹介するパネルを作成しました。平成27年9月5日の第1回伊勢志摩サミットフォーラム以降、イベント等で展示しています。

(4) イベントへの出展

平成27年11月14日～15日、紀北町東長島スポーツ公園で開催された「第10回子育て応援！わくわくフェスタ」にブース出展し、伊勢志摩サミットのPRやサミット参加国の紹介を行いました。特に、子どもを対象として、子ども向けパネルの展示に加えて、サミット参加国等の国旗を利用したパズルや折鶴、手作りカウントダウンボードの作成など、楽しみながら理解を深めていただく取組を展開し、出来上がったカウンタダウンボードを道の駅「紀伊長島マンボウ」に設置しました。

(5) その他

平成28年1月19日、津市との共催事業として、津市立南が丘中学校で在名古屋米国領事館首席領事及び津市長を講師として招き、「伊勢志摩サミット国際理解講演会」を開催しました。

3 取組方針

- (1) 学校や市町、民間企業・団体等、多様な主体による取組が実施されるよう働きかけを行い、一人でも多くの県民がサミット参加国や多文化に关心を持てるよう、全県的な取組とします。
- (2) 取組情報等を報道に資料提供することで、パブリシティによる情報発信を行うとともに、取組への士気を高めます。
- (3) 当事業を通じた取組を生かし、サミット終了後も継続する国際理解・国際交流事業の展開につなげていきます。

4 「国際理解・国際交流プログラム」の状況（実施済＋実施見込み）

（延べ回数）

	北勢	中南勢	伊賀	伊勢志摩	東紀州	計
幼稚園・保育所	11	5	1	7	0	24
小学校	15	9	3	4	1	32
中学校	6	1	0	5	0	12
高等学校	2	0	1	4	0	7
特別支援学校	3	1	0	1	0	5
一般	4	0	3	3	0	10
計	41	16	8	24	1	90

○申込196回分（H27.12.21申込終了）・実施済75回分（H28.2.16現在）

5 「イチからわかる！サミット塾」の状況（実施済＋実施見込み）

（校数）

	北勢	中南勢	伊賀	伊勢志摩	東紀州	計
小学校	5	1	1	8	0	15
中学校	2	0	0	3	0	5
高等学校	2	1	3	1	2	9
計	9	2	4	12	2	29

○申込34件（H27.11.30申込終了）・実施済24校（H28.2.16現在）

6 今後の進め方

学校や市町、民間企業・団体等と連携し、「国際理解・国際交流プログラム」及び外務省主催の「イチからわかる！サミット塾」を実施しているところですが、今後さらに、外務省と県民会議共催で「サミット塾」を実施し、より多くの主体で国際理解・国際交流に向けた取組が図られるよう努めます。

また、上記「2(3)」の参加国紹介のパネルを行政機関や民間企業等に貸出し展示していただくことで、全県的な国際理解・国際交流の取組につなげ、おもてなし機運の醸成を図ります。

平成28年2月17日
 伊勢志摩サミット三重県民会議事務局
 開催支援課

インフォメーション機能の整備について

1 目的

伊勢志摩サミットの開催に際して、移動・滞在・観光等のインフォメーション機能を充実させ、来県者（主に報道関係者）への支援を行うなど、世界各国からの来県者をおもてなしの心でご案内できるようインフォメーションセンターを設置する。

2 取組内容

(1) インフォメーションセンター設置場所と活動内容

① 主要拠点（運営主体：三重県民会議）

- ・国際メディアセンター
- ・滞在期間中の活動支援全般と三重県の情報発信

② 県内主要ターミナル（運営主体：各所在市町主体）

- ・JR 津駅、なぎさまち旅客ターミナル、松阪駅、伊勢市駅
- 近鉄宇治山田駅、近鉄五十鈴川駅、近鉄鳥羽駅、近鉄鵜方駅等
- ・宿泊先・国際メディアセンター等への移動支援と現地観光案内

③ 三重県外（運営主体：伊勢志摩サミット東海会議）

- ・中部国際空港、名古屋駅等
- ・現地への移動支援と三重県及び中部地域の情報発信

(2) 運営スタッフ（上記①②③は次の通り）

① 県民会議スタッフ、業務委託先スタッフ、外国語案内ボランティア

② 運営主体のスタッフと外国語案内ボランティア

③ 運営主体のスタッフ、県民会議スタッフ、外国語案内ボランティア

※センターを設置しない市町の観光案内所スタッフ等も実践研修の場として参加可能とする。

3 取組方針

(1) 三重県及びサミット関連の情報発信資料は各拠点で共通に使用できるものを県民会議で用意する。各拠点ごとの独自の資料、サービス内容は各運営主体が企画・手配する。

(2) 三重県内の拠点で必要となる外国語案内ボランティアは、県民会議が一括して募集し派遣する。

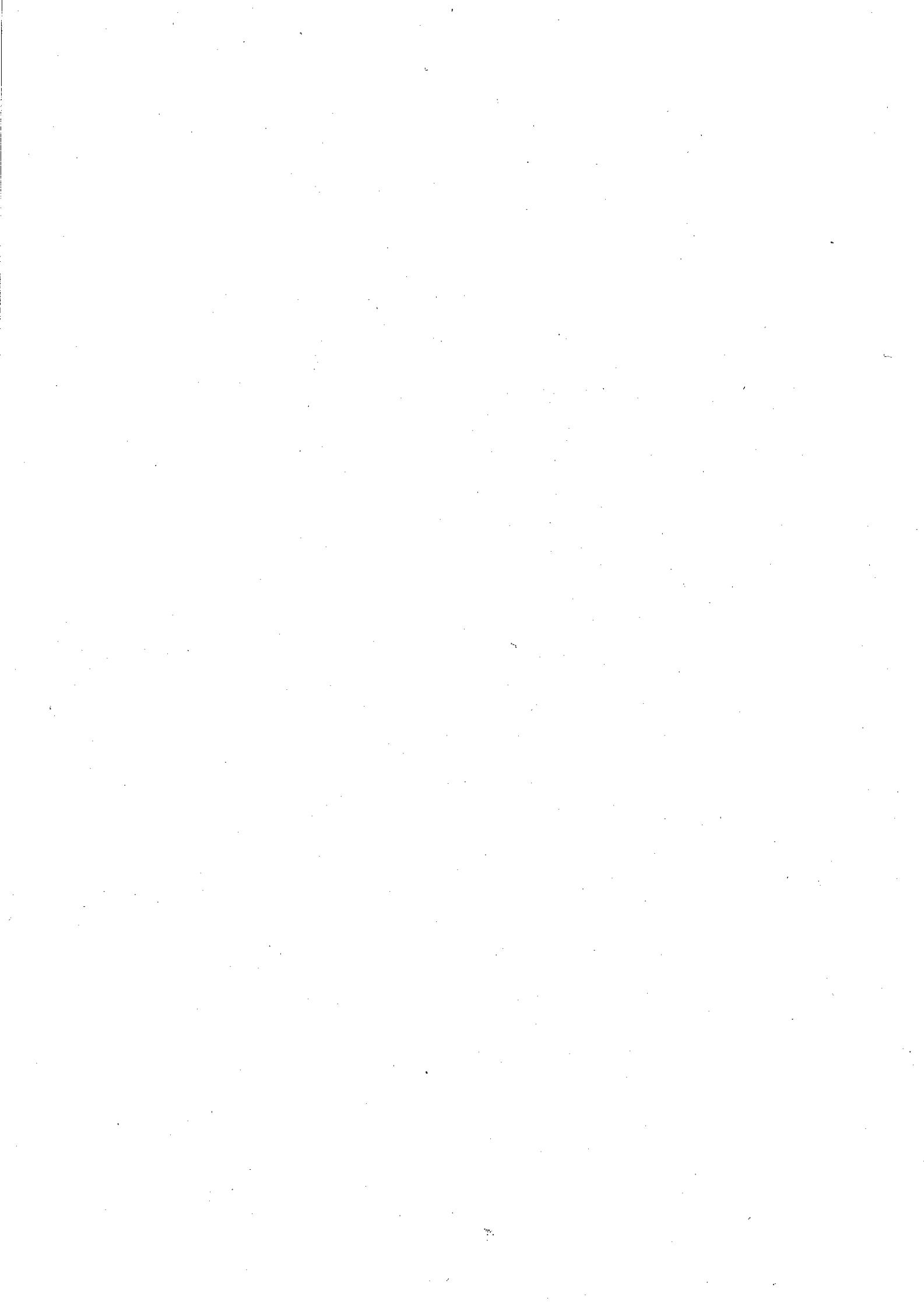
(3) インフォメーションセンタースタッフとして全拠点に共通して必要なサミット関連の知識や接遇方法等については、県民会議以外のスタッフについても合同で研修を行う。

4 今後のスケジュール

平成27年9月～平成28年4月 各運営主体との設置に係る調整

平成28年2月～4月 ボランティア・スタッフ研修

平成28年5月20日(金)～28日(土) [予定] インフォメーション設置



平成28年2月17日
伊勢志摩サミット三重県民会議事務局
開催支援課

外国語案内ボランティアについて

1 目的

伊勢志摩サミットの開催に際して、国際メディアセンターや県内主要駅等に設置するインフォメーションセンター等において、主に外国人報道関係者に対し、円滑な取材・報道活動を行っていただくため、外国語による交通や観光の案内、三重県の情報発信等の支援を行う。」

2 募集概要

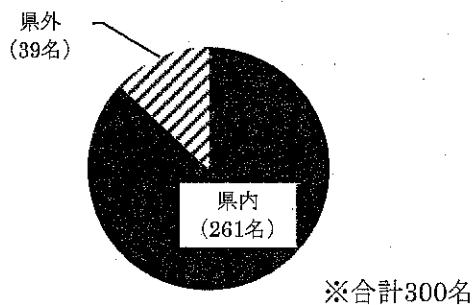
募集対象：英語による案内業務が可能な、県内外の一般、大学生、外国人留学生及び高校生等

募集期間：平成27年10月30日～12月10日

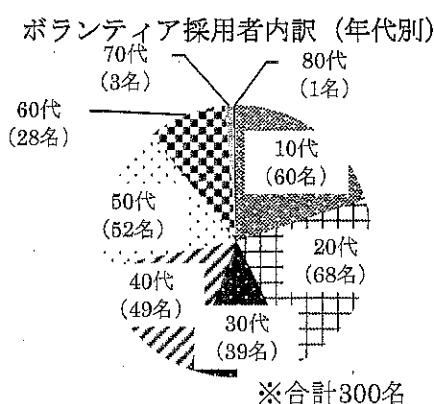
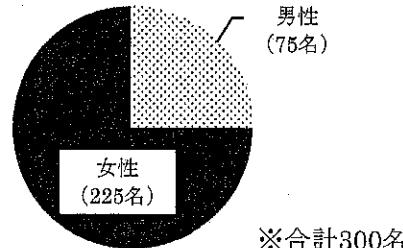
応募者数：1003人

採用者数：300人（当初予定200人程度）

ボランティア採用者内訳（居住地別）



ボランティア採用者内訳（性別）



英語に加え他言語にも対応可能な人材

フランス語	22名
ドイツ語	14名
イタリア語	7名
ロシア語	3名
スペイン語	23名
ポルトガル語	8名
中国語	23名
韓国語	4名
タイ語	3名
モンゴル語	1名
ヒンディー語	3名
インドネシア語	1名
タガログ語	2名
チベット語	1名
ビルマ語	1名
トルコ語	1名
ノルウェー語	1名

3 活動内容

ボランティア参加者は、語学研修及び接遇研修の受講を必須とし、今後の活動を見据えたレベルアップを図ります。その後、国際メディアセンターや県内主要駅等に設置されるインフォメーションセンター等において、移動・滞在・観光等の情報提供を通じて主に外国人報道関係者を支援します。

参加機会の拡充のため、当初計画に加え名古屋駅での活動を実施するとともに、外国人報道関係者宿泊先ホテルなどでの活動も検討中です。

4 今後の方針

- (1) ボランティア参加者及び応募者が、以後、県内で開催されるMICE、外国人観光客のおもてなし及び各種ボランティアにおいて引き続き活動できる仕組みづくりに取り組む。
- (2) インフォメーションセンター以外のサミット関連事業での外国語ボランティア派遣の要望についても対応する。(その際は採用者300人以外の者も派遣対象とする)
- (3) 企業単位でのボランティア協力申請をいただいた場合は活躍の機会を調整する。

※申請企業：日本トランスシティ㈱、㈱百五銀行、住友電装㈱

4 今後のスケジュール

2月 14 日、20 日	第1回語学研修（鈴鹿、伊勢）
3月 13 日、26 日	第2回語学研修（鈴鹿、伊勢）
4月 15 日、16 日、17 日	接遇研修（津、伊勢、鈴鹿）
5月 15 日	結団式（津）
5月 20 日～28日（予定）	インフォメーションセンター等での活動
6月 11 日	解散式（津）

伊勢志摩サミット三重県民会議会員様による
TripAdvisorへの口コミ投稿ご協力のお願い



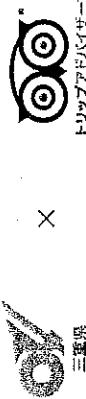
2016 / 2 / 17

「三重県×TripAdvisor外国人おもてなしプロジェクト」 の概要について

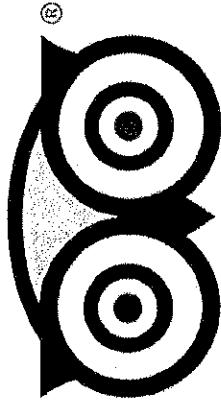
page 2

- ・ 世界最大の旅行口コミ情報サイトであるTripAdvisorと連携し、外国人旅行者に対する認知度及び満足度向上を目的とした取組
- ・ TripAdvisorが都道府県と連携した取組は全国初
- ・ TripAdvisorにおける満足度スコアの都道府県順位を平成26年の44位から平成27年度には20位以内に向上させることが目標（12月現在24位）

（参考）旅行先の情報収集に利用する媒体はインターネットが最も高い割合となつております。特に口コミが重要な情報源となつています。また、滞在中の旅行情報収集源はスマートフォンが最も高い割合となっています。（観光庁「訪日外国人消費動向調査」平成26年 年次報告書）



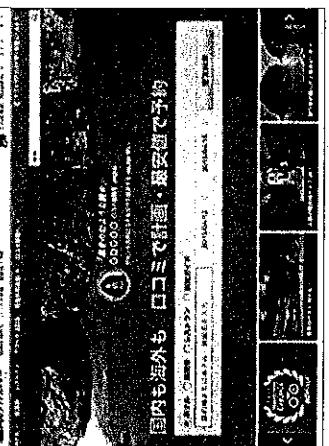
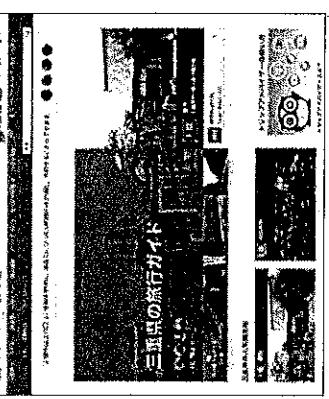
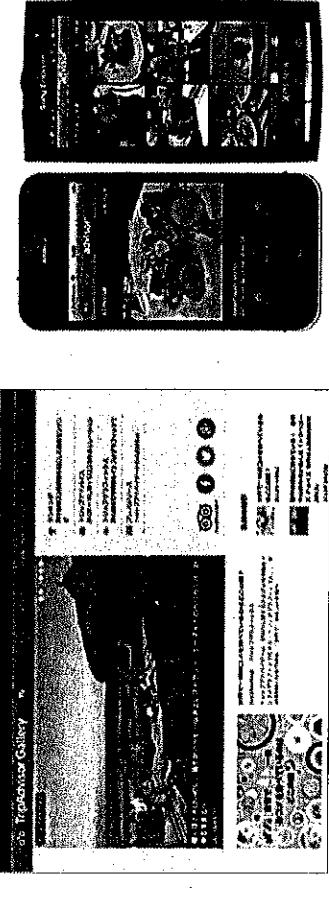
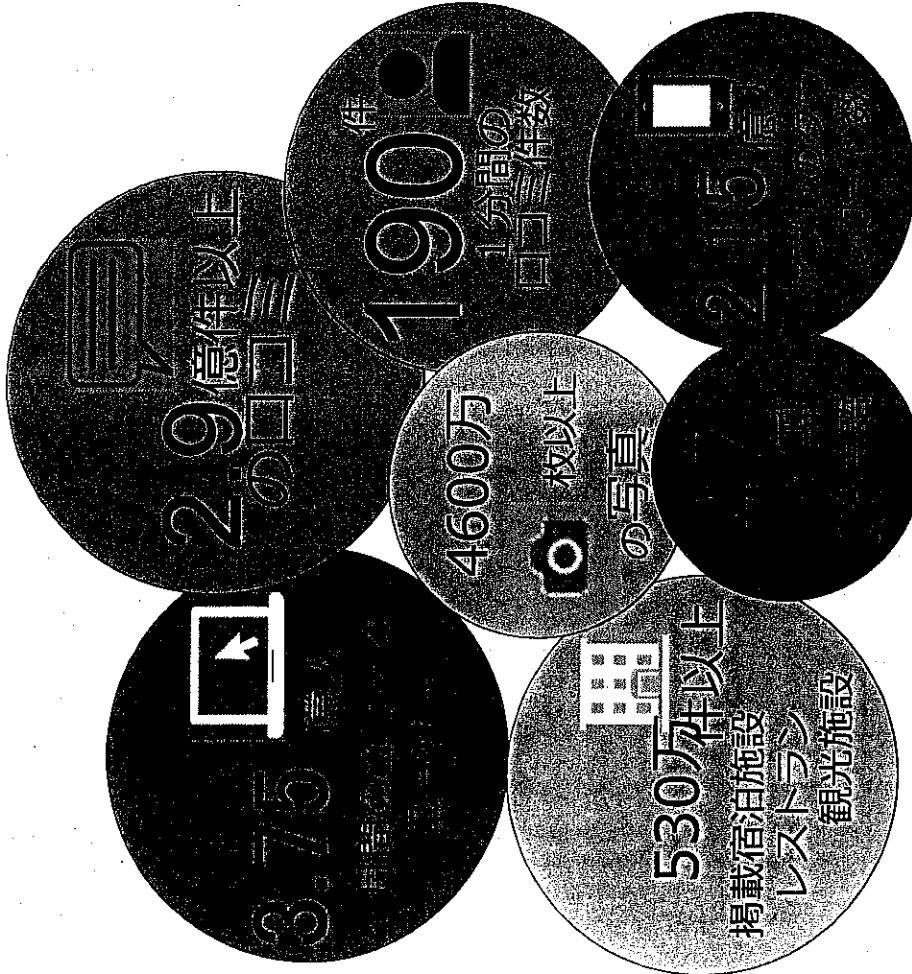
TripAdvisorについて



tripadvisor[®]

世界最大の旅行サイト*

旅を構成する3要素、「泊まる」(宿泊施設)、「食べる」(レストラン)、「遊ぶ」(観光施設・アクティビティ)に関して、旅先ごとに整理して、旅行者が自由に口コミを投稿・閲覧できる、旅の情報プラットフォーム。



*出典: comScore Media Metrix 2015年8月

© tripadvisor® × dentsu

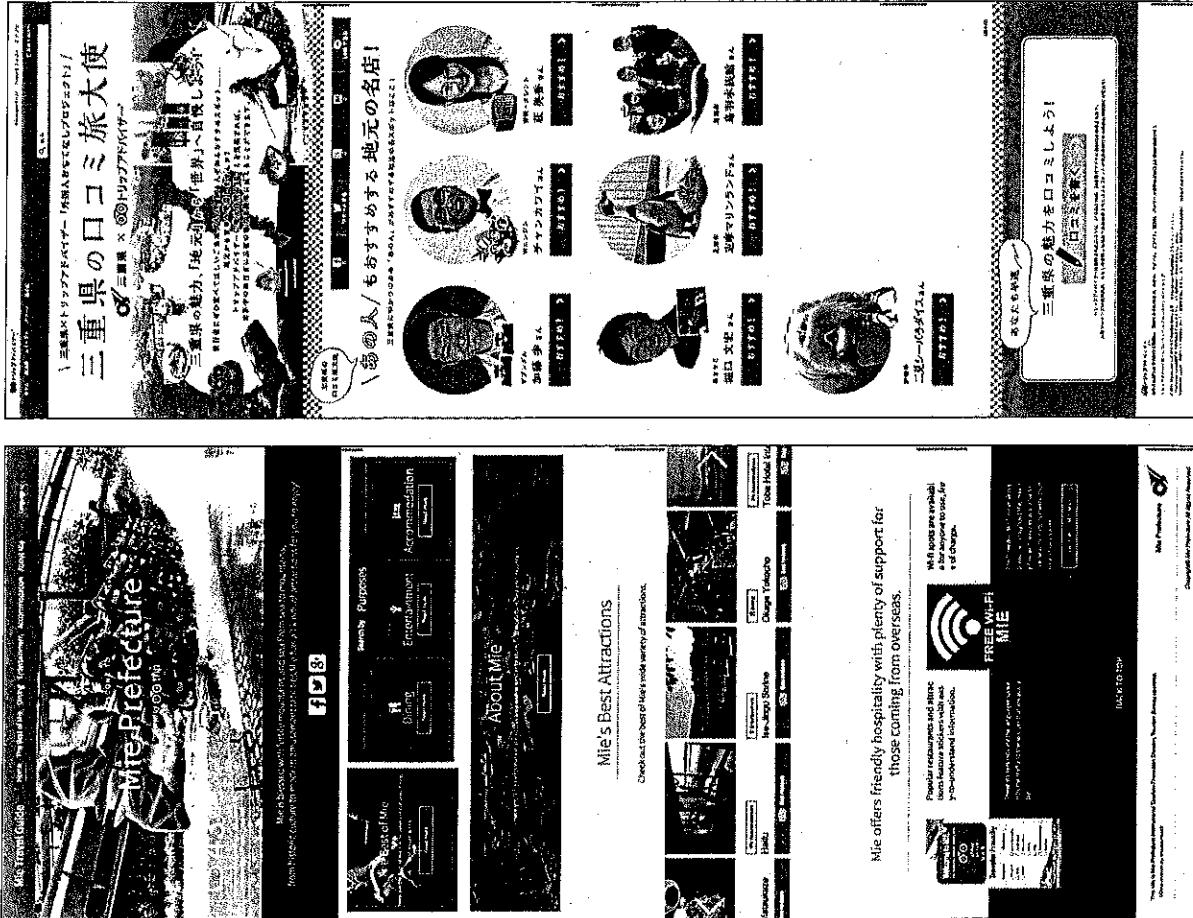
「三重県×TripAdvisor外国人おもてなしプロジェクト」の全像について

page 4

「三重県×TripAdvisor 外国人おもてなしプロジェクト」は、外国人旅行者に対する三重県の認知度および三重県における旅行満足度向上を目的とした施策です。

＜オンライン施策＞

- 特設Webサイト「Mie Travel Guide」の開設（6月～）
- TripAdvisor上でのオンライン広告（PRパートナー）（6月～）
- キーワード別LPページの開設（6月～）
(オンライン広告からのLPとして。LPページから「Mie Travel Guide」へ誘引)
- 【新】 TripAdvisor上特設ページ「三重県の口コミニ旅大使」の開設（2月15日～）
＜オフライン施策＞
- 口コミ促進カードの制作・配布（各施設が旅行者に向けて配布）（6月～）
- 情報提供ステッカーの制作・配布（各施設が店頭に貼付）（6月～）
- 【新】 Review Usカードデータの配布（各施設が店頭に掲示）（2月16日～）



Mie Travel Guide
(英語・中国語・繁体字・韓国語)

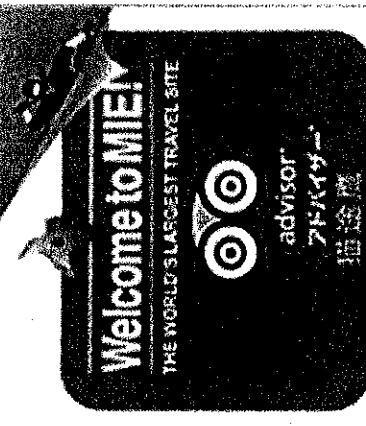
三重県の口コミニ旅大使 (日本語のみ)

© tripadvisor® × dots

「三重県×TripAdvisor外国人おもてなしプロジェクト」 の全像について

TripAdvisor×外国人おもてなしプロジェクト

page 5



Traveler Friendly

Available

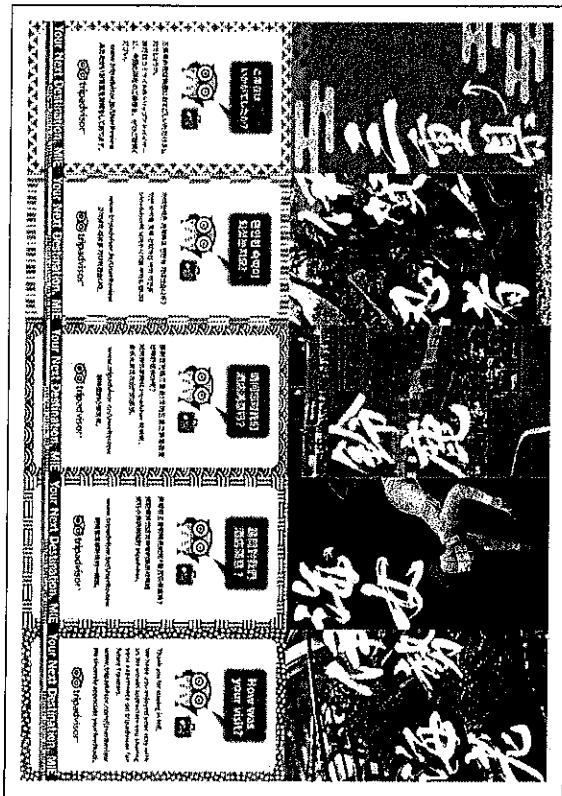
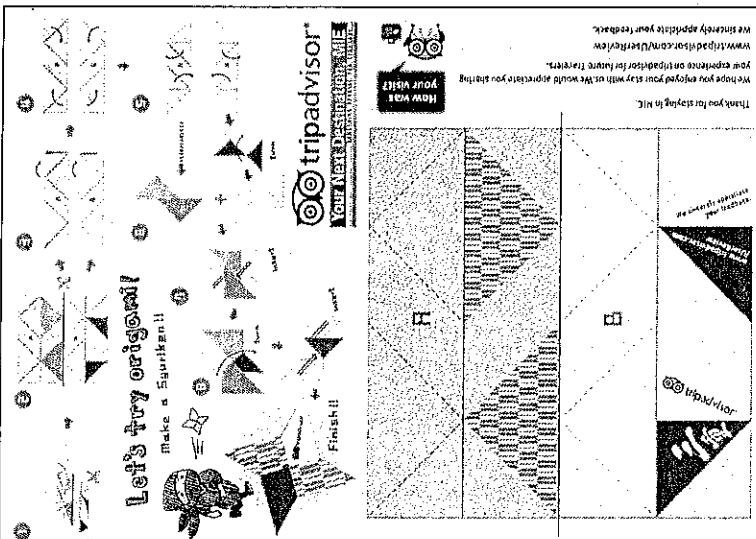
- Local Specialty
- Credit Card
- Photo Menu
- Wi-Fi
- Map
- Tax Free
- Travel Information

Language

- English
- 中文
- 韩语



情報提供ステッカー

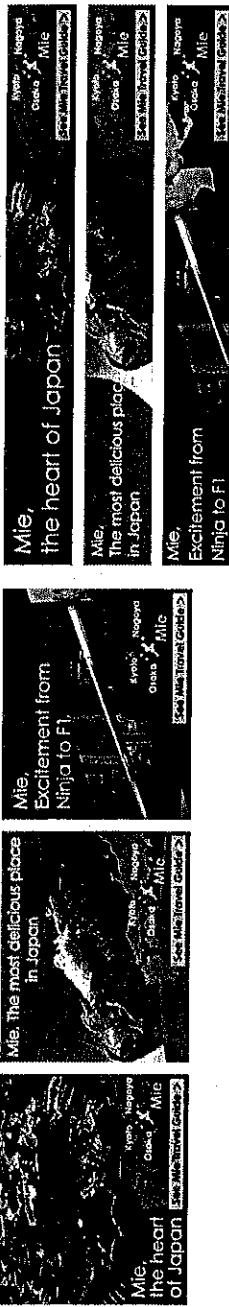


口コ三促進カード(2種)



Review Usカード

TripAdvisor上でのオンライン広告用
PRカード(4言語×6種)



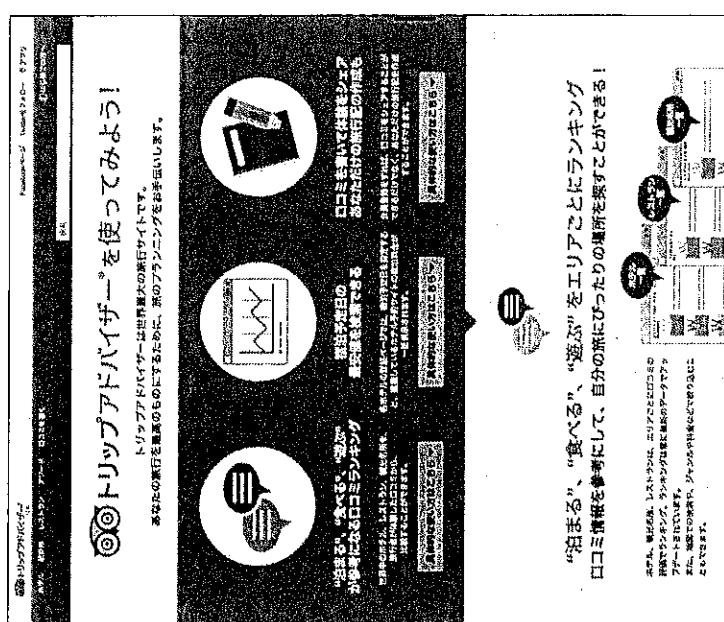
© tripadvisor® x DOTS

伊勢志摩サミット三重県民会議会員様へ TripAdvisorへの口コミ投稿ご協力のお願い

page 6

三重県では平成27年6月から、外国人旅行者に対する三重県の認知度および三重県における旅行満足度向上を目指すプロジェクト「三重県xTripAdvisor 外国人おもてなしプロジェクト」を実施しています。このプロジェクトでは TripAdvisor上の口コミをより多く集めることが重要なポイントとなってきます。日本人の日本語による口コミも世界28言語に翻訳され外国人が見ることができます。

ぜひ、伊勢志摩サミット三重県民会議会員の皆さんに、県民のサミット開催機運を盛り上げる取組の一つとして「三重の素晴らしい観光資源を口コミで自慢」していただき、三重県へのインバウンド増加に繋げていただければ幸いです。



三重県のロココミ旅大賞

あのひと / もおすすめする地元の名店！

Wエンジン
チャンカワイさん

ザブングル
加藤歩さん

あさりど
堀口文宏さん

志摩マリンランドさん

伊勢市
二見シーパラダイスさん

島羽水族館さん

新・タレント
萩 美香さん

口コミする内容については、「三重県のロココミ旅大使」ページもご参照ください。
<http://tg.tripadvisor.jp/mie/index.html>

三重の魅力を口コミで自慢しよう！

こちらのページで、TripAdvisorの使い方を簡単に知ることができます。
https://www.tripadvisor.jp/pages/first_visit.html